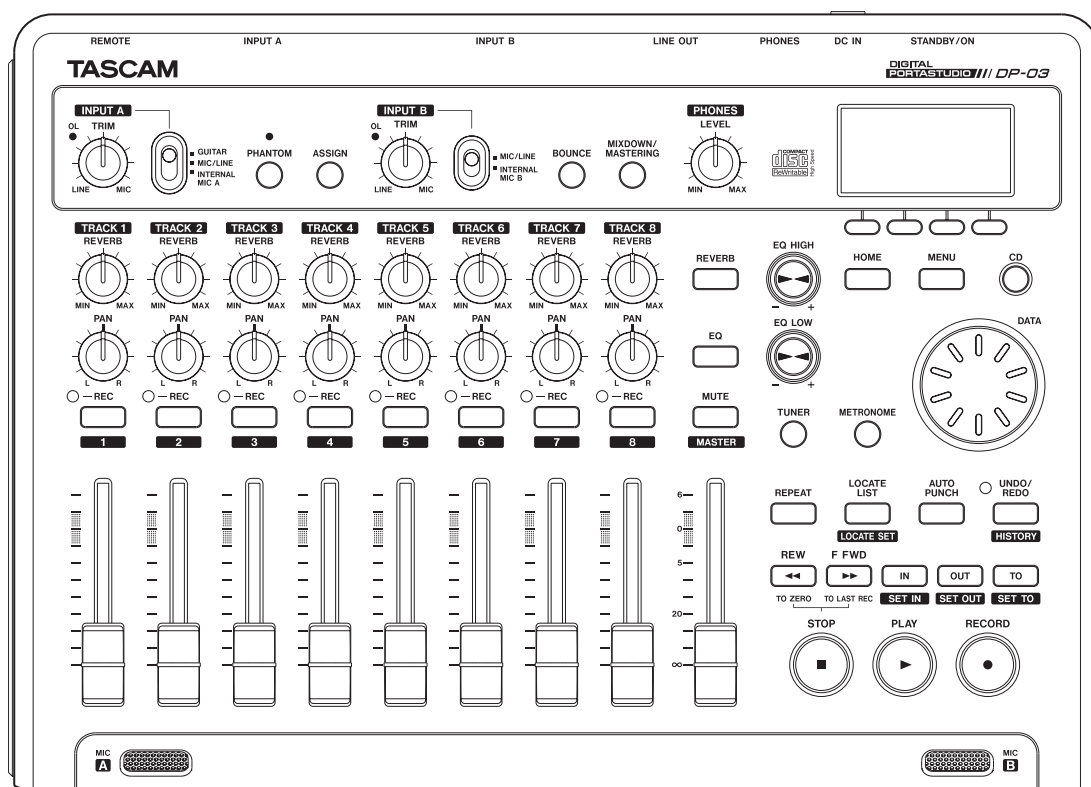
TASCAM

D01131001A

DP-03

Digital Portastudio

取扱説明書

安全にお使いいただくために

この取扱説明書の表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△ 記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⃠ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

	万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。
	万一機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	ACアダプターの電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センターに交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	ACアダプターの電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は、電源プラグを抜いてから乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	この機器を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の上に小さな金属物を置かないでください。中に入った場合は、火災•感電の原因となります。
	ACアダプターの電源プラグ、および電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
	ACアダプターの電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
	船舶などの直流（DC）電源には、接続しないでください。火災・感電の原因となります。

⚠警告

	この機器のカバーは、絶対に外さないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は、販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。
	この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の上に花びんや水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合は、火災・感電の原因となります。

⚠注意

	移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
	旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは、安全のため必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
	お手入れの際は、安全のためACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
	オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また、接続は指定のコードを使用してください。
	電源を入れる前には、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	この機器はコンセントの近くに設置し、ACアダプターの電源プラグに容易に手が届くようにしてください。
	この機器には、付属の専用ACアダプター（TASCAM PS-1225L）およびACアダプター用電源コードをご使用ください。それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。
	ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないように注意してください。 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪影響を与えることがあります。
	次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。 ・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所 ・湿気やほこりの多い場所 ・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所
	ACアダプターの電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
	ACアダプターの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
	付属の専用ACアダプター（TASCAM PS-1225L）およびACアダプター用電源コードを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。
	5年に一度くらいは、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。
	濡れた手でACアダプターの電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

目次

第 1 章　はじめに

このたびは、TASCAM Digital Portastudio DP-03をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。
また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト（http://www.tascam.jp/）からダウンロードすることができます。

本機の概要

本機は、SDカードを使って、同時最大2トラック、トータル最大8トラックのマルチトラック録音を行うことができます。さらに内蔵のミキサー機能を使ってマルチトラックをステレオにミックスダウンして、ステレオマスタートラックを作成することができます。
こうして作成されたステレオマスタートラックをCD-Rなどに書き込むことができるほか、USB接続したパソコンに転送することができます。さらに本機とパソコン間でのデータ転送が可能で、個々のトラックデータやステレオマスタートラックをパソコンにコピーしたり、ソングファイルをパソコンにバックアップすることができます。

- SDカードを記録媒体に採用し、CDドライブを搭載した8Track DIGITAL PORTASTUDIO
- 記録メディアのSDカードはSDHC規格に対応し、最大32GBまでの大容量に対応可能
- MTR機能：同時2Track録音＋8Track再生（44.1kHz、16ビット）
- 45mmフェーダーを8+1個装備（各トラックおよびマスターレベル調節用）
- 各トラックに独立したリバーブ、PAN調節用ボリューム、トラックセレクト（REC）ボタンを装備。
- 6.3mmTRS標準ジャックおよびファントム電源供給可能なXLR端子を2ch装備（標準ジャックとXLRの同時使用は不可）
- 内蔵ステレオマイクを搭載（標準ジャックまたはXLRと切り換え式）
- ギター入力（ハイインピーダンス対応）をサポート（INPUT Aのみ／標準ジャックおよびXLR、内蔵マイクと切り換え式）
- Graphics LCD（128dot x 64dot）装備（バックライト付き）
- 入力、再生各Trackに独立した2バンドのEQ（イコライザー）を装備
- 専用のマスタートラックにミックスダウン可能
- ミックスダウンしたマスタートラックにエフェクトをかけるマスタリング・エフェクト機能を装備
- EffectとしてReverbを搭載し、各再生トラックに独立したボリュームを装備。
- オートパンチイン／パンチアウト機能を装備
- トラックバウンス機能を装備
- COPY、MOVE、OPEN、CUT、SILENCE、CLONE、CLEAN OUTのトラック編集機能
- アンドゥ、リドゥ機能および、履歴によるアンドゥ、リドゥができるマルチアンドゥ（ヒストリー）機能を装備
- ロケートマーク機能を装備
- チューナー機能、メトロノーム機能を装備
- ミックスダウンしたマスタートラックからのオーディオCDの作成およびオーディオCDからトラックへの読み込みおよびオーディオCDの再生が可能
- CD-R ／ CD-RWディスクを使ってのソングのバックアップ、リストア（復元）が可能
- USB2.0でパソコンに接続し、SDカードのFAT領域のWAVEファイルおよびバックアップしたソングの移動やコピーが可能
- FootSW（別売：TASCAM RC-3F）によりパンチイン／アウト他、各種機能に対応した操作が可能（各スイッチへの機能の割り当ての変更が可能）

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。
なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。
付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体　x1
- ACアダプター（TASCAM PS-1225L）　x1
- ACアダプター用電源コード　x1
- SDメモリーカード（本体差し込み済）　x1
- 保証書　x1
- 取扱説明書（本書）　x1

注意

本機には、必ず付属の専用ACアダプター（TASCAM PS-1225L）とACアダプター用電源コードをご使用ください。また、付属のACアダプターとACアダプター用電源コードを他の機器に使用しないでください。故障、火災、感電の原因となります。

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「**MENU**ボタン」のように太字で表記します。
- 本機の►ボタンを「**PLAY【►】**ボタン」、■ボタンを「**STOP【■】**ボタン」、●ボタンを「**RECORD【●】**ボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を**“MENU”**のように“＿”で括って表記します。
- ディスプレーの下に並ぶ4つのボタンをファンクションボタンと呼び、左から順に**F1**、**F2**、**F3**、**F4**ボタンと表記します。
  また、各画面表示の下部に表示される機能を、ボタン名の後ろにカッコ付きで表記する場合があります。
  例：**F2“[EXEC]”**ボタン、**F4“[►]”**ボタン
- 「SDメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- 「CD-DA」形式のことを「オーディオCD」形式と表記する場合があります。また、オーディオCD形式のトラックを記録したCDを「オーディオCD」と表記する場合があります。

- 未使用のCD-R ／ CD-RWディスクまたは消去済みのCD-RWディスクを「ブランクCD」と表記する場合があります。
- パソコンのディスプレー上に表示される文字を《OK》のように《__》で括って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注 意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- SDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- Microsoft, Windows, Windows XP, Windows Vista, および Windows 7 は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Macintosh、iMac、Mac OS および MacOS X は、Apple Inc. の商標です。
- Pentium および Intel は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではございません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、又は、これらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。
弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

設置上の注意

- 本製品の動作保証温度は、摂氏5度～35度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。

  振動の多い場所。
  窓際などの直射日光が当たる場所。
  暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所。
  極端に温度が低い場所。
  湿気の多い場所や風通しが悪い場所。
  ホコリの多い場所。

- 本製品は、水平に設置してください。
- 放熱を良くするために、本製品の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本製品を置かないでください。

結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を痛めたり色落ちさせる原因となります。

SDカードについて

本機では、SDカードを使って記録や再生を行います。
使用できるカードは、512MB以上のSDカードおよびSDHCカードです。
TASCAMのウェブサイト（http://www.tascam.jp/）には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。

取り扱い上の注意

SDカードは、精密にできています。SDカードやSDカードスロットの破損を防ぐため、取り扱いにあたって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高い、あるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を乗せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- 電源オン状態でSDカードの抜き差しをしないこと。

CD（コンパクトディスク）について

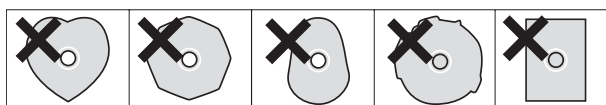
本機は、市販の音楽CDのほかに、オーディオCD（CD-DA）形式で記録したCD-RディスクやCD-RWディスクを再生することができます。また、8cmCDの再生も可能です。

取り扱い上の注意

- 録音には、以下のマークがあるコンパクトディスクをお使いください。

CD-R

CD-RW

- ディスクは、必ずレーベル面を上にして挿入してください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手で挟むように持ってください。
- 信号録音面（レーベルがない面）には、触れないでください。指紋や脂などが付着していると、記録するときにエラーの原因になることがあります。
- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布を使って中心から外側に向かって軽く拭いてください。
ディスクの汚れは音質低下の原因となりますので、いつもきれいに清掃して保管してください。
- ディスクの清掃に、レコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの化学薬品を使用することは絶対お止めください。表面が変質して再生不能になる恐れがあります。
- ディスクにラベルなどを貼ることはおやめください。盤面にセロハンテープやレンタルCDのシールなどをはがした跡があるもの、またはシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのまま本製品にかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
- 市販のCD用スタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因になります。
- ヒビが入ったディスクは、使用しないでください。
- ハート形や名刺形、八角形など特殊形状のディスクは、機器の故障の原因になりますので使用しないでください。

- いくつかのレコード会社より「コピーコントロールCD」と銘打った著作権保護を目的としたディスクが販売されています。これらは、CD規格に則っていないディスクも存在するため、本機で再生できない場合があります。
- CD-RディスクやCD-RWディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、ディスクメーカーに直接お問い合わせください。

CD-RディスクとCD-RWディスク

CD-Rディスクには、一度だけしか記録できません。記録したトラック（曲）を消去することもできません。ただし、ファイナライズ処理を施していないディスクで、ディスクの記録可能時間が残っている場合は、追加記録が行えます。記録が終わったCD-Rディスクは、ファイナライズ処理を施すことで、一般のCDプレーヤーでも再生できるようになります（一部のCDプレーヤーでは、再生できないことがあります）。
CD-RWディスクは、記録可能容量を使いきった場合でも、記録内容を消去すれば繰り返し使用することができます。
途中の曲だけを消去することはできません。
CD-RWディスクは、ファイナライズ処理を施しても、CD-RWディスクに対応したCDプレーヤーでしか再生できません。

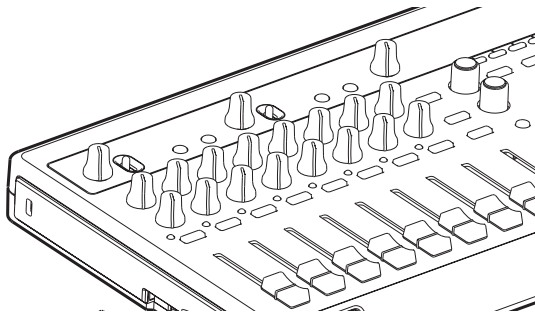
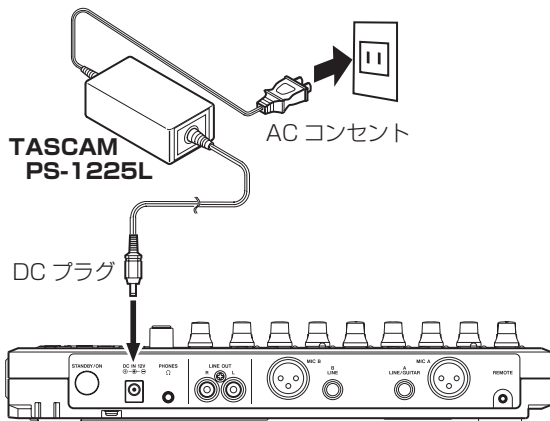
アフターサービス

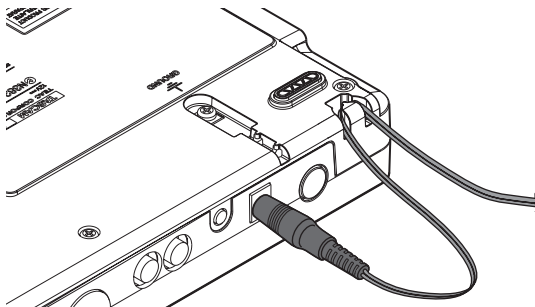
- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししてますので、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはティアック修理センターまでご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
    - 型名、型番（DP-03）
    - 製造番号（Serial No.）
    - 故障の症状（できるだけ詳しく）
    - お買い上げ年月日
    - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 当社は、この製品の補修用性能部分（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

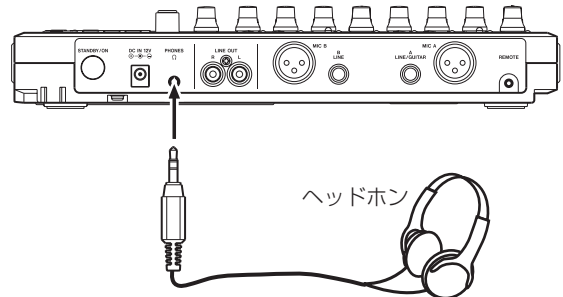
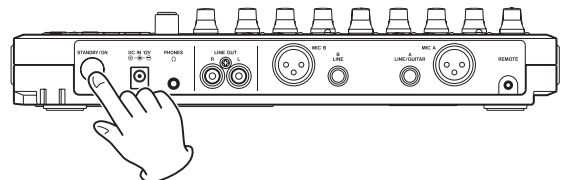
再生とミキシング

付属のSDカードに収録されているデモソングを再生してみましょう。なお、本機をお買い上げ時、デモソングが録音されているSDカードがあらかじめ挿入されていますが、以下に述べる手順では、SDカードを挿入する方法から説明を行います。

準備する

1. 左サイドパネルにあるSDカードスロットカバーを開け、SDカードスロットに付属のSDカードを挿入します。
   間違った向きに挿入して無理に力を加えると、SDカードやSDカードスロットを破損する可能性がありますのでご注意ください。

2. SDカードを挿入した後、SDカードスロットカバーを閉じます。
3. 付属の専用ACアダプター（TASCAM PS-1225L）を、リアパネルにあるDC IN 12V端子に接続します。

   本機のボトムパネルには、ACアダプターのコードを固定するための溝（コードホルダー）があります。使用中のコード抜けを防ぐため、接続するときはコードホルダーにコードを通してください。

注意

必ず付属の専用ACアダプター（TASCAM PS-1225L）とACアダプター用電源コードを接続してください。それ以外のものを使用すると故障、火災、感電の原因となります。

4. リアパネルにあるPHONES端子にヘッドホンを接続します。

5. リアパネルにあるSTANDBY/ONボタンを押し、電源をオンにします。本機が起動すると、ディスプレーに以下の画面（ホーム画面）が現れます。

［起動画面］

［ホーム画面］

注意

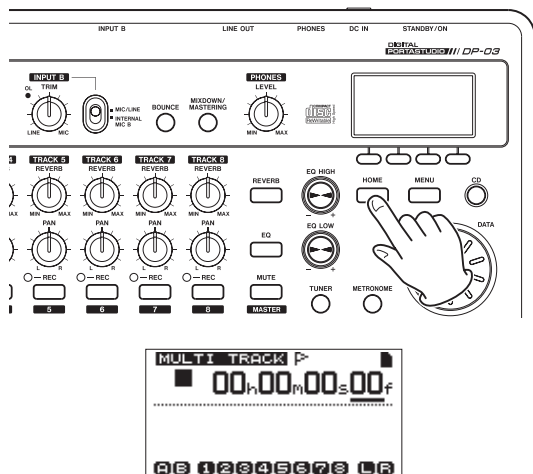
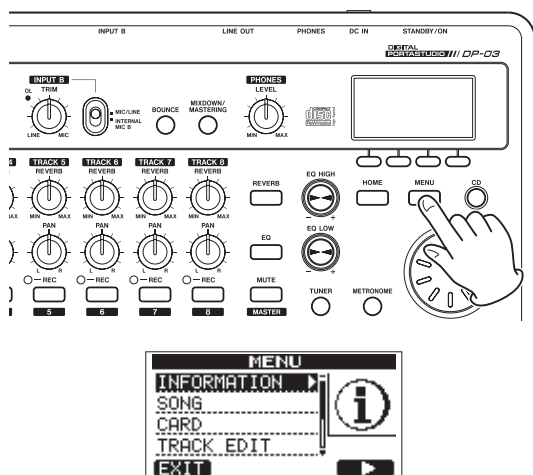
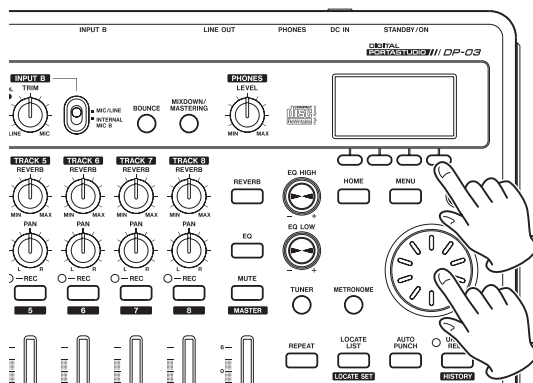
- 本機の電源がオンのときに、SDカードを抜き差ししないでください。SDカードを抜き差しするときは、必ず電源をオフ（スタンバイ状態）にしてから行ってください。
- 電源がオンのときにSDカードを抜き差しすると、前回のシャットダウン処理（今まで操作した各種情報の記録）以降、もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。
  なお、失われたデータや設定は、復活することができません。
- 電源がオンのときに、電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。
- 電源を入れる前には、ヘッドホンの音量および本機に接続しているモニターシステムのボリュームを最小にしてください。

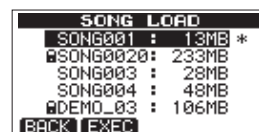
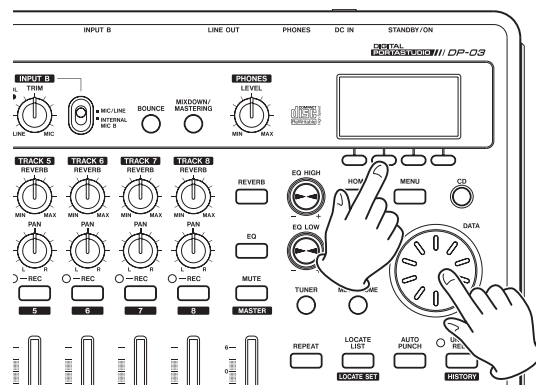
ヒント

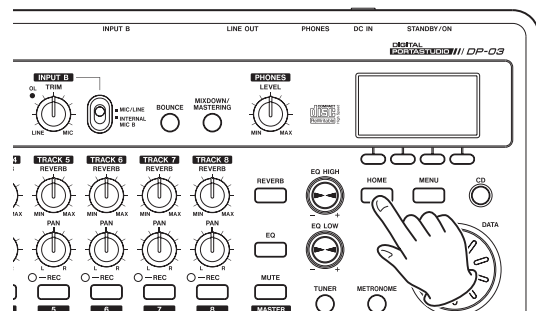
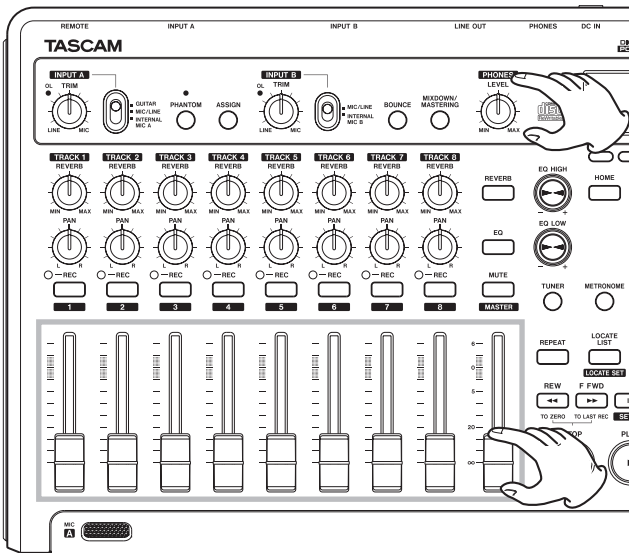
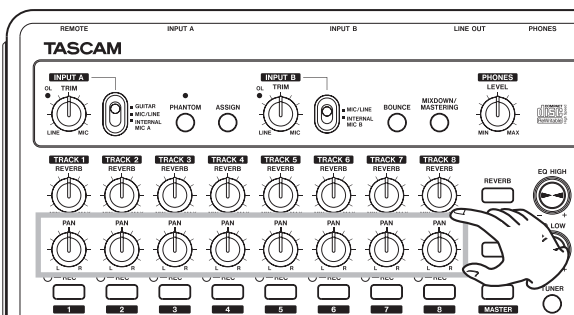
LINE OUT端子にパワードモニタースピーカーまたはアンプ／スピーカーシステムを接続することにより、スピーカーを使ってモニターすることもできます。

デモソングを聴く

本機に付属のSDカードには、あらかじめデモソングが収録されています。このデモソングを使って、再生、ミキシングの基本を体験してみましょう。

1. HOMEボタンを押して、ホーム画面を表示します。

2. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。

3. DATAホイールを使って**"SONG"**メニュー項目を選択（反転表示）し、F4**"[►]"**ボタンを押します。

"SONG"メニュー画面が表示されます。

4. DATAホイールを使って**"LOAD"**項目を選択（反転表示）し、F4**"[►]"**ボタンを押します。
   "SONG LOAD"画面に進み、ソングリストが表示されます。

5. DATAホイールを使って**"DEMO_03"**を選択（反転表示）し、F2**"[EXEC]"**ボタンを押します。

デモソングがロードされ、**"SONG"**メニュー画面に戻ります。

6. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

7. PLAY【►】ボタンを押して、TRACK1 ～ 8のトラックフェーダー、MASTERフェーダー、PHONES LEVELつまみを上げていくと、デモソングが聞こえてきます。
   MASTERフェーダーは、TRACK1 ～ 8の音量をまとめて調節します。MASTERフェーダーは、0dBの位置が標準位置です。
   TRACK 1 ～ 8のトラックフェーダーを使ってトラック間のバランスを調節します。
   最終的なモニターの音量は、PHONES LEVELつまみを使って調節します。

8. TRACK 1 ～ 8のPANつまみを使って、トラック信号のステレオ定位を設定することができます。

ヒント

- STOP【■】とREW【◄◄】[TO ZERO] ボタンを同時に押すと、ソングの先頭（ZEROポイント）に戻ります（TO ZERO機能）。
- メニュー操作中に、ボタン操作を間違えて別の画面が表示されている場合は、HOMEボタンを押すことによりホーム画面に戻ります。

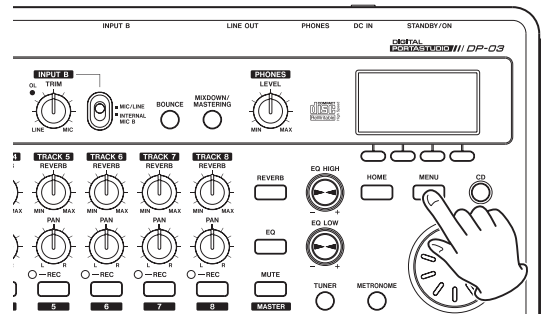
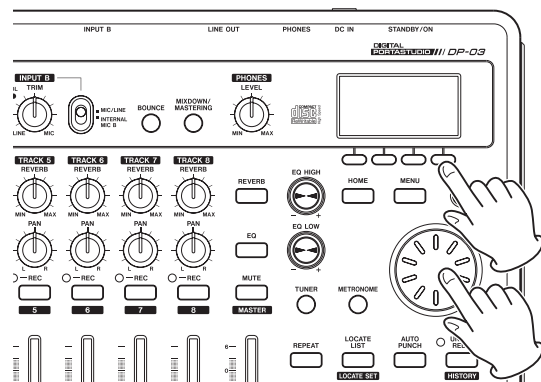
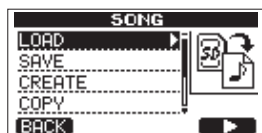
録音からマスタリング

マルチトラックレコーディングを体験してみましょう。
以下の例では、エレキギターを使ってリズムギターパートをトラック1、リードギターパートをトラック2に録音した後、内蔵マイクを使って歌をトラック3に録音し、ステレオにミックスダウンを行うまでの手順を説明します。
なお、前項の「再生とミキシング」に従って、本機には、すでにモニター機器が接続され、本機が起動し、SDカードが挿入されていることを前提にします。

ヒント

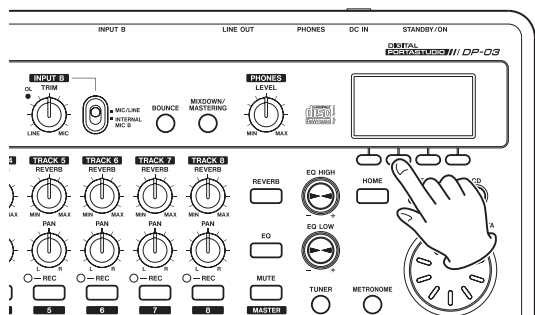
以下の例では、内蔵マイクを使って歌を録音しますが、リアパネルにあるINPUT A端子またはINPUT B端子に外部マイクを接続して録音することもできます。

新しいソングをつくる

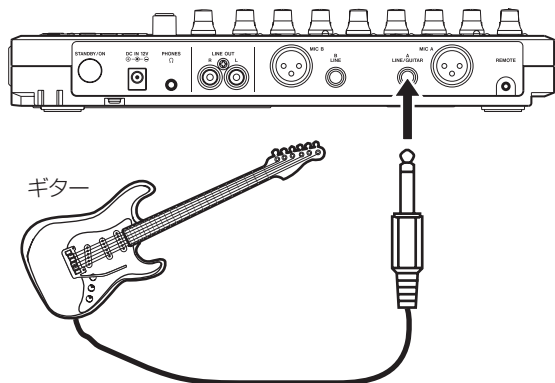
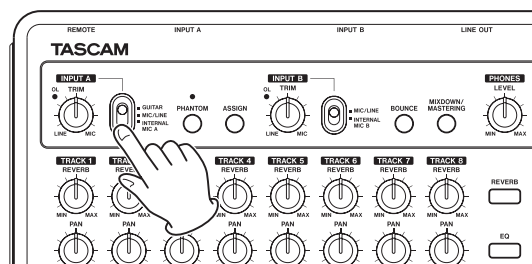
1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。

2. DATAホイールを使って**"SONG"**メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 **"[►]"**ボタンを押します。

"SONG" メニュー画面が表示されます。

3. DATAホイールを使って **"CREATE"** 項目を選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"** ボタンを押します。
"SONG CREATE" 画面が表示されます。

作成されるソングには、あらかじめ **"SONG***"** というソングの名前（タイトル）が付けられています（***は番号、上の画面例では **"SONG002"**）。

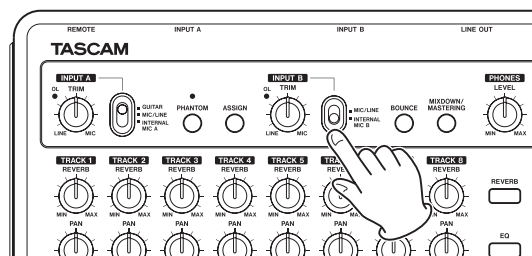
4. 必要に応じてソングの名前（タイトル）を編集します。（ → 34ページ「名前の編集」）

5. F2 **"[EXEC]"** ボタンを押します。
現在ロードされているソングが保存され、新しいソングが作成されます。

6. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

入力ソースを接続、設定する

1. リアパネルにあるINPUT A端子にエレキギターを接続します。

2. INPUT AスイッチをGUITARに設定します。

ヒント

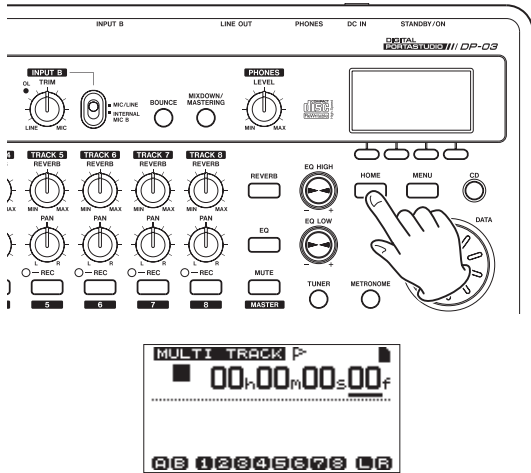
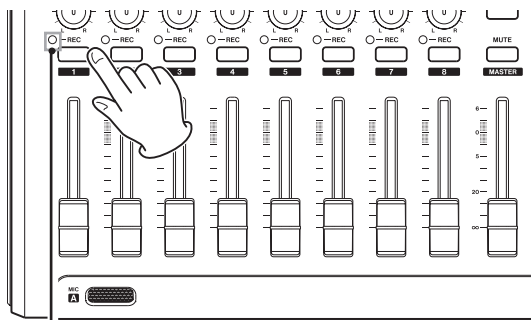
プリアンプ内蔵のエレアコギターやアクティブタイプのエレキギターを接続する場合や、エレキギターと本機の間にエフェクターなどを接続する場合は、INPUT AスイッチをMIC/LINEに設定します。

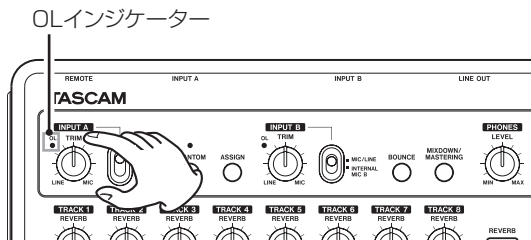
3. INPUT BスイッチをINTERNAL MIC Bに設定します。

これで、フロントパネルにある右側の内蔵マイク（MIC B）がINPUT Bの入力ソースになります。

ギターをTRACK 1の録音ソースにする

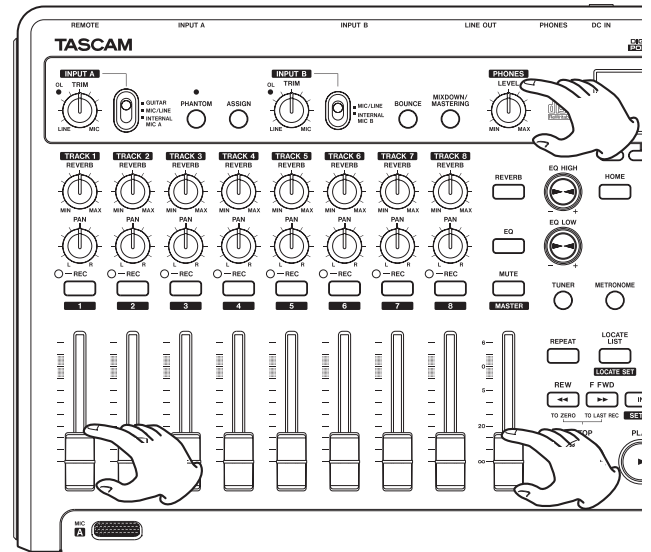
ASSIGNボタンを押して表示される **"INPUTASSIGN"** 画面の初期設定では、TRACK 1、3、5、7の録音ソースは **"A"**（INPUT A）、TRACK 2、4、6、8の録音ソースは **"B"**（INPUT B）に設定されています。（ → 39ページ「入力をアサインする」）
上記（「入力ソースを接続、設定する」）の入力設定で、INPUT Aの入力ソースをギター、INPUT Bの入力ソースを内蔵マイク（INTERNAL MIC B）に設定しましたので、この状態でギターをTRACK 1、3、5、7に、INTERNAL MIC BをTRACK 2、4、6、8に録音することができます。したがって、この手順例では入力のアサイン設定を変えずに、ギターをTRACK 1に録音することができます。

入力レベル調節とモニター

1. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

2. TRACK 1のRECボタンを押します。
   TRACK 1のRECインジケーターが点滅し録音待機状態になります。

TRACK 1 RECインジケーター

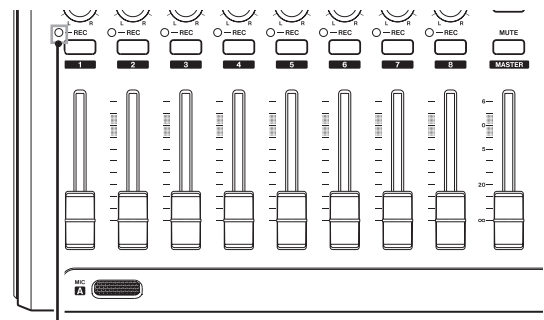
3. INPUT AのTRIMつまみを使って、ギターの入力レベルを調節します。いちばん大きい音のときにINPUT AのOLインジケーターが点灯しないようにTRIMつまみを設定します。
   TRIMつまみを下げていってもOLインジケーターが点灯する場合は、ギター信号自体が大きすぎますので、ギターの出力レベルを下げてください。

OLインジケーター

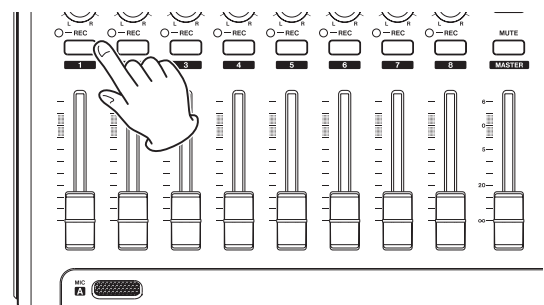
ギターを弾くと、ディスプレーの“A”（INPUT A）と“1”（TRACK 1）のレベルメーターに入力レベルが表示されます。

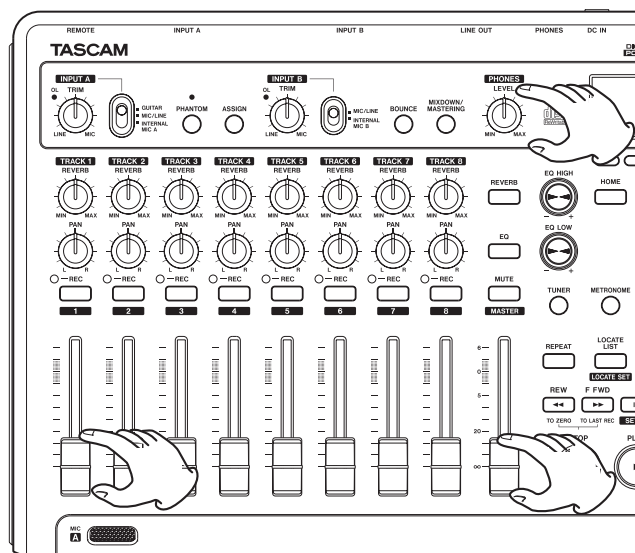
TRACK 1のトラックフェーダーとMASTERフェーダーとPHONES LEVELつまみを上げると、ヘッドホンからギターの音が聞こえ、ディスプレーの“L”と“R”のレベルメーターが振れます。

メモ

- TRACK 1のPANつまみを使ってモニター音の定位を設定する事ができます。
- TRACK 1のRECインジケーターが消灯しているときは、入力が聞こえません。

TRACK 1にギターを録音する

1. RECORD【●】ボタンを押しながらPLAY【▶】ボタンを押して録音を開始し、ギターを演奏します。
   TRACK 1のRECインジケーターが点滅から点灯に変わります。

TRACK 1 RECインジケーター

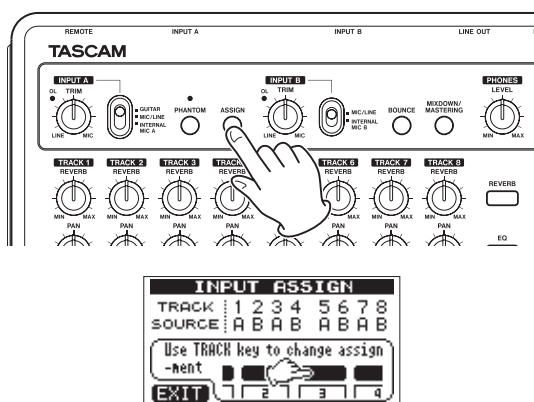
2. 演奏が終了したらSTOP【■】ボタンを押して、録音を停止します。
3. TRACK 1のRECボタンを押して、RECインジケーターを消灯します。

再生してみる

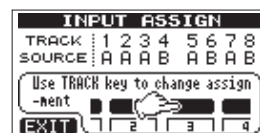
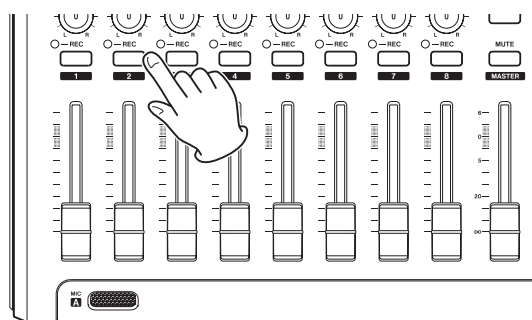
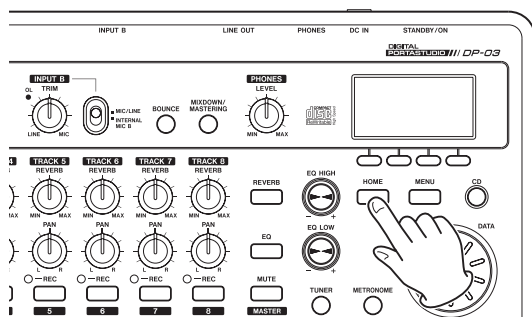
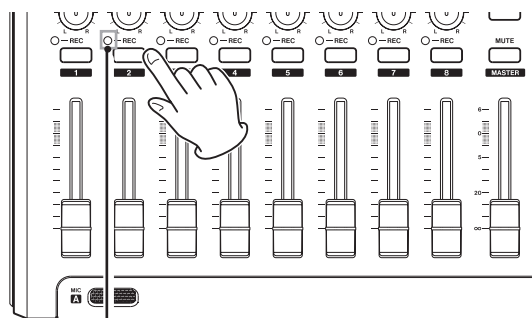
1. ソングの先頭（ZEROポイント）に戻すには、STOP【■】ボタンを押しながらREW【◄◄】[TO ZERO] ボタンを押します（TO ZERO機能）。
2. PLAY【►】ボタンを押して、録音したTRACK 1を再生します。
3. TRACK 1のトラックフェーダーとMASTERフェーダーを使って、再生モニターのレベルを調節します。最終的なモニターの音量は、PHONES LEVELつまみを使って調節します。

ヒント

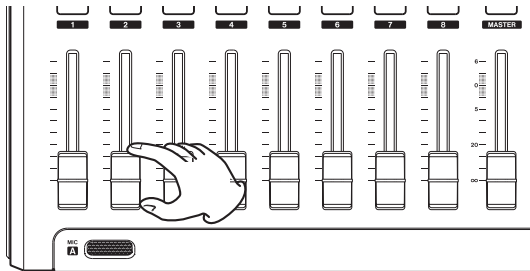
TRACK 1のPANつまみを使って、トラック信号のステレオ定位を設定することができます。

TRACK 2にギターを録音する

TRACK 1のリズムギターを聞きながら、TRACK 2にリードギターを録音してみましょう。
以下の手順でTRACK 2の録音ソースを変更します。

1. ASSIGNボタンを押して、**"INPUT ASSIGN"** 画面を表示します。

録音TRACKごとに、録音ソースにする入力（INPUT Aまたは INPUT B）を設定します。
初期設定では、TRACK 1、3、5、7の録音ソースとしてINPUT A（**"A"**）が、TRACK 2、4、6、8の録音ソースとしてINPUT B（**"B"**）がアサインされています。

2. TRACK 2のRECボタンを押して、**"TRACK 2"** の **"SOURCE"** を **"A"** に設定します。

3. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

4. TRACK 2のRECボタンを押します。
   RECインジケーターが点滅し、録音待機状態になります。
   ギターを弾くと、ディスプレーの **"A"**（INPUT A）と **"2"**（TRACK 2）のレベルメーターに入力レベルが表示されます。

TRACK 2 RECインジケーター

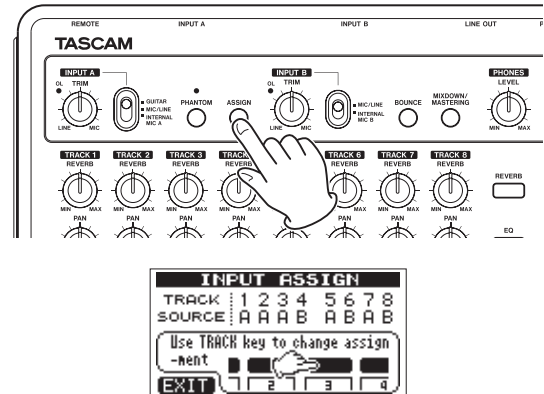
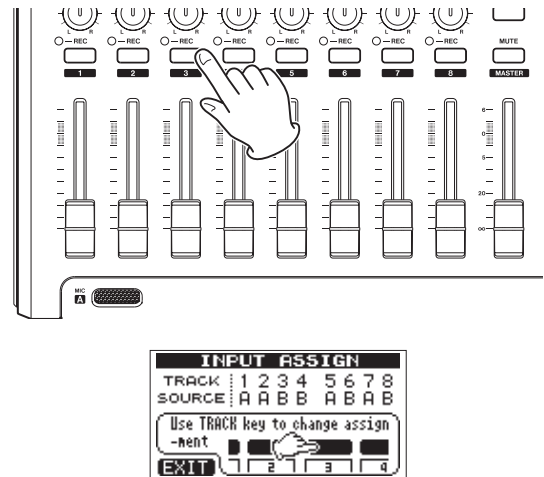
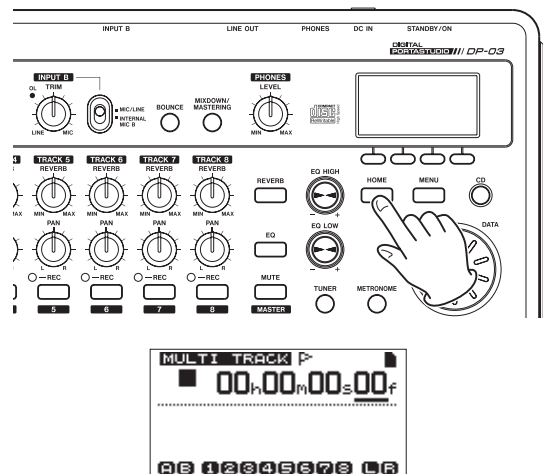
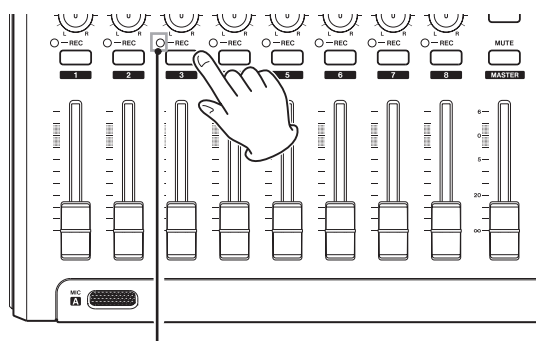
5. ソングの先頭（ZEROポイント）に戻してからレコーダーを頭から再生し、録音されているリズムギターに合わせて、リードギターを演奏してみます。
TRACK 2のトラックフェーダーを上げると、ヘッドホンから、TRACK 1の再生音と入力しているギターの音が聞こえます。

6. 必要に応じて、TRACK 1 ／ 2のトラックフェーダーおよびPANつまみ、MASTERフェーダー、PHONES LEVELつまみ使って、モニターのレベルやバランスを調節します。

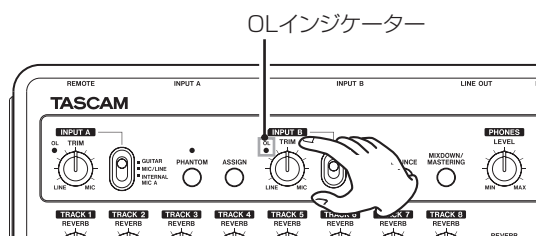
7. 曲の先頭に戻し、RECORD【●】ボタンを押しながらPLAY【▶】ボタンを押して録音を開始し、リードギターを演奏します。
RECORD【●】ボタンが赤く点灯し、TRACK 2のRECインジケーターが点滅から点灯に変わります。

8. 演奏が終了したらSTOP【■】ボタンを押して、録音を停止します。

9. TRACK 2のRECボタンを押して、RECインジケーターを消灯します。

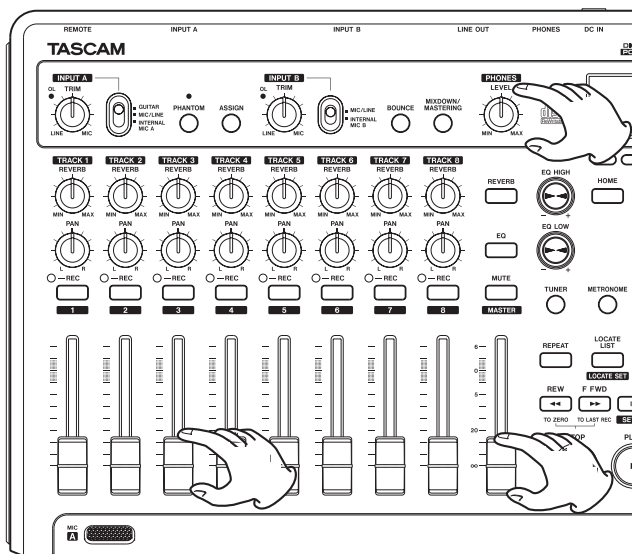
TRACK 3にボーカルを録音する

1. ASSIGNボタンを押して、**"INPUT ASSIGN"** 画面を表示します。

2. TRACK 3のRECボタンを押して、**"TRACK 3"** の **"SOURCE"** を **"B"** に設定します。

3. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

4. TRACK 3のRECボタンを押します。
   RECインジケーターが点滅し、録音待機状態になります。

TRACK 3 RECインジケーター

5. INPUT BのTRIMつまみを使って、マイクの入力レベルを適正に調節します。
   いちばん大きい音のときにINPUT BのOLインジケーターが点灯しないようにTRIMつまみを設定します。

OLインジケーター

内蔵マイクのMIC Bに音を入れると、ディスプレーの“B”のレベルメーターに入力レベルが表示さます。

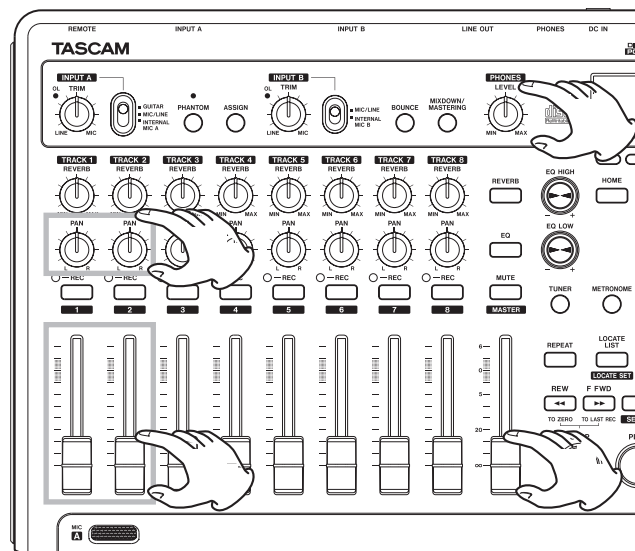
TRACK 3のトラックフェーダーとMASTERフェーダーとPHONES LEVELつまみを上げると、ヘッドホンからマイクの音が聞こえます。

メモ

TRIMつまみを下げていってもOLインジケーターが点灯するときは、マイク信号自体が大きすぎます。このような場合には、音源をマイクから遠ざけるか、あるいは音源の音量を下げてください。

注意

マイクを使う場合は、必ずヘッドホンを使ってモニターしてください。スピーカーを使ってモニターを行うとハウリングを起こす可能性があります。

6. 曲の先頭に戻し、レコーダーを頭から再生し、録音されているリズムギターとリードギターに合わせて、歌ってみます。
   ヘッドホンから、TRACK 1、TRACK 2のギター再生音および歌が聞こえます。

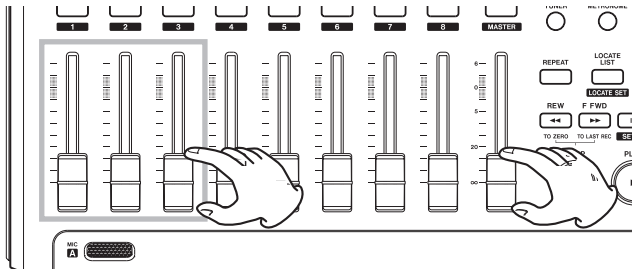
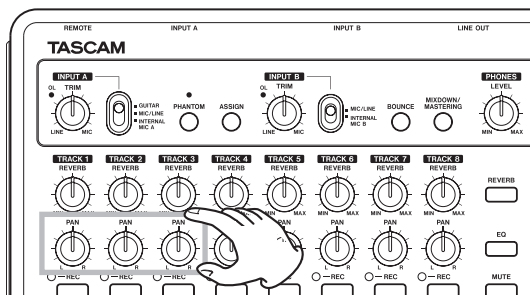
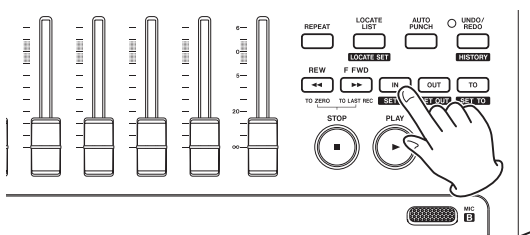
7. 必要に応じて、TRACK 1とTRACK 2のトラックフェーダーおよびPANつまみ、MASTERフェーダー、PHONES LEVELつまみを使って、モニターのレベルやバランスを調節します。

8. 曲の先頭に戻し、RECORD【●】ボタンを押しながらPLAY【►】ボタンを押して録音を開始し、歌を歌います。
   RECORD【●】ボタンが赤く点灯し、TRACK 3のRECインジケーターが点滅から点灯に変わります。

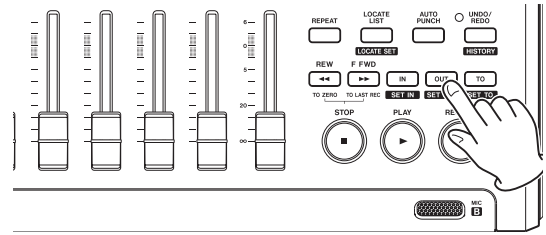
9. 演奏が終了したらSTOP【■】ボタンを押して、録音を停止します。

10. TRACK 3のRECボタンを押して、RECインジケーターを消灯します。

ミックスダウンする

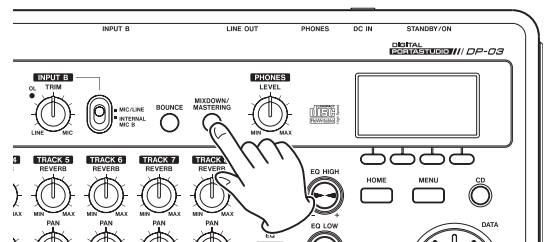
録音が終了したら、ミックスダウンを行いステレオマスタートラックを作成します。

1. TRACK １～3のトラックフェーダーを使って、レベルとバランスを調節します。全体のレベルは、MASTERフェーダーを使って調節します。

2. TRACK １～3のPANつまみを使って、ステレオの定位を設定します。
   ディスプレーの“L”と“R”のレベルメーターを監視しながら調節します。

3. INポイントを設定します。
   INポイントからOUTポイントまでの範囲がステレオマスタートラックになります。
   ソングを再生し、ステレオマスタートラックを開始したい位置でIN [SET IN] ボタンを長押しします。
   ポップアップメッセージ **“SET IN !”** が表示されます。

   長押しを開始した位置がINポイントとして設定され、ミックスダウンの開始点になります。

4. OUTポイントを設定します。
   ソングを再生し、ステレオマスタートラックの終了したい位置でOUT [SET OUT] ボタンを長押しします。
   ポップアップメッセージ **“SET OUT !”** が表示されます。

   長押しを開始した位置がOUTポイントとして設定され、ミックスダウンの終了点になります。

ヒント

停止中にIN [SET IN] ボタンまたはOUT [SET OUT] ボタンを長押ししても、INポイントまたはOUTポイントを設定することができます。

5. MIXDOWN/MASTERINGボタンを押します。

ポップアップメッセージ **“Mixdown !”** を表示した後、本機のレコーダーモードが **“MIXDOWN”** モードに切り換わり、ホーム画面に戻ります。

メモ

ミックスダウンモードのときは、ホーム画面左上のバーに **“MIXDOWN”**（反転表示）が表示されます。

6. RECORD【●】ボタンを押しながらPLAY【►】ボタンを押します。
   ステレオマスタートラックの録音が始まります。
   OUTポイントまで来ると、自動的に録音を終了します。

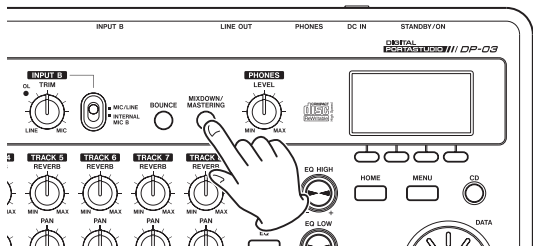
メモ

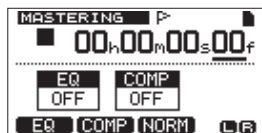
- IN ／ OUTポイントの間を、4秒以上離してください。4秒より短い場合は、**"Trk Too Short"** のポップアップメッセージが表示され、レコーダーモードを **"MIXDOWN"** モードに切り換えることはできません。
- 録音中にトラックフェーダーを使って各TRACKのレベルや全体のレベルを変えることもできます。
- イコライザーや、リバーブをかけながらステレオマスタートラックを作ることもできます。（ → 53ページ「TRACK EQ（イコライザー）」）、（ → 53ページ「リバーブ」）
- 不要なトラックにはミュートをかけて、ステレオマスタートラックには入れないようにすることもできます。（ → 54ページ「トラックのミュート」）

マスタリングする

ステレオマスタートラックを調整し、より好みの音に仕上げます。この工程をマスタリングと呼びます。

ステレオマスタートラックを確認する

1. レコーダーモードが **"MIXDOWN"** モードのときに、MIXDOWN/MASTERINGボタンを押します。

ポップアップメッセージ **"Mastering !"** を表示した後、本機のレコーダーモードが **"MASTERING"** モードに切り換わり、ホーム画面に戻ります。

メモ

- マスタリングモードのときは、ホーム画面左上のバーに **"MASTERING"**（反転表示）が表示されます。
- ステレオマスタートラックが作成されていないと、レコーダーモードを **"MASTERING"** モードに切り換えることはできません。
- レコーダーモードが **"MULTI TRACK"** モードに切り換わっている場合は、MIXDOWN/MASTERINGボタンを押して、**"MIXDOWN"** モードに切り換えてから、再度MIXDOWN/MASTERINGボタンを押すと、**"MASTERING"** モードに切り換えることができます。

2. この状態でPLAY【►】ボタンを押すと、作成したステレオマスタートラックを聴くことができます。

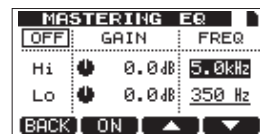
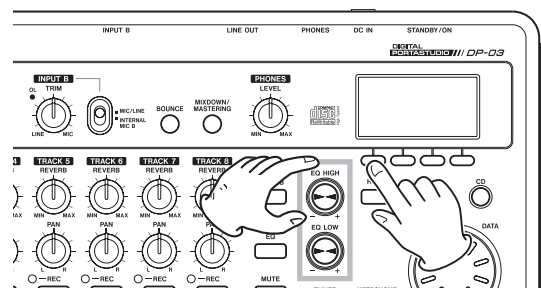
メモ

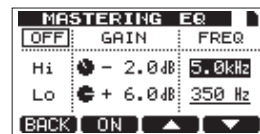
- **"EQ"** 項目、**"COMP"** 項目ともに **"OFF"** が表示されていることを確認してください。**"ON"** になっていると、イコライザーまたはコンプレッサーがかかった音が聞こえます。（ → 57ページ「マスタリング用EQ（イコライザー）を使う」）、（ → 58ページ「マスタリング用コンプレッサーを使う」）
- **"MASTERING"** モードでは、MASTERフェーダーでのレベル調節はできません。

イコライザーをかける

ステレオマスタートラックにイコライザーをかけて、高音を若干落とし、低音を若干あげてみます。

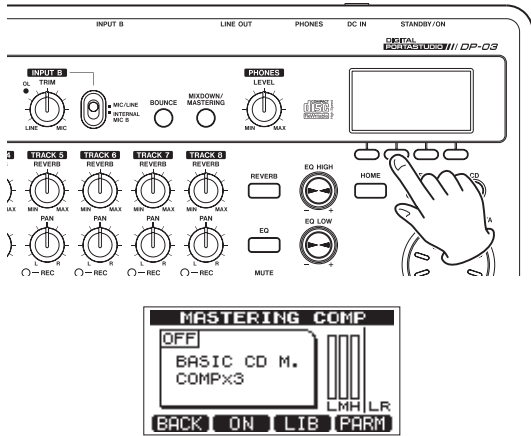
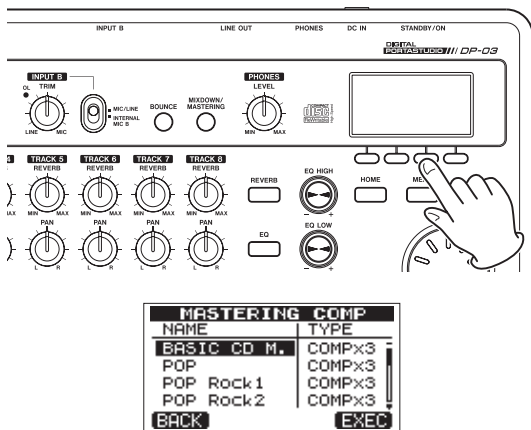
1. レコーダーモードが **"MASTERING"** モードのときにF1 **"[EQ]"** ボタンを押して、**"MASTERING EQ"** 画面を表示します。

MASTERING EQ
OFF　GAIN　FREQ
Hi　0.0dB　5.0kHz
Lo　0.0dB　350 Hz
BACK　ON

2. EQ HIGHつまみを左に回すと、画面の **"Hi"** の **"GAIN"** が下がります。**"-2. 0dB"** に設定します。これで高音がさがりました。
3. 次にEQ LOWつまみを右に回すと、画面の **"Lo"** の **"GAIN"** があがります。**"+6. 0dB"** に設定します。これで低音が上がりました。

MASTERING EQ
OFF　GAIN　FREQ
Hi　− 2.0dB　5.0kHz
Lo　+ 6.0dB　350 Hz
BACK　ON

4. F2 **"[ON]"** ボタンを押して、イコライザーをオンにします。
   左上の **"OFF"** が **"ON"** になります。
5. F1 **"[BACK]"** ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。
6. この状態でPLAY【►】ボタンを押すと、イコライザーのかかったステレオマスタートラックを聴くことができます。

コンプレッサーをかける

ステレオマスタートラックにコンプレッサーをかけて、曲全体の音圧感を調整します。

1. レコーダーモードが **“MASTERING”** モードのときに**F2 “[COMP]”** ボタンを押して、**“MASTERING COMP”** 画面を表示します。

2. F3 **“[LIB]”** ボタンを押して、ライブラリーのリストを表示します。

3. DATAホイールを使って **“POP ROCK 1”** を選択（反転表示）し、F4 **“[EXEC]”** ボタンを押します。
   “MASTERING COMP” 画面に戻ります。

ヒント

F4 **“[PARM]”** ボタンを押して、パラメーター設定画面を表示してパラメーターを変更することもできます。

4. F2 **“[ON]”** ボタンを押すと、コンプレッサーがオンになります。
   左上の **“OFF”** が **“ON”** に変わります。

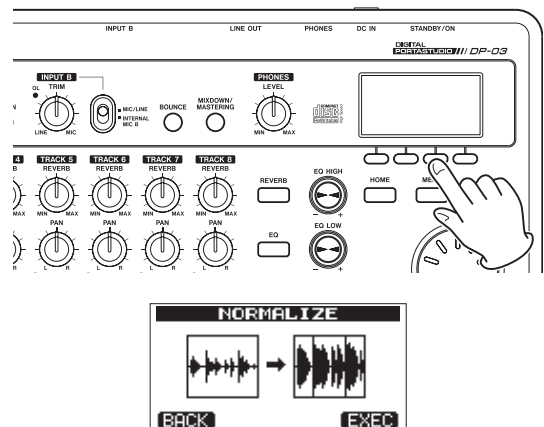
5. F1 **“[BACK]”** ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。
6. この状態でPLAY【►】ボタンを押すと、コンプレッサーのかかったステレオマスタートラックを聴くことができます。

メモ

“MASTERING EQ” 画面の **“EQ”** 項目が **“ON”** になっている場合は、イコライザーもかかった音が聞こえます。

ノーマライズする

ノーマライズを行い、ステレオマスタートラックの音量を最大化することができます。

1. レコーダーモードが **“MASTERING”** モードのときに**F3 “[NORM]”** ボタンを押して、**“NORMALIZE”** 画面を表示します。

2. F4 **“[EXEC]”** ボタンを押して、ノーマライズを行います。
3. F1 **“[BACK]”** ボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

ステレオマスタートラックを再録音する

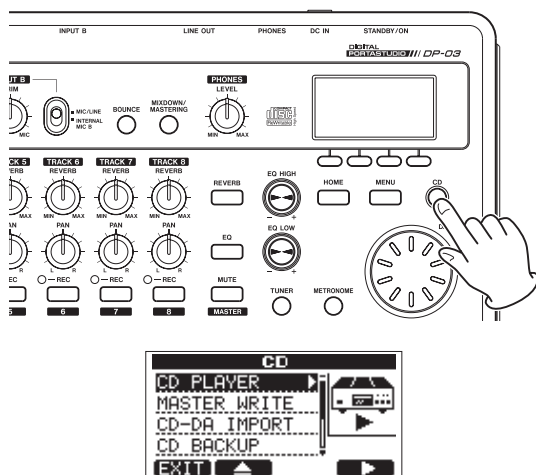
イコライザー、コンプレッサーのかかったマスターを再録音してステレオマスタートラックを再作成します。

1. レコーダーモードが **“MASTERING”** モードのときにRECORD【●】ボタンを押しながらPLAY【►】ボタンを押します。
2. マスターが上書き録音され、イコライザーやコンプレッサーのかかった新しいステレオマスタートラックが作成できます。

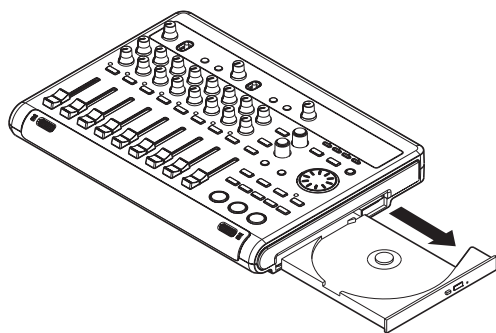
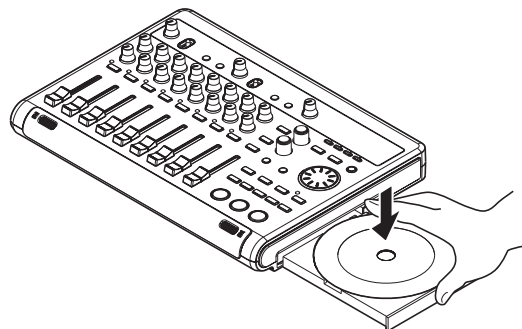
ステレオマスタートラックからオーディオCDを作る

このようにして作ったステレオマスタートラックをオーディオCDにすることで、一般のCDプレーヤーなどで聴くことができるようにすることができます。

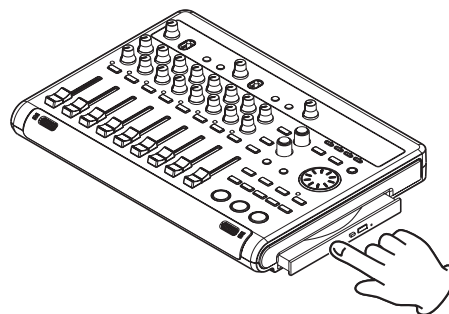
ディスクをセットする

1. レコーダーモードが“**MULTI TRACK**”モードのときに**CD**ボタンを押して、“**CD**”メニュー画面を表示します。

注意

- レコーダーモードが“**MULTI TRACK**”モード以外のモードでは、“**CD**”メニュー画面にすることはできません。
  “**MIXDOWN**”モードまたは“**MASTERING**”モードのときは、MIXDOWN/MASTERINGボタンを“**MULTI TRACK**”モードに切り換わるまで繰り返し押します。
  “**BOUNCE**”モードのときは、BOUNCEボタンを押して“**MULTI TRACK**”モードに切り換えます。
- ディスクトレーは、ホーム画面や“**MENU**”画面などでは開けません。“**CD**”メニュー画面または“**CD PLAYER**”画面が表示された状態で行ってください。

2. F2“**[⏏]**”ボタン、または右サイドパネルにあるディスクトレーのイジェクトボタンを押すと、ディスクトレーが少し飛び出します。
   下図のようにディスクトレーを完全に引き出してください。

3. レーベル面を上にしてディスクの側面を持って、ディスクをトレーの上に、ディスク中央の穴がトレー中央の丸い凸部にあうようにして置き、中央付近を軽く押し、ディスクをはめます。

メモ

きちんとはまるとカチッと音がし、ディスクとディスクトレーが平行になります。

4. ディスクトレーを押して閉めます。カチッと音がするまで押してください。

CD-R ／ CD-RWディスクに書き込む

CD-R ／ CD-RWディスクへの書き込みは、複数のステレオマスタートラックを選択して行った場合と、1つだけを選択して行った場合で異なる動作を行います。
ここでは複数のステレオマスタートラックを選択して行い、一般のCDプレーヤーで聞けるようなオーディオCDを作成する場合の例を示します。
CD-R ／ CD-RWディスクに書き込む場合の詳細は、75ページ「オーディオCDを作成する」を参照してください。

1. レコーダーモードが“**MULTI TRACK**”モードのときに**CD**ボタンを押して、“**CD**”メニュー画面を表示します。
2. ディスクトレーにブランクCD（未使用のCD-R ／ CD-RWディスクまたは消去済みのCD-RWディスク）をセットします。
3. DATAホイールを使って“**MASTER WRITE**”項目を選択し、F4“**[▶]**”ボタンを押します。

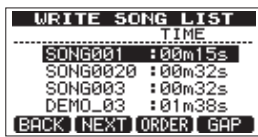
"MASTER WRITE" 画面が表示され、ステレオマスタートラックが録音されているソングの一覧が表示されます。

4. DATAホイールを使ってCD-R ／ CD-RWディスクに書き込みたいソングを選択（反転表示）し、**F4 "[✔]"** ボタンを押します。選択したソングのチェックボックスが **"✔"** されます。

メモ

チェックボックスの **"✔"** を外すには、**"✔"** したソングを選択（反転表示）した状態で **F4 "[✔]"** ボタンを再度押します。

5. 上記の手順**4.**を必要に応じて繰り返します。

6. 書き込むソングが決まったら、**F2 "[NEXT]"** ボタンを押します。
"WRITE SONG LIST" 画面が表示されます。
この画面では、CD-R ／ CD-RWディスクに書き込むステレオマスタートラックの順番および曲間ギャップを設定することができます。（順番の変更およびギャップを設定する場合は、75ページ「オーディオCDを作成する」を参照してください。）

7. **F2 "[NEXT]"** ボタンを押すと、CD-R ／ CD-RWディスクをマウントするポップアップメッセージが表示された後、確認のポップアップメッセージが表示されます。

8. **F3 "[YES]"** ボタンを押して、CD-R ／ CD-RWディスクへの書き込みを開始します。

9. 書き込み終了後、同じ内容をさらに別のCD-R ／ CD-RWディスクに書き込むかどうかの確認のポップアップメッセージが表示されます。

同じ内容のCD-R ／ CD-RWディスクをもう一枚作成する場合は、**F3 "[YES]"** ボタンを押します。
終了するには、**F4 "[NO]"** ボタンを押します。

ディスクを取り出す

1. レコーダーモードが **"MULTI TRACK"** モードのときに**CD**ボタンを押して、**"CD"** メニュー画面を表示します。

注 意

ディスクトレーは、ホーム画面や **"MENU"** 画面などでは開けません。**"CD"** メニュー画面または **"CD PLAYER"** 画面が表示された状態で行ってください。

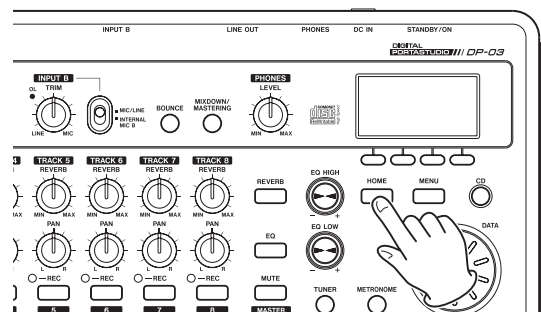
2. **F2 "[⏏]"** ボタン、または右サイドパネルにあるディスクトレーのイジェクトボタンを押すとディスクトレーが排出されますので、ディスクトレーを手で完全に引き出してください。
ディスクの側面を持って、上に持ち上げます。

注 意

無理に持ち上げないでください。製品やディスクを破損する場合があります。

終了する

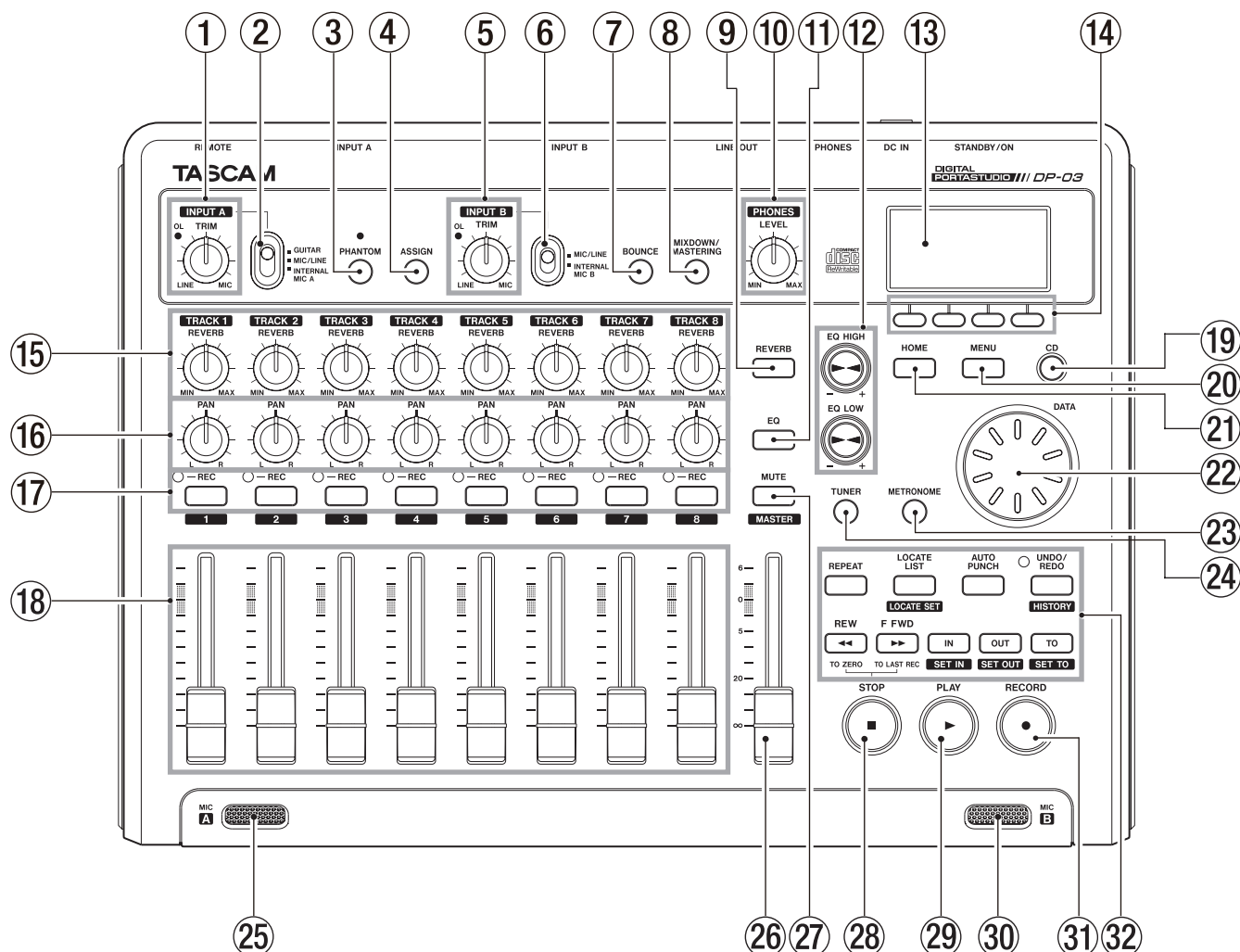
作業が終了したら本機を終了します。

1. **HOME**ボタンを押して、ホーム画面を表示します。

2. リアパネルにある**STANDBY/ON**ボタンを押し続け、ディスプレーに **"PORTASTUDIO"** が表示されたら離します。

本機が自動的にシャットダウン処理（今まで操作した各種情報の記録）を行った後、電源がオフ（スタンバイ状態）になります。
終了するときは、必ず上記の手順で正しく終了してください。

注 意

電源コードを抜くなどをして電源を切ると、前回シャットダウン処理（今まで操作した各種情報の記録）、もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。
なお、失われたデータや設定は、復活することができません。

トップパネル

① TRIMつまみ／ OLインジケーター（INPUT A）

TRIMつまみを使って、INPUT Aの入力レベルを調節します。
（ → 40ページ「レコーディング（最初の録音）」）
入力ソースの信号が大きすぎるとOL（オーバーロード）インジケーターが点灯します。

② INPUT Aスイッチ

リアパネルにあるINPUT A端子に入力する信号ソースに合わせて設定します。
エレキギターやエレキベースを直接入力するときはGUITAR、マイクやライン信号を入力するときはMIC/LINEに設定します。
内蔵マイク（MIC A）を使うときは、INTERNAL MIC Aに設定します。

③ PHANTOMボタン／インジケーター

このボタンを押すと、**"PHANTOM"** 画面が表示され、この画面でファントム電源のオン／オフを切り換えます。
ファントム電源がオンのときにPHANTOMインジケーターが点灯します。

注意

- ファントム電源のオンまたはオフは、機器の出力音量をMASTERフェーダーで下げた状態で行ってください。マイクによっては大きなノイズを発生し、他の機器または人体を損傷する恐れがあります。
- ファントム電源をオンにした状態でマイクの抜き差しをないでください。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、スイッチをオンにしてください。
- アンバランスタイプのダイナミックマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。
- リボンマイクロホンの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。

④ ASSIGNボタン

各TRACKの入力（INPUT AまたはINPUT B）を設定（アサイン）します。このボタンを押すと、**"INPUT ASSIGN"** 画面が表示されます。アサインされた入力の入力信号が録音ソースになります（ → 39ページ「入力をアサインする」）。

⑤ TRIMつまみ／ OLインジケーター（INPUT B）

TRIMつまみを使って、INPUTBの入力レベルを調節します。
（ → 40ページ「レコーディング（最初の録音）」）
入力ソースの信号が大きすぎるとOL（オーバーロード）インジケーターが点灯します。

⑥ INPUT Bスイッチ

リアパネルにあるINPUT B端子に入力する信号ソースに合わせて設定します。
マイクやライン信号を入力するときは、MIC/LINEに設定します。
内蔵マイク（MIC B）を使うときは、INTERNAL MIC Bに設定します。

⑦ BOUNCEボタン

このボタンを押すと、**"MULTI TRACK"** モードと **"BOUNCE"** モードを交互に切り換えます。

⑧ MIXDOWN/MASTERINGボタン

このボタンを押すと、レコーダーモードを **"MULTI TRACK"** ／ **"MIXDOWN"** ／ **"MASTERING"** のモードに切り換えます。

- **"MULTI TRACK"** モードのときにこのボタンを押すと、**"MIXDOWN"** モードに切り換えます。
- **"MIXDOWN"** モードのときにこのボタンを押すと、ステレオマスタートラックがあれば **"MASTERING"** モードに切り換わり、無ければ **"MULTI TRACK"** モードに戻ります。
- **"MASTERING"** モードのときにこのボタンを押すと、**"MULTI TRACK"** モードに戻ります。

メモ

レコーダーモードが切り換わったとき、ポップアップメッセージが表示されます。

⑨ REVERBボタン

リバーブを設定する **"REVERB SETTING"** 画面を表示します。
（ → 53ページ「リバーブ」）

⑩ PHONES LEVELボタン

ヘッドホン出力の音量を調節します。

⑪ EQボタン

TRACK EQ（イコライザー）を設定する **"EQ SETTING"** 画面を表示します。（ → 53ページ「TRACK EQ（イコライザー）」）
このボタンを押して表示される **"EQ SETTING"** 画面でF1 **"[INPUT]"** ボタンを押すことでINPUT EQ（イコライザー）を設定する **"INPUT EQ"** 画面を表示します。（ → 40ページ「INPUT EQ（イコライザー）を使う」）

⑫ EQ HIGHつまみ／ EQ LOWつまみ

EQ HIGTつまみは、各EQ（イコライザー）設定画面で高域のゲインを調節します。
EQ LOWつまみは、各EQ（イコライザー）設定画面で低域のゲインを調節します。
"EQ SETTING" 画面、**"INPUT EQ"** 画面、**"MASTERING EQ"** 画面で有効です。

⑬ ディスプレー

各種情報を表示します。

⑭ ファンクションボタン

ディスプレーに表示している画面によって、機能が変わるボタンです。ディスプレー表示画面の下部に表示中の機能が現在割り当てられている機能です。

メモ

本取扱説明書では、便宜上4つのファンクションボタンを左から順にF1、F2、F3、F4ボタンという名前で表記します。

⑮ REVERBつまみ（TRACK 1〜TRACK 8）

各TRACKの再生音やTRACKにアサインされた入力信号のリバーブエフェクトに送るレベル（音量）を調節します。

⑯ PANつまみ（TRACK 1〜TRACK 8）

各TRACKの再生信号やTRACKにアサインされた入力信号のステレオ定位を調節します。（ → 53ページ「定位（パン）」）

⑰ RECボタン／インジケーター（TRACK 1〜TRACK 8）

各TRACKのレコードファンクションをオン／オフします。入力音をヘッドホンやモニターシステムでモニターする場合は、該当TRACKのRECボタンを押します。RECボタンをオンにすると、レコーダーが停止しているときは、RECインジケーターが点滅し、録音しているときは点灯します。
"INPUT ASSIGN" 画面でこのボタンを押すと、アサインを切り換えます。
"TRACK MUTE" 画面でこのボタンを押すと、トラックのミュートのオン／オフを切り換えます。
"TRACK EQ" 画面でこのボタンを押すと、トラックの選択を行います。

⑱ トラックフェーダー（TRACK 1〜TRACK 8）

各TRACKの再生信号やTRACKにアサインされた入力信号のモニターレベルを調節します。（ → 53ページ「レベルとバランス」）

⑲ CDボタン

"CD" メニュー画面が表示されます。

⑳ MENUボタン

"MENU" 画面を表示します。

㉑ HOMEボタン

ホーム画面を表示します。 また、停止中でホーム画面表示中は、カウンターの桁移動を行います。（ → 45ページ「ダイレクトロケート機能」）

㉒ DATAホイール

メニュー操作中、パラメーターの値を変えたり項目を選択するときに使います。

㉓ METRONOMEボタン

"METRONOME" 設定画面を表示します。（ → 60ページ「メトロノーム機能」）

㉔ TUNERボタン

"TUNER" 設定画面を表示します。（ → 61ページ「チューナー機能」）

㉕ MIC A

内蔵の無指向性マイクです。
INPUT AスイッチをINTERNAL MIC Aに設定したときに、INPUT Aの入力ソースになります。
チューナーを使うときは、2つの内蔵マイクのうちこちらだけが有効です。

㉖ MASTERフェーダー
LINE OUT端子およびPHONES端子から出力されるステレオ信号のレベルを調節します。また、トラックバウンス時やミックスダウン時は、録音レベルを調節します。

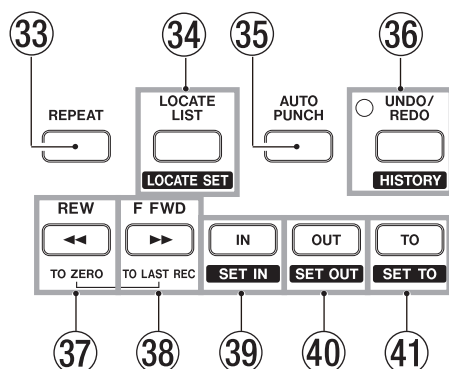
㉗ MUTEボタン
"TRACK MUTE" 画面を表示します。（ → 54ページ「トラックのミュート」）

㉘ STOP【■】ボタン
再生、録音、早送り／早戻しを停止します。 また、REW【◀◀】[TO ZERO] ボタンやF FWD【▶▶】[TO LAST REC] ボタンとの同時押しによって、ソングの先頭（**"00:00:00:00"** ＝ ZEROポイント）、あるいは最後に録音を始めた位置（LAST RECポイント）にロケートすることができます。（ → 45ページ「ロケート／サーチ機能」）

㉙ PLAY【▶】ボタン／インジケーター
再生を始めるとき、このボタンを押します。 また、録音を始めるとき、RECORD【●】ボタンを押しながらこのボタンを押します。録音中にこのボタンを押すと、録音を終了して再生になります（パンチアウト）。
再生中または録音中、PLAY【▶】インジケーターが点灯します。

㉚ MIC B
内蔵の無指向性マイクです。
INPUT BスイッチをINTERNAL MIC Bに設定したときに、INPUT Bの入力ソースになります。
チューナーを使うとき、こちらのマイクの入力には反応しません。

㉛ RECORD【●】ボタン／インジケーター
録音を始めるとき、このボタンを押しながらPLAY【▶】ボタンを押します。録音中、インジケーターが点灯します。また、いずれかのTRACKのRECインジケーターが点滅しているとき、再生中にこのボタンを押すと、録音が始まります（パンチイン）。（ → 48ページ「オートパンチイン／アウト」）

㉜ 各種機能ボタン
各種機能のボタンを押すと、機能のオン／オフ、または機能の設定を行います。

㉝ REPEATボタン
リピート再生モードのオン／オフを行います。（ → 46ページ「リピート再生」）

㉞ LOCATE LIST [LOCATE SET] ボタン
このボタンを押すと、**"LOCATE LIST"** 画面を表示します。
ロケートマークが現在のソングに存在しない場合は、**"I/O SETTING"** 画面を表示します。
このボタンを長押しすると、現在の位置にマークをつけます。

㉟ AUTO PUNCHボタン
オートパンチモードのオン／オフを設定します。
オートパンチモードのときは、"A.Punch" アイコンが表示されます。（ → 48ページ「オートパンチイン／アウト」）

㊱ UNDO/REDO [HISTORY] ボタン／インジケーター
このボタンを押すと、直前の操作の取り消し（シングルアンドゥ）、およびシングルアンドゥの取り消し（リドゥ）を行います。（ → 41ページ「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」）
シングルアンドゥまたはマルチアンドゥを実行して取り消した操作があるとき、UNDO/REDOインジケーターが点灯します。
また、このボタンを長く押すと録音／編集の履歴を表示します。**"HISTORY"** 画面で複数の操作を取り消すマルチアンドゥを行うことができます。

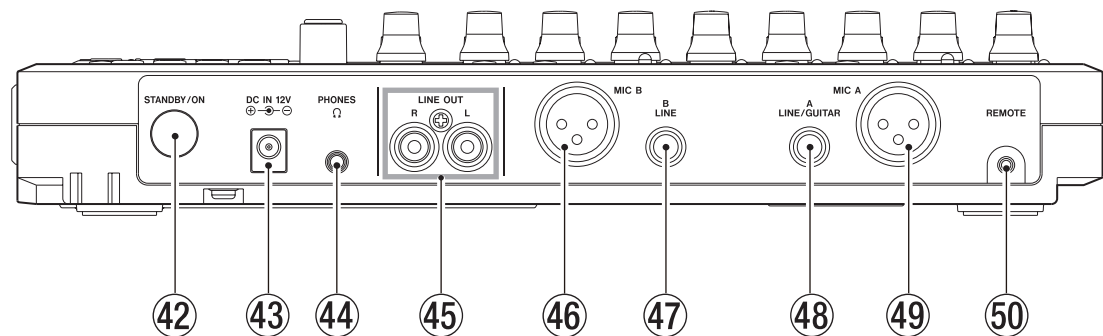
㊲ REW【◀◀】[TO ZERO] ボタン
停止中にこのボタンを押すと早戻しを行います。押すたびにスピードが10倍→50倍→100倍→1000倍と変化します。
再生中にこのボタンを押すと、押している間だけ早戻しを行います。
STOP【■】ボタンを押しながらこのボタンを押すと、ソングの先頭（**"00:00:00:00"** ＝ZEROポイント）にロケートします。（ → 45ページ「ロケート／サーチ機能」）

㊳ F FWD【▶▶】[TO LAST REC] ボタン
停止中にこのボタンを押すと早送りを行います。押すたびにスピードが10倍→50倍→100倍→1000倍と変化します。
再生中にこのボタンを押すと、押している間だけ早送りを行います。
STOP【■】ボタンを押しながらこのボタンを押すと、最後に録音を始めた位置（LAST RECポイント）にロケートします。（ → 45ページ「ロケート／サーチ機能」）

㊴ IN [SET IN] ボタン
このボタンを押すとINポイントにロケートします。
このボタンを長押しすると、長押しを開始した再生位置がINポイントとして設定されます。

㊵ OUT [SET OUT] ボタン
このボタンを押すとOUTポイントにロケートします。
このボタンを長押しすると、長押しを開始した再生位置がOUTポイントとして設定されます。

㊶ TO [SET TO] ボタン
このボタンを押すとTOポイントにロケートします。
このボタンを長押しすると、長押しを開始した再生位置がTOポイントとして設定されます。

リアパネル

㊷ STANDBY/ONボタン

電源がスタンバイのときにこのボタンを押すとオンになり、オンのときにこのボタンを長押しするとスタンバイになります。

（ → 31ページ「起動と終了」）

㊸ DC IN 12V端子

専用のACアダプター（TASCAM PS-1225L）を接続します。

㊹ PHONES端子（ステレオミニジャック）

ヘッドホンを接続します。

トップパネルのPHONES LEVELつまみで音量を調節できます。

㊺ LINE OUT端子（RCA端子、アンバランス）

モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプ／スピーカーシステム）を接続します。

㊻ INPUT B端子（XLR端子、バランス）

トップパネルのINPUT BスイッチでMIC/LINEを選択したときの入力ソースになります。

XLRタイプのマイク／ライン入力端子です。

ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクも接続可能です。（1：GND、2：HOT、3：COLD）

㊼ INPUT B端子（TRS標準ジャック、バランス／アンバランス）

トップパネルのINPUT BスイッチでMIC/LINEを選択したときの入力ソースになります。

ライン信号（バランス／アンバランス）またはマイク信号（バランス／アンバランス）を入力することができます。

メモ

XLR端子とTRS標準ジャックに同時に、入力を行わないでください。

㊽ INPUT A端子（TRS標準ジャック、バランス／アンバランス）

トップパネルのINPUT AスイッチでGUITARまたはMIC/LINEを選択したときの入力ソースになります。

ギター／ライン信号（バランス／アンバランス）またはマイク信号（バランス／アンバランス）を入力することができます。

㊾ INPUT A端子（XLR端子、バランス）

トップパネルのINPUT AスイッチでMIC/LINEを選択したときの入力ソースになります。

XLRタイプのマイク／ライン入力端子です。

ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクも接続可能です。（1：GND、2：HOT、3：COLD）

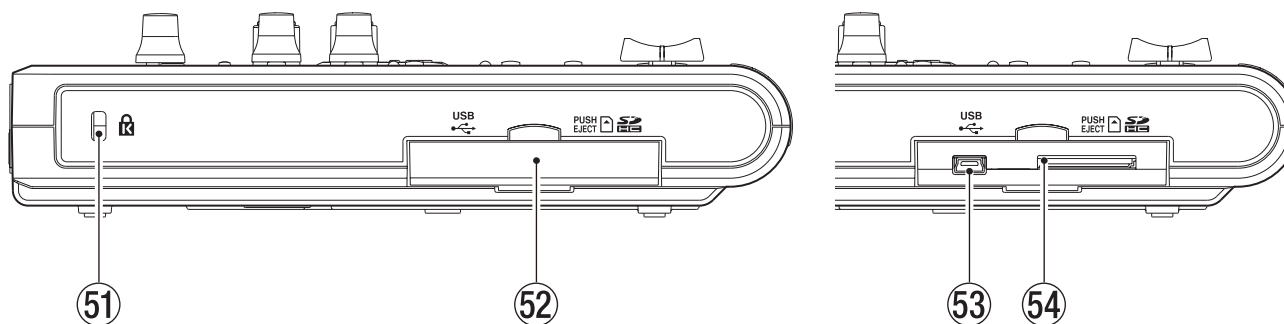
メモ

XLR端子とTRS標準ジャックに同時に、入力を行わないでください。

㊿ REMOTE端子（φ2.5mm TSジャック）

別売りの専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）を繋ぎます。

リモートコントロールによるパンチイン／アウト（録音のスタート／ストップ）などの操作が可能になります。

左サイドパネル

[SDカードスロット／ USB端子カバー取り外し時]

51 ケンジントンロック装着穴

52 SDカードスロット／ USB端子カバー

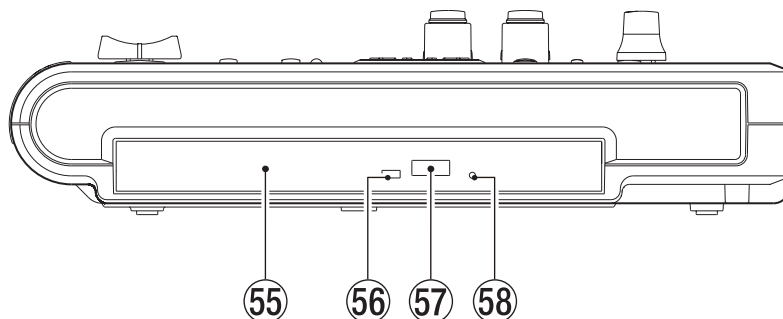
53 USB端子

Mini-BタイプのUSB2.0対応ケーブルを使ってパソコンと接続します。（ → 66ページ「パソコンと接続する」）

USBケーブルは、お客様でご用意ください。

54 SDカードスロット

SDカードを挿入するスロットです。

右サイドパネル

55 ディスクトレー

"CD" メニュー画面の**F2 "[▲]"** ボタン、またはイジェクトボタンを押してディスクトレーを開け、ディスクのセット／取り出しを行います。

ディスクトレーを閉じるときはトレーを押します。カチッと音がするまで押してください。

56 アクセスインジケーター

本機がディスクにアクセス（読み出し／書き込み）しているときに点灯します。

57 イジェクトボタン

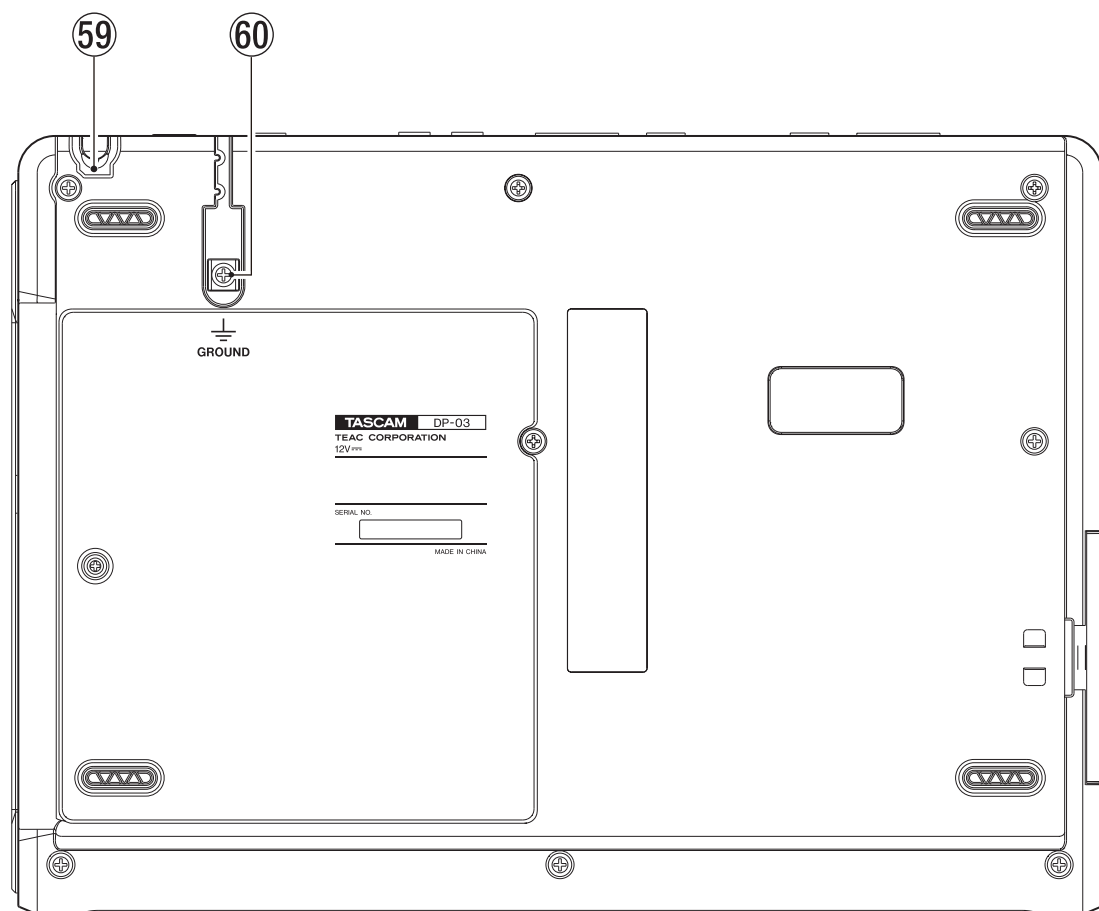
"CD" メニュー画面表示中にこのボタンを押すと、ディスクトレーを開閉します。

58 ディスク強制排出用穴（エマージェンシーホール）

ディスクトレーが開かなくなったときに、この穴の中にあるボタンを押すと強制的にディスクトレーを開くことができます。（ → 74ページ「ディスクの強制排出」）

注 意

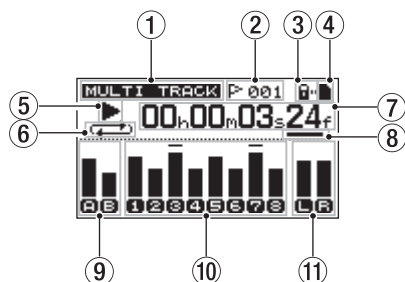
ここにあるボタンは、緊急時以外は使用しないでください。使用する際は、電源をSTANDBYにしてACアダプターを外してから使ってください。

ボトムパネル

㊾ コードホルダー

付属の専用ACアダプター（TASCAM PS-1225L）のコードを引っ掛けてプラグの抜け落ちを防止します。

㊿ GROUND端子

環境によりモニター音にノイズが発生することがあります。その場合には、この端子をグランドに接続してください。（ケーブルはお客様でご用意ください。）

ホーム画面

① レコーダーモード表示
現在のレコーダーモードを表示します。

MULTI TRACK	マルチトラックモード
BOUNCE	バウンスモード
MIXDOWN	ミックスダウンモード
MASTERING	マスタリングモード

② ロケートマーク番号表示
フラッグアイコン“ ”アイコンに続けて、現在のロケートマーク番号を表示します。(001-999)

③ SDカードプロテクト表示
SDカードがプロテクトされているときに鍵アイコン“ ”が点灯します。

④ SDカードの有無表示
SDカードが挿入されているときに“ ”アイコンを表示します(挿入されていないときは“ ”アイコンを表示)。

⑤ レコーダーのトランスポート状態表示
再生時は“►”、停止時は“■”、録音時は“●”を表示します。

⑥ リピート再生／オートパンチ モード表示
リピート再生モードのときに、“ ”アイコンを表示します。
オートパンチモードのときに、“A.Punch”アイコンを表示します。

⑦ レコーダーのタイムカウンター表示
ソングの先頭からの経過時間を表示します。

⑧ 時間編集対象桁を示すカーソル表示
DATAホイールを回すと、カーソル（下線）位置の時間の桁の値が変わります。HOMEボタンを押すたびにカーソル（下線）位置は、**“24f”** → **“03s→** **“00m”** → **“00h”**（ → **“24f”**）と移動します。

⑨ INPUT A ／ Bのレベルメーター、およびINPUT EQ（イコライザー）状態表示
それぞれINPUT A（“A”）、INPUT B（“B”）の入力ソースの信号レベルを表示します。
INPUT EQ（イコライザー）がオンのときは、“A”または“B”に枠が表示されます（“AB”）。

⑩ レコーダー TRACK 1-8のレベルメーター、および TRACK EQ（イコライザー）状態表示
録音時は入力（録音）信号、再生時は再生信号のレベルを表示します。
トラックのミュートがオンしているトラックは、TRACK番号表示が反転します（“1234”がミュートのとき)。
ミュートがオフでTRACK EQ（イコライザー）がオンのときは、TRACK番号の枠が表示されます（“1234”）。

⑪ ステレオ出力（L ／ R)のレベルメーター表示
LINE OUT端子からの出力信号レベルを表示します。

メニューの構成

MENUボタンを押すと、**“MENU”**画面が表示されます。
メニュー項目は、以下の通りです。

メニュー項目	機能	参照ページ
INFORMATION	ファイル情報、SDカード情報、システム情報を表示します。	→ 62ページ
SONG	ソングのロード、セーブや新規作成などを行います。	→ 34ページ
CARD	SDカードのフォーマットなどを行います。	→ 63ページ
TRACK EDIT	トラックの編集を行います。	→ 49ページ
DATA BACKUP	ソングのバックアップとリストアを行います。	→ 67ページ
IMPORT/EXPORT	トラック、ステレオマスタートラックのインポートとエクスポートを行います。	→ 69ページ → 71ページ
PREFERENCE	コントラスト、フットスイッチの設定、リピート再生の間隔、バックアップメモリーの初期化（イニシャライズ）を行います。	→ 33ページ → 43ページ → 48ページ → 62ページ

CDボタンを押すと、**“CD”**メニュー画面が表示されます。
メニュー項目は、以下の通りです。

メニュー項目	機能	参照ページ
CD PLAYER	オーディオCDを再生します。	→ 74ページ
MASTER WRITE	ステレオマスタートラックからオーディオCDを作成します。	→ 75ページ
CD-DA IMPORT	オーディオCDから曲を取り込みます。	→ 77ページ
CD BACKUP	ソングをCD-R ／ CD-RWディスクにバックアップします。	→ 78ページ
CD RESTORE	CD-R ／ CD-RWディスクにバックアップしたソングをリストアします。	→ 79ページ
FINALIZE	未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクをファイナライズします。	→ 76ページ → 77ページ
ERASE	書き込み済みのCD-RWディスクを消去します。	→ 79ページ

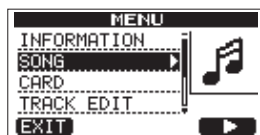
専用ボタンからダイレクトに使用、設定ができる画面が表示されます。項目は、以下の通りです。

ボタン	機能	参照ページ
PHANTOM	ファントム電源をオン／オフします。	→ 38ページ
ASSIGN	トラックのソースをINPUT A ／ Bどちらかに割り当てます。	→ 38ページ

ボタン	機能	参照ページ
BOUNCE	トラックバウンスを行います。	→ 44ページ
MIXDOWN/ MASTERING	ステレオマスタートラックを作成したり、調整したりします。	→ 53ページ
REVERB	リバーブを設定します。	→ 53ページ
EQ	トラックまたは入力イコライザーを設定します。	→ 40ページ → 53ページ
MUTE	トラックをミュートします。	→ 54ページ
TUNER	楽器をチューニングするときに使います。	→ 61ページ
METRONOME	メトロノームの設定を行います。	→ 60ページ
LOCATE LIST [LOCATE SET]	マークおよびIN ／ OUT ／ TOの設定やジャンプを行います。	→ 45ページ
UNDO/REDO [HISTORY] の長押し	アンドゥ／リドゥの履歴を表示、選択実行します。	→ 41ページ

画面の操作

MENUボタンまたは専用ボタンを使って画面を表示した後、以下の要領で操作を行います。
ここで示すのは基本的な操作方法であり、ディスプレーに表示されている画面により、ファンクションボタンの割り当てが異なることがあります。

- 項目を選択するには、DATAホイールを使って希望の項目を反転表示します。

"MENU" 画面の例です。
この画面では、**"SONG"** メニュー項目にカーソル（反転表示部）があります。

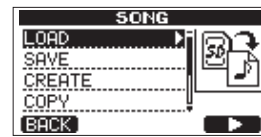
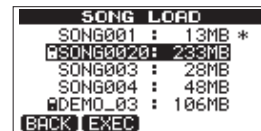
メモ

ファンクションボタンについて

画面内の下部にその下にあるファンクションボタンが、何に割り当てられているかを表示します。

F1ボタンの上に **"[BACK]"** と表示されていますので、この画面ではF1ボタンに **"[BACK]"** が割り当てられています。
このとき、"F1 **"[BACK]"** ボタンのように表現しています。
F2ボタンには **"[EXEC]"** が、F3ボタンには **"[INS]"**、F4ボタンには **"[DEL]"** 割り当てられています。

- サブ画面がある項目（**"MENU"** 画面など）では、右側に **"[▶]"** が表示され、F4 **"[▶]"** ボタンを使って確定します。

- サブ画面では、F1 **"[BACK]"** ボタンを押すと、前の画面に戻ることができます。

- 実行するときには、ファンクションボタンに **"[EXEC]"** が割り当てられていますので、それを押します。

"SONG LOAD" 画面の例です。
F2 **"[EXEC]"** ボタンを押すと、カーソル（反転表示部）のあるソングのロードを行います。

- 設定値にカーソル（反転表示部）がある場合には、DATAホイールは値の変更に使用します。
カーソル（反転表示部）の移動には、**"[▲]"** および **"[▼]"** の割り当てられているファンクションボタンを使います。

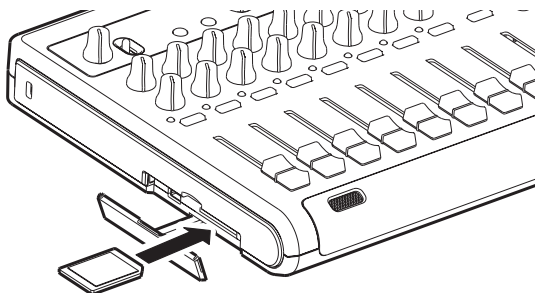
"COPY PASTE" 画面の例です。
DATAホイールで **"SOURCE TRK"** の値を変更します。
F3 **"[▲]"** ボタンまたはF4 **"[▼]"** ボタンを使って、カーソル（反転表示部）を上または下に移動します。
F2 **"[EXEC]"** ボタンを押すと、表示の内容でコピー＆ペーストを実行します。

- 左右に動かす必要がある場合には、REW【◀◀】[TO ZERO] ボタンまたはF FWD【▶▶】[TO LAST REC] ボタンを使います。このときは画面内に **"CURSOR"** が **"◀◀"** および **"▶▶"** に割り当てられることを示す絵が表示されます。

- ホーム画面に戻るには、HOMEボタンを押します。

SDカードと電源の準備

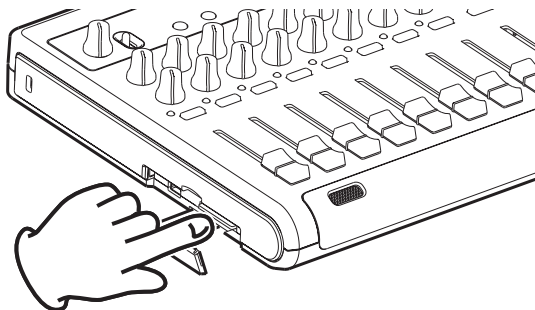
SDカードを挿入する

1. 左サイドパネルにあるSDカードスロットカバーを開けます。
2. SDカードスロット部にSDカードを図の方向にカチッと音がするまで差し込みます。

3. SDカードを挿入したら、カバーを閉めます。

メモ

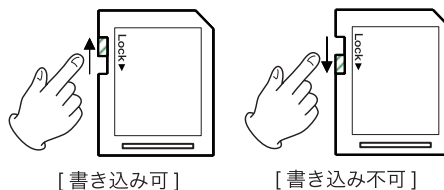
本機をお買い上げ時、SDカードスロットにSDカードが挿入されています。このSDカードをそのまま使って録音／再生を行う場合は、改めて挿入し直す必要はありません。

SDカードを取り出す

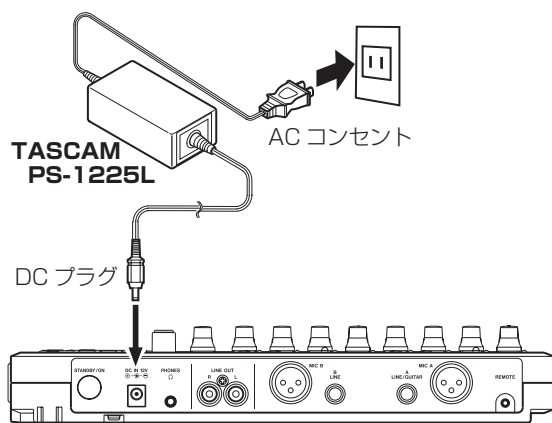
挿入されているSDカードを奥に押すと手前に出てきます。

注意

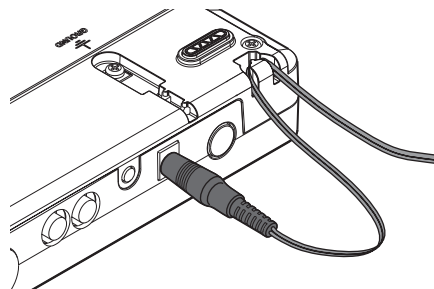
- SDカードを抜き差しする場合は、必ず電源をオフ（スタンバイ状態）にしてから行ってください。電源がオンのときに抜き差しすると、前回の終了処理、もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。
  なお、失われたデータや設定は、復活することができません。
- 使用できるSDカードは、512MB以上のSD ／ SDHC規格に対応したカードです。
- TASCAMのウェブサイト（http://www.tascam.jp/）には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。

SDカードのライトプロテクトについて

SDカードには、プロテクト（書き込み防止）スイッチがついています。

プロテクトスイッチをLOCKの方向へスライドするとファイルの記録や編集ができなくなります。録音や削除などを行う場合は、書き込み禁止を解除してください。

電源を準備する

図のように、付属の専用ACアダプター（TASCAM PS-1225L）を**DC IN 12V**端子に接続します。

本機のボトムパネルには、ACアダプターのコードを固定するための溝（コードホルダー）があります。使用中のコード抜けを防ぐため、接続するときはコードホルダーにコードを通してください。

注意

- 必ず付属の専用ACアダプター（TASCAM PS-1225L）とACアダプター用電源コードを接続してください。それ以外のものを使用すると故障、火災、感電の原因となります。
- 本機への電源供給は、専用ACアダプター（TASCAM PS-1225L）からとなります。USB経由での電源供給は行いません。

起動と終了

起動する

リアパネルにあるSTANDBY/ONボタンを押します。
本機が起動すると、ディスプレーに以下の画面（ホーム画面）が現れます。

［起動画面］

MULTI TRACK
00h00m00s00f

［ホーム画面］

本体起動時のレコーダーモードは、前回終了時のレコーダーモードにかかわらず、常に **"MULTI TRACK"** モードで立ち上がります。

注意

本機の電源のオン／オフ（スタンバイ状態）操作は、本機に接続しているモニターシステムのボリュームを絞った状態で行ってください。また、電源オン／オフ（スタンバイ状態）操作時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによってスピーカーや聴覚を損傷する恐れがあります。

終了する

本機を終了するには、あらかじめ以下の準備を行います。

- レコーダーを停止します。（再生中、録音中、早送り中などは本機を終了できません。）
- ディスプレーをホーム画面に戻します。
- パソコンとUSB接続している場合は、パソコンから本機を正しい手順で取り出してからUSBケーブルを外します。

準備ができたら、以下の画面が表示されるまでリアパネルにあるSTANDBY/ONボタンを押し続けます。

シャットダウン処理（今まで操作した各種情報の記録）が実行された後、電源がオフ（スタンバイ状態）になります。

注意

- 電源がオンのときに電源コードを抜くなどして電源を切らないでください。前回のシャットダウン処理（今まで操作した各種情報の記録）、もしくはソングセーブ以降の記録データや設定が全て失われます。
  なお、失われたデータや設定は、復活することがきません。
- 電源をオフ（スタンバイ状態）にすると、現在ロードされているソングの操作履歴が全て消去（クリア）されます。再度電源をオンにしたときは、前回の電源オフ（スタンバイ状態）時の状態でソングが立ち上がり、過去の操作のアンドゥやリドゥはできません。

SDカードをフォーマットする

新しいSDカードを使用するには、初期フォーマットが必要です。
本機は、SDカードをFATパーティションとMTRパーティションに分割します。
パーティションに関する詳しい説明は、63ページ「第11章 SDカードの管理」をご覧ください。

注意

付属のSDカードは、フォーマット済みですので初期フォーマットする必要がありません。フォーマットを行うと、あらかじめ記録されているデモソングが消去されてしまいます。

1. 新しいSDカードを本機に最初に挿入すると、フォーマットを促すポップアップメッセージが表示されます。

メモ

本機以外の機器でフォーマットを行ったSDカードを挿入した場合も、フォーマットを促す上記のポップアップメッセージが表示されます。

注意

フォーマットを実行すると他の機器で記録されたデータも全て消去されて復元できなくなりますのでご注意ください。

2. F3 **"[YES]"** ボタンを押します。
3. フォーマットが正常に終了するとホーム画面が表示されます。

メモ

フォーマットを実行しない場合は、F4 **"[NO]"** ボタンを押します。

レコーダーモード

本機には、4つのレコーダーのモードがあります。

● MULTI TRACK

本機がマルチトラックレコーダーとして動作します。

● BOUNCE

トラックバウンスを行います。（ → 44ページ「トラックバウンス」）

● MIXDOWN

ミックスダウンしたステレオマスタートラックを作成します。
（ → 53ページ「ミックスダウン」）、（ → 55ページ「ステレオマスタートラックを作成する」）

● MASTERING

作成したステレオマスタートラックを再生したり、エフェクトをかけてステレオマスタートラックの調整（マスタリング）を行います。（ → 56ページ「ステレオマスタートラックを確認する」、（ → 56ページ「ステレオマスタートラックを仕上げる（マスタリング）」）

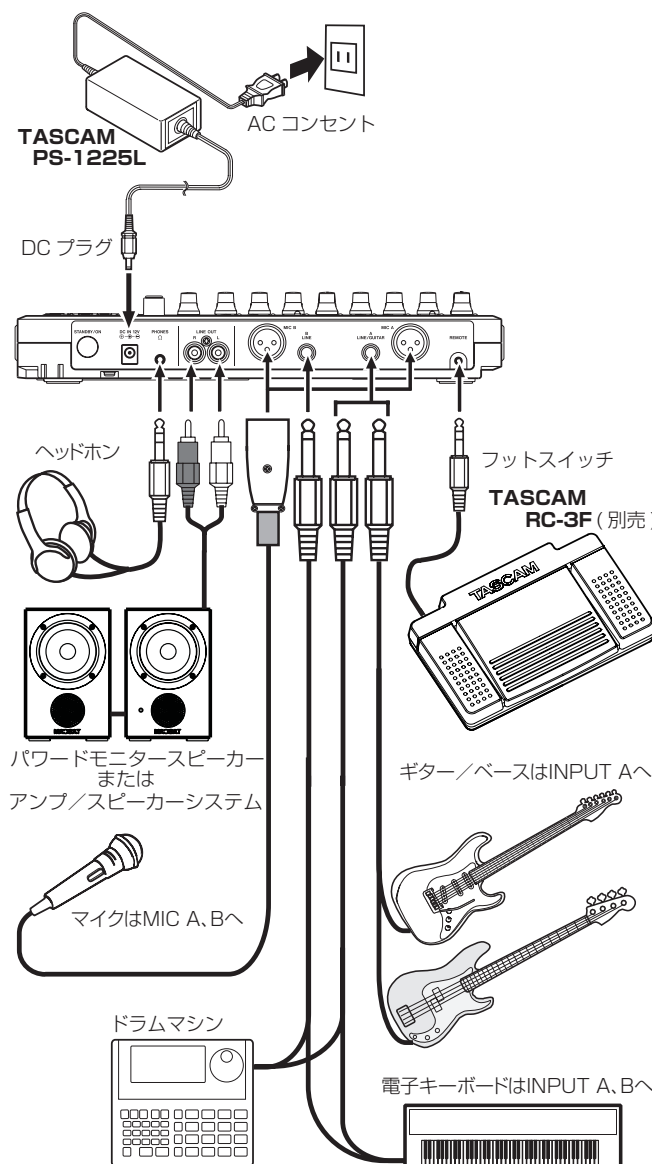
本体起動時のレコーダーモードは、前回終了時のレコーダーモードにかかわらず、常に **"MULTI TRACK"** モードで立ち上がります。
レコーダーモードが **"MULTI TRACK"** モード以外のモードのときは、画面を使った操作を受け付けない場合が多くあります。
本取扱説明書の説明では、特に断りのない限り、レコーダーモードが **"MULTI TRACK"** モードであることを前提としています。

外部機器との接続

本機のに接続例を示します。

接続前の注意

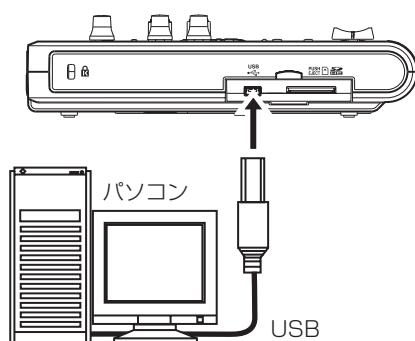
- 本機および接続する機器の電源を全てオフまたはスタンバイ状態にします。
- 各機器の電源は、同一のラインから供給するように設置します。テーブルタップなどを使う場合は、電源電圧の変動が少なくなるように、電流容量が大きい太いケーブルをご使用ください。

リアパネル

注意

- XLR端子とTRS標準ジャックに同時に、入力を行わないでください。
- ファントム電源をオンにした状態でダイナミックマイクをアンバランス接続すると機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源をオンにした状態で、マイクの抜き差しをしないでください。大きなノイズを発生し、機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源のオンまたはオフは、PHONESつまみ、MASTERフェーダー、および外部モニターシステムの音量を下げた状態で行ってください。マイクによっては大きなノイズを発生し、他の機器または人体を損傷する恐れがあります

メモ

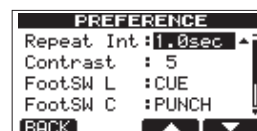
音を出す前は、PHONESつまみ、および外部モニターシステムの音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

左サイドパネル

メモ

本機をパソコンとUSB接続しているときは、レコーダーとしての機能を使うことができません。

コントラストを調節する

ディスプレーのコントラストを調節することができます。
以下の手順でコントラストの調節を行います。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。
2. DATAホイールを使って**"PREFERENCE"**メニューを選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"**ボタンを押します。
   "PREFERENCE"画面が表示されます。

3. F3 **"[▲]"**ボタンとF4 **"[▼]"**ボタンを使って**"Contrast"**項目の設定値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使ってディスプレーのコントラストを調節します。
   設定値は、**"1"**～**"10"**です。（初期値：**"5"**）
   数値が小さいほど表示が薄く、大きいほど濃くなります。
   ディスプレーは、見る角度によって見えかたが変わります。
   コントラストを調節することで見えやすくなる場合がありますので、本機を使用するポジションで実際の表示を見ながら調節してください。
4. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

第５章　ソングの管理

本機は、ソングと呼ばれる単位でデータを管理します。通常、曲ごとにソングを割り当てます。作業を行うときは、まず初めに希望のソングをロードします（既存のソングをロードするか、あるいは新たなソングを作成）。
ソングには、録音したマルチトラック（TRACK 1～8）とステレオマスタートラックが保存されます。
本章では、SDカード内の2つのパーティションの説明に始まり、ソングのロード方法や新しいソングの作成手順といった基本操作から、各種のソング管理機能までを説明します。

パーティションとソング

ソングのデータの記録先はSDカードです。本機でフォーマットされたSDカードは、2つのパーティションに仕切られています。
2つのパーティションは、ソングのデータを記録するための「MTRパーティション」と、パソコンからの読み込みが可能な「FATパーティション」があります。

名前の編集

以下の場合に名前の編集が可能な画面が表示されます。

ソングの保存、作成、名前編集

"SONG CREATE"画面、**"SONG SAVE"**画面、**"NAME EDIT"**画面

WAVファイルをエクスポートするとき

"NAME EDIT"画面、**"EXPORT MASTER "**画面

ソングをバックアップするとき

"SONG BACKUP"画面 、**"CD BACKUP"**画面 、

[NAME EDIT画面]

以下の要領で名前（タイトル）の編集を行います。

- REW【◄◄】[TO ZERO] ボタンとF FWD【►►】[TO LAST REC] ボタンを使ってカーソル（下線）位置を移動します。カーソル（下線）位置が編集位置になります。
- DATAホイールを使ってカーソル（下線）位置の文字を変更します。一般的な記号、数字、英大文字、英小文字を最大8文字入力することができます。
- カーソル（下線）位置に空白を挿入するには、F3 **"[INS]"**ボタンを使います。ファイルの名前を編集中には、カーソル（下線）位置に **"A"** が挿入されます。
- カーソル（下線）位置の文字を削除するには、F4 **"[DEL]"**ボタンを押します。
- 入力／編集が終了したらF2 **"[EXEC]"** ボタンを押して、新しい名前（タイトル）を保存します。

ソングをロードする

以下の手順で、希望のソングをロードします。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. DATAホイールを使って **"SONG"** メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 **"[►]"** ボタンを押します。
   "SONG" メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って **"LOAD"** 項目を選択（反転表示）し、F4 **"[►]"** ボタンを押します。

   "SONG LOAD" 画面に進み、MTRパーティション内のソングリストが表示されます。

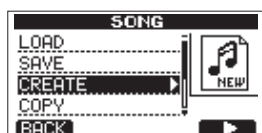
   現在ロード中のソングの末尾には、"＊" アイコンが付いています。
   また、プロテクトのかかっているソング先頭には、"🔒" アイコンが付いています。
4. DATAホイールを使って希望のソングを選択（反転表示）し、F2 **"[EXEC]"** ボタンを押します。
   現在ロード中のソングが保存され、選択したソングがロードされます。
5. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

新しいソングを作成する

以下の手順で、新規のソングを作成します。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。

2. DATAホイールを使って**"SONG"**メニュー項目を選択（反転表示）し、F4**"[▶]"**ボタンを押します。
"SONG"メニュー画面が表示されます。

3. DATAホイールを使って**"CREATE"**項目を選択（反転表示）し、F4**"[▶]"**ボタンを押します。

"SONG CREATE"画面が表示されます。

作成されるソングには、あらかじめ**"SONG***"**というソング名（タイトル）が付けられています（***は番号、上の画面例では**"SONG0020"**)。

4. 必要に応じてソングの名前（タイトル）を編集します。（ → 34ページ「名前の編集」）

ヒント

後からでも、**"SONG"**メニュー画面内の**"NAME EDIT"**項目を使ってソングの名前（タイトル）を編集することができます。また、ソングを保存するときにもソング名を編集することができます。

5. F2**"[EXEC]"**ボタンを押します。
現在ロードされているソングが保存され、新しいソングが作成されます。

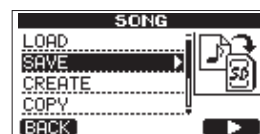
6. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

ソングを保存する

本機をシャットダウン処理（今まで操作した各種情報の記録）するときや別のソングを呼び出すときに、ソングが自動的に保存されますが、以下の手順でいつでもソングを保存することができます。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。

2. DATAホイールを使って**"SONG"**メニュー項目を選択（反転表示）し、F4**"[▶]"**ボタンを押します。
"SONG"メニュー画面が表示されます。

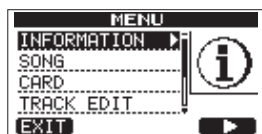
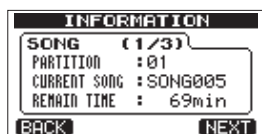
3. DATAホイールを使って**"SAVE"**項目を選択（反転表示）し、F4**"[▶]"**ボタンを押します。

"SONG SAVE"画面が表示されます。

4. 必要に応じてソングの名前（タイトル）を編集します。（ → 34ページ「名前の編集」）
そのまま保存するときは、F2**"[EXEC]"**ボタンを押します。

5. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

ソング情報を見る

カレントソング（現在ロード中のソング）の名前（タイトル）、所属のMTRパーティション、録音残時間を確認することができます。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. DATAホイールを使って **“INFORMATION”** 項目を選択（反転表示）し、F4 **“[▶]”** ボタンを押します。
   “INFORMATION” 画面が表示されます。

   “INFORMATION” 画面の **“SONG (1/3)”** ページに進み、カレントソング（現在ロード中のソング）の名前（タイトル）と録音残時間が表示されます。

メモ

“INFORMATION” 画面には、**“SONG (1/3)”**、**“CARD (2/3)”**、**“F/W (3/3)”** の3ページがあり、F3 **“[PREV]”** ボタンとF4 **“[NEXT]”** ボタンを使ってページを切り換えます。（ → 62ページ「情報を見る」）

ソングをコピーする

ソングをコピーすることができます。複数のソングをまとめて一括コピーすることもできます。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. DATAホイールを使って **“SONG”** メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 **“[▶]”** ボタンを押します。
   “SONG” メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って **“COPY”** 項目を選択（反転表示）し、F4 **“[▶]”** を押します。

[5-10]

   “SONG COPY” 画面に進み、ソングリストが表示されます。

[5-11] 差換え済み

4. DATAホイールを使ってコピーしたいソングを選択（反転表示）し、F4 **“[✔]”** ボタンを押します。
   ソングがコピー元として選択され、チェックボックスが **“✔”** されます。

メモ

チェックボックスの **“✔”** を外すには、**“✔”** したソングを選択（反転表示）した状態でF4 **“[✔]”** ボタンを再度押します。

5. 複数のソングをコピーする場合は、手順**4.**を繰り返します。
6. コピーするソングをすべて選択（チェックボックスを **“✔”**）したら、F2 **“[NEXT]”** ボタンを押します。
   コピー先のMTRパーティションを選択する表示になります。

   また、この表示では選択されたMTRパーティションの空き容量（**“Free”**）と、コピーするソングのデータ容量（**“Total”**）が表示されます。
   空き容量がソングの容量よりも小さいときには、コピーすることはできません。（実行時に警告のポップアップメッセージ **“No Disk Space”** が表示されます。）

メモ

本機でフォーマットしたSDカードでは、MTRパーティションは一つしか作成できないため、他のMTRパーティションを選択することはできません。他のDPシリーズ（TASCAM DP-004、DP-008）で複数のMTRパーティションを作成したSDカードを使用している場合のみ選択が可能です。

7. F4 **“[EXEC]”** ボタンを押して、コピーを実行します。
   コピーが終了すると **“SONG”** メニュー画面に戻ります。

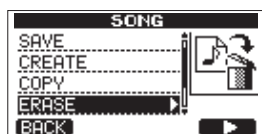
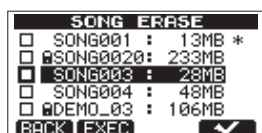
メモ

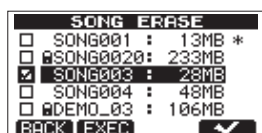
ソングコピーをキャンセルしたいときは、F4 **“[EXEC]”** ボタンを押す代わりにF1 **“[BACK]”** ボタンを押します。

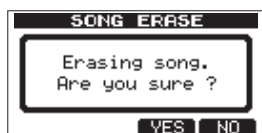
8. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

ソングを消去する

ソングを消去することができます。複数のソングをまとめて一括消去することもできます。SDカードの空き容量が少なくなった場合は、不要なソングを消去することをお勧めします。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. DATAホイールを使って **"SONG"** メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"** ボタンを押します。
"SONG" メニュー画面が表示されます。
3. DATAホイールを使って **"ERASE"** 項目を選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"** ボタンを押します。

"SONG ERASE" 画面に進み、ソングリストが表示されます。

4. DATAホイールを使って消去したいソングを選択(反転表示)し、F4 **"[✔]"** ボタンを押します。
選択したソングのチェックボックスが **"✔"** されます。

メモ

チェックボックスの **"✔"** を外すには、**"✔"** したソングを選択（反転表示）した状態でF4 **"[✔]"** ボタンを再度押します。

5. 複数のソングを消去する場合は、手順**4.**を繰り返します。
6. 消去するソングをすべて選択したら、F2 **"[EXEC]"** ボタンを押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。

7. F3 **"[YES]"** ボタンを押します。
消去が実行され、終了すると **"SONG"** メニュー画面に戻ります。

メモ

ソングの消去をキャンセルする場合は、F3 **"[YES]"** ボタンを押す代わりにF4 **"[NO]"** ボタンを押します。

8. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

メモ

MTRパーティションには、必ずソングが1つ以上存在しなければなりません。したがって、全てのソングを消去すると、新規のソングが1つ作成されます。

ソングをプロテクトする

ソングをプロテクトすることにより、そのソングに対する編集、録音、消去といった操作を行えないようにすることができます。

1. プロテクトしたいソングをロードします。
2. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
3. DATAホイールを使って **"SONG"** メニュー項目を選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"** ボタンを押します。
"SONG" メニュー画面が表示されます。
4. DATAホイールを使って **"PROTECT"** 項目を選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"** ボタンを押します。

プロテクトのオン／オフを設定する **"SONG PROTECT"** 画面が表示されます。

5. DATAホイールを使って **"PROTECT"** を **"ON"** に設定し、F2 **"[EXEC]"** ボタンを押します。
プロテクトがオンに設定されて、**"SONG"** メニュー画面に戻ります。
6. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

メモ

- コピー、削除などを行うときに表示されるソングリスト上では、プロテクトされたソングの先頭に **"🔒"** アイコンが付いています。
- プロテクトされたソングに対して禁止操作（編集、録音、消去）を実行しようとすると、ディスプレーにポップアップメッセージ **"Song Protected"** が表示され、操作を受け付けません。
- プロテクトされたソングのプロテクトを解除するには、上記の手順**4.**で **"PROTECT"** を **"OFF"** に設定します。

入力ソースを選択する

本機には、2つの入力（INPUT AおよびINPUT B）があり、それぞれ個別に入力ソースを選択することができます。
入力ソースには、内蔵マイク（フロントパネルのMIC A、MIC B）または外部入力信号（リアパネルのINPUT A端子、INPUT B端子からの入力）をINPUT AスイッチおよびINPUT Bスイッチで選択できます。
INPUT Aの標準ジャック入力は、マイク／ライン信号のほかにギターを入力することができます。ギターを入力する場合は、INPUT AスイッチをGUITARにします。

	INPUT A	INPUT B
GUITAR	INPUT A端子（標準ジャック）ギターまたはベース直接接続時	
MIC/LINE	INPUT A端子（XLRまたは標準ジャック）	INPUT B端子（XLRまたは標準ジャック）
INTERNAL MIC A ／ B	内蔵マイク（MIC A）	内蔵マイク（MIC B）

メモ

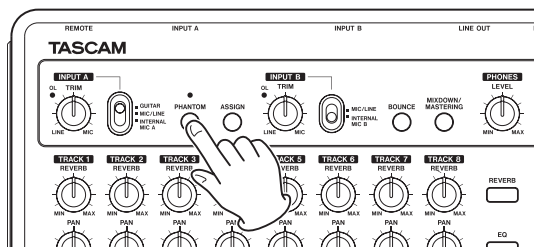
INPUT A端子およびINPUT B端子のXLR端子と標準ジャック両方に機器を接続しないでください。

ヒント

プリアンプ内蔵のエレアコギターやアクティブタイプのエレキギターを接続する場合や、エレキギターと本機の間にエフェクターなどを接続する場合は、INPUT AスイッチをMIC/LINEに設定します。

ファントム電源について

ファントム電源を必要とするコンデンサマイクを接続する場合は、以下の手順でファントム電源をオンにします。
ファントム電源をオンにすると、INPUT AおよびINPUT BのXLR端子の両方にファントム電源が供給されます。

1. レコーダーが停止中にPHANTOMボタンを押して、**"PHANTOM"** 画面が表示されます。

2. F4 **"[ON]"** ボタンを押すと、ファントム電源がオンになり、PHANTOMボタンの上のインジケーターが点灯し、ホーム画面に戻ります。
ファントム電源をオフにするには、上記**2.**の操作で、F1 **"[OFF]"** ボタンを押します。

メモ

ファントム電源を切り換えている間は、下記のポップアップメッセージが表示されます。

この画面が表示されている間は、全ての操作が行えません。この画面が消えてホーム画面に戻ってから操作を行ってください。

注意

- ファントム電源のオンまたはオフは、MASTERフェーダーを下げた状態で行ってください。マイクによっては大きなノイズを発生し、他の機器または人体を損傷する恐れがあります。
- ファントム電源をオンにした状態でマイクの抜き差しをないでください。大きなノイズを発生し、機器が故障する恐れがあります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、ファントム電源をオンにしてください。
- アンバランスタイプのダイナミックマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。機器が故障する恐れがあります。
- リボンマイクロホンの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。

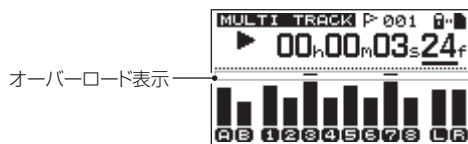
入力信号のモニターについて

入力信号をモニターするには、その信号を録音するトラックのREC ボタンを押し、RECインジケーターを点灯／点滅させます。

メモ

レコーダー再生中は、再生信号と入力ソースの音のミックス信号が、PHONES端子またはLINE OUT端子に接続したヘッドホンや、モニターシステムから聞こえてきます。

OLインジケーターおよびレベルメーターについて

INPUT AおよびINPUT BのOLインジケーターとディスプレーに表示されるレベルメーターによって、本機のオーディオのレベルを確認することができます。
レベルメーターは、信号のレベルを監視するためのものですが、本機に信号が入力されているかどうかを確認するときにも使うことができます。たとえば、モニターに何も聞こえない場合であっても、ディスプレーの“A”と“B”のレベルメーターが振れていれば、本機には信号が入力されていることになります。
次の図のように、レベルメーターの一番上に“＿”が点灯する場合は、オーバーロードするレベルに達しています（“＿”表示はしばらくホールドされた後、自動的に消えます）。この状態では音が歪んでいる可能性がありますので、“－”が点灯しないよう、レベルを下げてください。
OLインジケーターが点灯する場合は、入力ソース信号が大きすぎるか、あるいはTRIMつまみを上げすぎています。
TRIMつまみをMINに設定してもOLインジケーターが点灯する場合は、入力ソース信号が大きすぎますので、入力ソースの音量を下げてください。

入力レベルメーター（A、B）

ディスプレーの“A”と“B”のレベルメーターは、本機の入力、INPUT AとINPUT Bの入力レベルを表示します。
INPUT AまたはINPUT BのTRIMつまみ、または入力ソースの出力ボリュームを使ってレベルを調節します。

TRACKレベルメーター（1 ～ 8）

トラックの再生信号レベルまたはトラック入力信号レベルを表示します。動作状態に応じて、下記の信号のレベルを表示します。

RECインジケーター	トランスポート状態	レベルメーターの表示内容
消灯	再生	トラック再生信号
点滅（録音待機）	再生	トラック再生信号
点滅（録音待機）	停止	トラック入力信号
点灯時（録音時）	録音	トラック入力信号

メモ

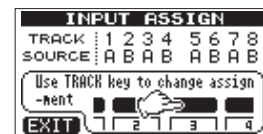
再生信号表示時は、トラックに録音されている信号のレベルが表示されますので、レベルメーターのレベルを変えることはできません。
入力信号表示時は、INPUT AとINPUT BのTRIMつまみによってレベルメーター表示レベルが変わります。

ステレオレベルメーター（L、R）

本機のステレオバス出力のレベルを表示します。
出力レベルは、MASTERフェーダーを使って調節します。

入力をアサインする

本機にて「入力をアサインする」ということは、それぞれのTRACKの録音ソースをINPUT AまたはINPUT Bのどちらにするのかを設定することです。
本機では、同時に最大2トラックの録音が可能です。1つの入力を2つのトラックに同時にアサインすることもできます（この場合は、もう一方の入力は使用できません）。2つの入力を同じトラックにアサインすることはできません。

1. レコーダーが停止中にASSIGNボタンを押して、**“INPUTASSIGN”**画面を表示します。

初期設定では、**“TRACK 1”**、**“3”**、**“5”**、**“7”**の録音ソースとして**“A”**（INPUT A）がアサインされ、**“TRACK 2”**、**“4”**、**“6”**、**“8”**の録音ソースとして**“B”**（INPUT B）がアサインされています。

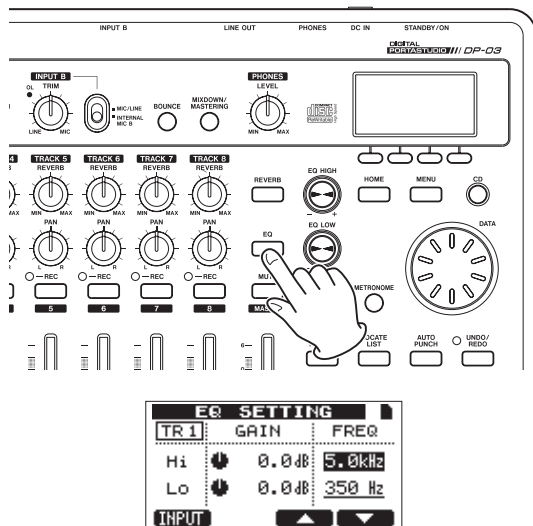
2. RECボタンを使って、各TRACKの入力ソースを**“A”**（INPUT A）または**“B”**（INPUT B）に設定します。
RECボタンを押すたびに**“A”**、**“B”**が切り換わります。
3. 設定が終了したらHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

INPUT EQ（イコライザー）を使う

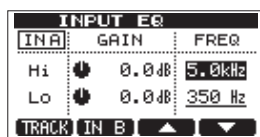
INPUT AおよびINPUT Bには、2バンドのEQ（イコライザー）が搭載されています。

INPUT EQ（イコライザー）の設定は、**"INPUT EQ"** 画面で行います。

1. **EQ**ボタンを押して、**"EQ SETTING"** 画面を表示します。

EQ SETTING
TR 1　GAIN　FREQ
Hi　0.0dB　5.0kHz
Lo　0.0dB　350 Hz
INPUT

このとき、**"TR1"** の設定画面になっています。

2. F1 **"[INPUT]"** ボタンを押して、**"INPUT EQ"** 画面を表示します。

INPUT EQ
IN A　GAIN　FREQ
Hi　0.0dB　5.0kHz
Lo　0.0dB　350 Hz
TRACK　IN B

INPUT EQ（イコライザー）のパラメーターは、以下の通りです。

	GAIN	FREQ
Hi	高域のゲイン 設定値：±12dB （初期値：0.0dB）	高域の周波数 設定値：1.7kHz〜18kHz （初期値：5kHz）
Lo	低域のゲイン 設定値：±12dB （初期値：0.0dB）	低域の周波数 設定値：32Hz〜1.6kHz （初期値：350Hz）

F2 **"[IN A]"** ボタン（または **"[IN B]"** ボタン）を押して、INPUT A ／ Bを切り換えます。

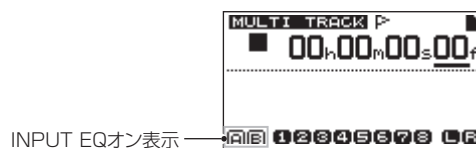
EQ HIGHつまみを使って **"Hi"** のゲイン、EQ LOWつまみを使って **"Lo"** のゲインを調節します。

F3 **"[▲]"** ボタンとF4 **"[▼]"** ボタンを使って **"Hi"** ／ **"Lo"** の選択、DATAホイールを使って **"FREQ"** の設定を行います。

F1 **"[TRACK]"** ボタンを押すと、**"EQ SETTING"** 画面に戻ります。

3. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

メモ

INPUT EQ（イコライザー）がオンになっている入力は、ホーム画面上の入力表示が以下のようになります。

レコーディング（最初の録音）

以下に述べる録音操作は、すでに録音ソースを接続し、入力をトラックの録音ソースとしてアサインし、モニター（ヘッドホン）を接続していることを前提にしています。

1. 録音するトラックのRECボタンを押します。
   RECインジケーターが赤く点滅します（この状態を「録音待機状態」と言います）。
   同時に録音できるトラック数は、最大2トラックです。
   2つのトラックのRECインジケーターが点滅しているときに別のRECボタンを押すと、最初に押したトラックの録音待機状態が解除され、RECインジケーターが消灯します。たとえば、TRACK 1、TRACK 2、TRACK 3の順にRECボタンを押した場合は、最初に押したTRACK 1の録音待機状態が解除されて、後から押したTRACK 2、TRACK 3が録音待機状態になります。

2. 録音のレベルを設定します。
   入力（INPUT A、INPUT B）のTRIMつまみを使って入力レベルを調節します。このとき、ディスプレーの"A"と"B"レベルメーターとTRIMつまみ左上のOLインジケーターを監視しながら、適正にレベルを設定します。
   同時に、ヘッドホンやモニターシステムから聞こえてくる音が歪んでいないことを確認します。

メモ

入力信号がアサインされているトラックのレベルメーターは、INPUT EQ（イコライザー）後の入力レベルを表示します。INPUT EQ（イコライザー）を使用している場合は、入力信号のアサインされたトラックのレベルメーターも同時に監視する必要があります。

入力が大きすぎると、OLインジケーターが点灯します。

その入力のTRIMつまみを下げてもOLインジケーターが点灯する場合は、入力ソース信号のレベルを下げます。

3. RECORD【●】ボタンを押しながらPLAY【►】ボタンを押します。
   録音が始まりRECORD【●】ボタンが赤く点灯します。
   トラックのRECインジケーターが点滅から点灯に変わります。

4. 録音が終了したらSTOP【■】ボタンを押します。

5. REW【◄◄】[TO ZERO] ボタンなどを使って、確認したい位置に移動（ロケート）します。

ヒント

録音を開始した位置やソングの先頭（**"00:00:00"**）などに戻るには、TO ZERO機能やTO LAST REC機能を使うと簡単にその位置に移動できます。早戻し／早送しやロケート機能については、45ページ「ロケート／サーチ機能」を参照してください。

6. PLAY【►】ボタンを押して、録音したトラックを再生します。
   トラックフェーダーとMASTERフェーダーを使って、再生レベルを調節します。
   最終的なモニターの音量は、PHONES LEVELつまみまたはモニターシステムのボリュームを使って調節します。
   各TRACKのPANつまみを使って、左右スピーカー間におけるトラック信号の定位を設定します。

メモ

- 各TRACKのPANつまみやトラックフェーダーは、録音済みトラックの再生出力信号、もしくは入力信号のモニター音をコントロールします。録音される信号はコントロールしません。
- 録音に満足できなかったら、上記の手順を初めからやり直します。

マルチトラック録音

すでに録音されているトラックの再生信号に合わせて、別のトラックに新しい音を録音します。

録音するトラックを設定する

- 録音済みトラックのRECボタンを押してRECインジケーターを消灯します。
- 新たに録音するトラックのRECボタンを押して、録音待機状態にします（RECインジケーター点滅）。

TRACKのパン／レベルを設定する

録音済みトラックのPANつまみとトラックフェーダーを使って、録音時の再生信号モニターの定位とレベルを調節します。

入力の選択とアサイン

本章ですでに述べた方法で、入力ソースを録音トラックにアサインします。

入力レベルを設定する

設定が終了したら、PLAY【►】ボタンを押して再生を行います。本番の録音と同じように、録音済みトラックの再生音と録音トラックの入力ソースをモニターすることができますので、モニターのバランスや音量を確認します。

録音する

RECORD【●】ボタンを押しながらPLAY【►】ボタンを押します。再生音を聞きながら別のトラックに新たな録音を行います。

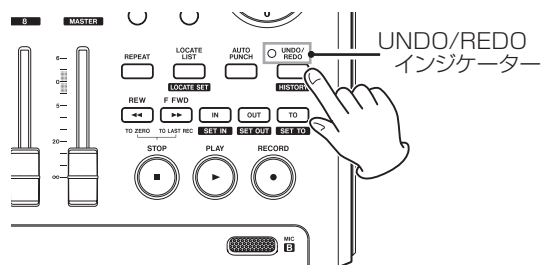
実行した操作を取り消す（アンドゥ）

本機の操作を失敗したときや、レコーディングがうまくいかなかったときなど、操作を取り消すことができます。編集操作、録音操作など、多くの通常の操作は取り消し（アンドゥ）が可能です。
本機のアンドゥには、シンプルなボタン操作で行うことができるシングルアンドゥと、操作履歴上の任意の位置に戻ることができるマルチアンドゥの2種類があります。

メモ

アンドゥまたはマルチアンドゥが実行されて、取り消された操作があるとき、UNDO/REDOインジケーターが点灯します。

最後に行った操作を取り消す（シングルアンドゥ）

UNDO/REDO [HISTORY] ボタンを押します。
最後の操作を行う前の状態に戻ります。
この状態でUNDO/REDOインジケーターが点灯し、リドゥ（以下参照）が可能です。

アンドゥ操作を取り消すには（リドゥ）

UNDO/REDOインジケーターが点灯中に、このボタンを押します。
最後の操作が再び有効になって本機が最新の状態に戻り、UNDO/REDOインジケーターが消灯します。

メモ

以下に述べるマルチアンドゥを実行して本機が以前の状態に戻っているときにシングルアンドゥを実行すると、さらに一つ前の状態に戻ります。
再度UNDO/REDO [HISTORY] ボタンを押してリドゥを実行すると、シングルアンドゥ操作が取り消され、再びマルチアンドゥ後の状態に戻ります。この場合は、マルチアンドゥにより取り消された操作がまだあるため、UNDO/REDOインジケーターは点灯したままです。

ある操作以降の操作を取り消す（マルチアンドゥ）

1. UNDO/REDO [HISTORY] ボタンを長押しして、**"HISTORY"** 画面を表示します。

"HISTORY" 画面には、操作履歴のリストが表示されています。リスト上の各操作項目を「イベント」と呼びます。
イベント番号 **"0"**（**"-START UP-"**）から操作順にイベントがリスト形式に表示され、いちばん上の行が最新のイベントです。最新のイベントの脇には、**"＊"** アイコンが付いています。
このリスト内で指定するイベント以降のイベントを取り消すことができます。このように複数のイベントを取り消してそれ以前の状態に戻す操作を「マルチアンドゥ」と呼びます。

2. DATAホイールを使って、操作をさかのぼりたいイベントを選択します（選択したイベント以降のイベントが取り消されることになります）。

3. F2 **"[EXEC]"** ボタンを押します。
マルチアンドゥが実行され、選択したイベント直後の状態に戻ります。この状態でUNDO/REDOインジケーターが点灯します。
上記によって、取り消されたイベント情報が消えるわけではありません。本機の状態がさかのぼっているだけです。
"HISTORY" 画面上では、アンドゥによってさかのぼったイベントの脇に **"＊"** アイコンが表示されます。

メモ

"HISTORY" 画面表示中は、UNDO/REDO [HISTORY] ボタンが無効になり、シングルアンドゥとリドゥを実行できません。

注意

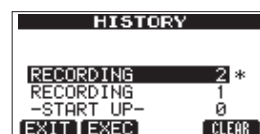
- ソングセーブ時にソングファイルとして記録される操作履歴は最大500項目です。操作履歴が500項目を超えている場合は、ソングセーブ時に古い操作履歴が削除されます。このときに削除された操作履歴を復活することはできません。
- 電源オフ（スタンバイ状態）すると操作履歴は、全て消去されます。再び電源オフ（スタンバイ状態）したときには、電源オフした時の状態となり、それ以前の操作履歴に戻ることはできません。

操作履歴の消去について

電源をオフ（スタンバイ状態）にすると、現在ロードされているソングの操作履歴が全て消去（クリア）されます。
再度電源をオンにしたときは、前回の電源オフ（スタンバイ状態）時の状態でソングが立ち上がり、過去の操作のアンドゥやリドゥはできません。

メモ

電源オフ（スタンバイ状態）時にロードされていないソングの操作履歴は消去されません。また、電源オンのままで現在ロード中のソングの操作履歴を消去（クリア）するには、以下の手順を行います。

1. UNDO/REDO [HISTORY] ボタンを長押しして、**"HISTORY"** 画面を表示します。

2. F4 **"[CLEAR]"** ボタンを押します。
確認のポップアップメッセージが表示されます。

3. F3 **"[YES]"** ボタンを押します。
再度、確認のポップアップメッセージが表示されます。

4. F3 **"[YES]"** ボタンを押します。
操作履歴がクリアされ、使用していないデータが消去されます。操作が完了するとホーム画面に戻ります。

メモ

操作履歴の削除を中止したいときは、F4 **"[NO]"** ボタンを押します。

ヒント

- 操作履歴の消去を行った直後に **"HISTORY"** 画面を見ると、イベント（ 操作）番号 **"0"**（**"-START UP-"**）のみが表示され、全ての操作履歴がクリアされたことを確認できます。
- 電源オフ（スタンバイ状態）しても操作履歴を残しておきたいときは、電源オフ（スタンバイ状態）する前にソングプロテクトをオンにしておいてください。（ → 37ページ「ソングをプロテクトする」）

注意

操作履歴の消去は取り消し（アンドゥ）できません。よく確認してから実行してください。

パンチイン／アウト

パンチイン／アウトは、録音済みのトラックの一部を差し替えるときに使うテクニックです。
レコーダーを再生して、差し替え部分に来たら録音に切り換え（パンチイン）、差し替え部分を終了したら再生（または停止）に切り換えます（パンチアウト）。

1. あらかじめ差し替える部分を決めておきます。
   差し替えた音声が元のトラック音声とうまくつながるようなポイントを選びます。
2. 差し替えるトラックのRECボタンを押して、録音待機状態にします（RECインジケーター点滅）。
3. 差し替え部分の手前から再生を始めます。
4. 差し替え部分に来たらRECORD【●】ボタンを押して、演奏を行います。
   録音に切り換わります（パンチイン）。
5. 差し替え部分の終わりに来たらPLAY【►】ボタンを押します。
   再生に切り換わります（パンチアウト）。

メモ

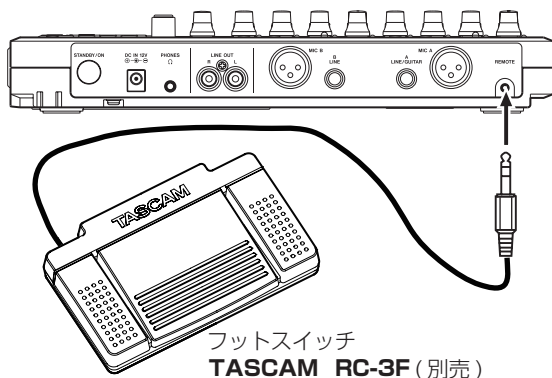
録音ソースに内蔵マイク（MIC A ／ B）を選択しているときにパンチイン／アウト機能を使うと、ボタンの操作音が録音されてしまうことがあります。別売の専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）を使うか、オートパンチイン／アウト機能（ → 48ページ「オートパンチイン／アウト」）を使うとこれを避けることができます。

ヒント

差し替え部分の終わりに来たとき、STOP【■】ボタンを押して停止してパンチアウトすることもできます。

フットスイッチを使ったパンチイン／アウト

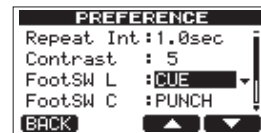
リアパネルのREMOTE端子に接続した専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）を使って、パンチイン／アウトを行うこともできます。
上記手順の**4.**でRECORD【●】ボタンの変わりにフットスイッチを踏み、手順**5.**のPLAY【►】ボタンの変わりに再度フットスイッチを踏みます。

フットスイッチ
TASCAM　RC-3F（別売）

メモ

フットスイッチの設定で**“PUNCH”**に設定したスイッチを踏んでください。初期設定状態では、ペダルCが**“PUNCH”**に設定されています。（ → 43ページ「フットスイッチを設定する」）

フットスイッチを設定する

フットスイッチの設定は、**“PREFERENCE”**画面で行います。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. DATAホイールを使って**“PREFERENCE”**メニューを選択（反転表示）し、F4 **“[►]”**ボタンを押して**“PREFERENCE”**画面を表示します。
3. F3 **“[▲]”**ボタンとF4 **“[▼]”**ボタンを使って、**“FootSW L”**項目を選択（反転表示）します。

4. DATAホイールを使って専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）のペダルL（左）に割り当てる機能のパラメーターを選択します。
   選択肢：**“PLAY”**、**“REC”**、**“STOP”**、**“F FWD”**、**“REW”**、**“PUNCH”**、**“PLY/STP”**、**“CUE”**（ペダルL：初期値）
5. 同様にして**“Foot SW C”**項目でペダルC（中）、**“Foot SW R”**項目でペダルR（右）の機能のパラメーターを設定します。
   選択肢：**“PLAY”**、**“REC”**、**“STOP”**、**“F FWD”**、**“REW”**、**“PUNCH”**（ペダルC：初期値）、**“PLY/STP”**（ペダルR：初期値）、**“CUE”**
6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

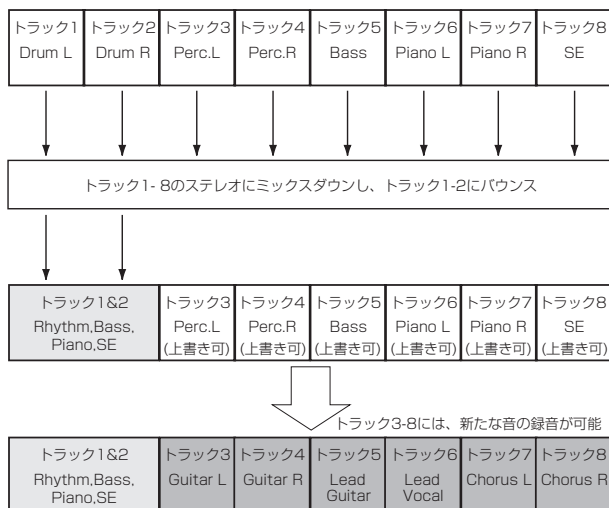
フットスイッチパラメーター一覧

パラメーター	内容
PLAY	本体のPLAY【►】ボタンと同じ動作をします。
REC	本体のRECORD【●】ボタンと同じ動作をします。
STOP	本体のSTOP【■】ボタンと同じ動作をします。
F FWD	本体のF FWD【►►】[TO LAST REC] ボタンと同じ動作をします。
REW	REW【◄◄】[TO ZERO] ボタンと同じ動作をします。
PUNCH	再生中に押すとパンチインを、録音中に押すとパンチアウトを行います。
PLY/STP	停止中に押すと再生を開始し、停止中以外に押すと停止します。
CUE	最後に再生を開始したポイントにロケートします。

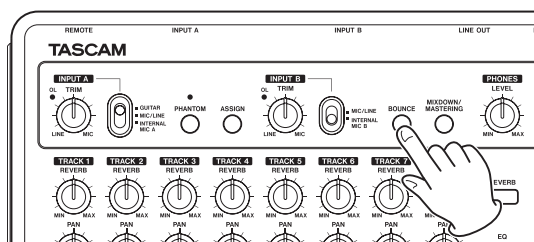
トラックバウンス

本機のトラックバウンス（ピンポン）機能を使って、録音済みのトラック1 ～ 8をミックスしてトラックに戻すことができます。
テープを使ったマルチトラックレコーダーでは、空きトラックにバウンスすることしかできません（つまり再生トラックには、録音することができません）。
たとえば、トラック1 ～ 7をトラック8にバウンスできますが、トラック1 ～ 8をトラック1にバウンスすることはできません。
本機ではこうした制約がなく、トラック1 ～ 8をミックスダウンしてトラック1/2に録音（ステレオバウンス）、あるいはトラック1 ～ 8をモノラルミックスしてトラック1に録音（モノラルバウンス）といったことが可能です。

メ モ

本機の内部では、いったんミックスダウンを行ってミックスマスターを作成し、これを指定のトラックに録音しています。

再生トラック自身に録音した場合は、当然、元の再生トラックは消去されます（上図では、トラック1と2のドラムスパートがミックス信号で上書きされます）。ただし、本機には取り消し（アンドゥ）機能がありますので、誤った操作を行った場合でも操作を取り消すことができます（ → 41ページ「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」）。

トラックバウンスを行う

1. レコーダーモードが **“MULTI TRACK”** モードのときに、**BOUNCE**ボタンを押します。

ポップアップメッセージ **“Bounce !”** が表示した後、本機のレコーダーモードが **“BOUNCE”** モードに切り換わり、ホーム画面に戻ります。

メ モ

バウンスモードのときは、ホーム画面左上のバーに **“BOUNCE”**（反転表示）が表示されます。

2. バウンス先にしたいトラックの**REC**ボタンを押し、**REC**インジケーターを点滅させます。
ステレオバウンスする場合は、2つのトラックの**REC**インジケーターを点滅させます。
モノラルバウンス（単一トラックにバウンス）の場合は、いずれか1つのトラックの**REC**インジケーターを点滅させます。

3. バウンス元になるトラックのトラックフェーダーと**PAN**つまみを調節します。
ステレオバウンスの場合は、番号の若い方のトラックがL側になります。
モノラルバウンスにする場合は、バウンス元となるトラックの**PAN**つまみを**L**いっぱいに設定します。
MASTERフェーダーで全体のレベルを調節します。

4. ソングの冒頭にロケートしてから、**RECORD**【●】ボタンを押しながら**PLAY**【►】ボタンを押します。
トラックバウンスが実行されます。

結果を確認する

バウンス元のトラックをミュートして、ソングの冒頭から再生します。（ → 54ページ「トラックのミュート」）
楽器のバランスが良くない、あるいはパン設定が良くないなど、結果に満足できない場合は、アンドゥを実行します。（ → 41ページ「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」）
結果に満足したら、**BOUNCE**ボタンを押してレコーダーモードを **“MULTI TRACK”** モードに戻します。
トラックバウンス後、バウンスしたトラック以外のトラックには、新たな音を録音（上書き）することができます。

ヒント

後からオリジナルトラックが必要になる可能性がある場合は、バウンス（ピンポン録音）の前にソングのデータをパソコンやCD-R ／ CD-RWディスクにバックアップしたり、ソングのコピーを作成しておいてください。（ → 36ページ「ソングをコピーする」）、（ → 66ページ「パソコンと接続する」）、（ → 78ページ「CD-R ／ CD-RWディスクにソングデータをバックアップする」）

ロケート／サーチ機能

ダイレクトロケート機能

ホーム画面上部には、レコーダーの現在位置「時：分：秒：フレーム」として時間表示されています（30フレームで1秒）。
この時間表示部に指定の時間を入力することによって、レコーダーの現在位置を移動することができます。

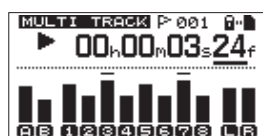
1. ホーム画面で、HOMEボタンを使って、時間桁間でカーソル（下線）を移動します。
   カーソル（下線）位置の桁の値を編集することができます。
   下図の例では、「秒」桁が選択されています。

2. DATAホイールを使ってカーソル（下線）桁の値を変えます。
   それぞれの桁は、自動繰り上げ／繰り下げされます。たとえば、プラス方向（時計回り）にDATAホイールを回転して **"59"** 秒から **"0"** 秒になったとき、分桁の値が1つ大きくなります。
   DATAホイールを使うと時間表示が点滅します。
   レコーダーが表示の位置に移動すると点滅が止まります。
3. 別の桁を編集するには、HOMEボタン使って桁を移動し、DATAホイールを使って値を変更します。
4. 希望の時間値を設定後、PLAY【►】ボタンを押すと、その位置から再生が始まります。

ロケートマーク

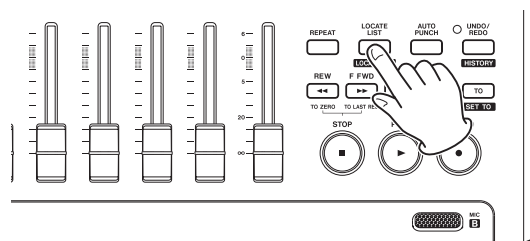
本機では、1つのソングに付き001から999までの999個のロケートマークを設定することができます。
イントロの始まるポイント、ボーカルの入るポイントといった個所にマークを付けておくと便利です。

ロケートマークを設定する

停止中、録音中、再生中にロケートマークを設定したい位置でLOCATE LIST [LOCATE SET] ボタンを長押しします。
ホーム画面の **"⊳"** アイコンに続けてマーク番号が表示されます。
表示されるマーク番号は、現在位置のマークまたは直前のマークの番号です。

メ モ

登録順にマーク番号が付きます。ソング内の位置順ではありません。したがって、マーク005がマーク001より手前にあるというような場合もあり得ます。

ロケートマークにロケートする

LOCATE LIST [LOCATE SET] ボタンを押すと、**"LOCATE LIST"** 画面が表示されます（ソング内の設定位置順に表示）。

DATAホイールを使って希望のロケートマークを選択してF4 **"[JUMP]"** ボタンを押すと、そのポイントにロケートします。

メ モ

- F1 **"[EXIT]"** ボタンまたはLOCATE LIST [LOCATE SET] ボタンまたはHOMEボタンを押すとホーム画面に戻ります。
- ロケートマークが現在のソングに存在しない場合は、ロケートマークリストを表示せずにポップアップメッセージ **"No Locate Mark"** を表示した後、**"I/O SETTING"** 画面を表示します。（ → 46ページ「IN ／ OU ／ TOポイントを設定する」）

ロケートマークを削除する

レコーダーが停止中に、ロケートマークを削除できます。

1. LOCATE LIST [LOCATE SET] ボタンを押して、**"LOCATE LIST"** 画面を表示します。

2. DATAホイールを使ってマークを選択し、F2 **"[EDIT]"** ボタンを押します。
   "LOCATE LIST" 画面の編集モード表示になります。

3. F2 **"[DEL]"** ボタンを押すとそのマークが削除され、**"LOCATE LIST"** 画面に戻ります。
4. F1 **"[EXIT]"** ボタン、LOCATE LIST [LOCATE SET] ボタンまたはHOMEボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

メ モ

- マークは、時間順に表示されます。番号順ではありません。
- この操作は取り消し（アンドゥ）できません。よく確認してから実行してください。

ロケートマークを編集する

ロケートマークを設定した後、ロケートマークの時間を編集することができます。

ヒント

一般に「トリミング」と呼ばれています。

1. LOCATE LIST [LOCATE SET] ボタンを押して、**"LOCATE LIST"** 画面を表示します。

2. DATAホイールを使ってマークを選択し、**F2 "[EDIT]"** ボタンを押します。
   "LOCATE LIST" 画面の編集モード表示になります。

メモ

マークは、時間順に表示されます。番号順ではありません。

3. **F3 "[◀]"** ボタンまたは**F4 "[▶]"** ボタンを使って時間桁間でカーソル（反転表示部）を移動します。
   カーソル（反転表示部）位置の桁の値を編集することができます。

4. DATAホイールを使ってカーソル（反転表示部）桁の値を変えます。
   それぞれの桁は、自動繰り上げ／繰り下げされます。たとえば、プラス方向（時計回り）にDATAホイールを回転して **"59"** 秒から **"0"** 秒になったとき、分桁の値が1つ大きくなります。

メモ

手前のマークポイントより手前、または次のマークポイントより後にポイントを設定することはできません。

5. 編集を終了したら、**F1 "[EXIT]"** ボタンを押します。
   編集した値が確定し、**"LOCATE LIST"** 画面に戻ります。

曲の先頭に戻す（TO ZERO機能）／最後に録音を始めた位置に戻す（TO LAST REC機能）

シンプルなボタン操作でソングの先頭（00:00:00:00＝ZEROポイント）、あるいは最後に録音を始めた位置（LAST RECポイント）にロケートすることができます。
ソングの先頭（00:00:00:00＝ZEROポイント）に戻るには、**STOP【■】**ボタンを押しながら**REW【◀◀】[TO ZERO]** ボタンを押します（TO ZERO機能）。
最後に録音を始めた位置（LAST RECポイント）に戻るには、**STOP【■】**ボタンを押しながら**F FWD【▶▶】[TO LAST REC]** ボタンを押します（TO LAST REC機能）。
録音を行った後、録音をやり直したいときなどに便利な機能です。

早送り／早戻しサーチ

停止中に、**REW【◀◀】[TO ZERO]** ボタンまたは**F FWD【▶▶】[TO LAST REC]** ボタンを押すと、早戻し、早送りを行います。
押すたびにスピードが、10倍 → 50倍 → 100倍 → 1000倍と変化します。
再生中にこのボタンを押すと、押している間だけ早戻し、早送りを行います。このときの早戻し／早送り速度は、10倍（固定）です。

リピート再生

リピート再生機能を使って、繰り返し再生を行うことができます。
リピート再生の範囲は、INポイントとOUTポイントの間です。

IN ／ OUT ／ TOポイントを設定する

INポイントとOUTポイントは、リピート再生の範囲設定に使われるほかに、トラック編集の範囲設定、オートパンチイン／アウトにおけるパンチインポイントとパンチアウトポイントにも使われます。また、ステレオマスタートラック作成時のステレオマスタートラックの開始点および終了点として使われます。
録音時、再生時、停止時のいずれでも、これらのポイントを設定することができます。

メモ

以下の場合は、IN ／ OUT ／ TOポイントの取り込みや編集ができません。

- リピート再生モード中
- オートパンチモード時
- レコーダーモードが **"MIXDOWN"** モードまたは **"MASTERING"** モード時
- **"LOCATE LIST"** 画面、および **"I/O SETTING"** 画面表示中

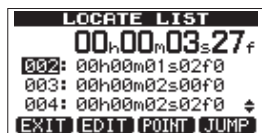
IN ／ OUT ／ TOポイントを取り込む

停止中、再生中、録音中にかかわらず、レコーダーが希望の位置にあるときに、**IN [SET IN]** ボタン／ **OUT [SET OUT]** ボタン／ **TO [SET TO]** ボタンを長押しします。
長押しを開始した位置をINポイント／ OUTポイント／ TOポイントとして設定し、**"SET IN !"** ／ **"SET OUT !"** ／ **"SET TO !"** と、取り込んだ時間がポップアップメッセージとして表示されます。

[SET INの場合]

IN ／ OUT ／ TOポイントにロケートする

停止中または再生中に、IN [SET IN] ボタン／OUT [SET OUT] ボタン／TO [SET TO] ボタンを押します。また、**"I/O SETTING"** 画面からもロケートすることができます。

1. LOCATE LIST [LOCATE SET] ボタンを押して、**"LOCATE LIST"** 画面を表示します。

```
LOCATE LIST
00h00m03s27f
002: 00h00m01s02f0
003: 00h00m02s00f0
004: 00h00m02s02f0
EXIT EDIT POINT JUMP
```

2. F3 **"[POINT]"** ボタンを押して、**"I/O SETTING"** 画面を表示します。

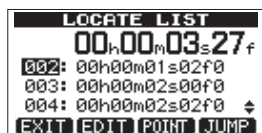
```
I/O SETTING
■ 00h00m03s27f
IN : 00h00m26s07f0
OUT: 00h03m42s04f0
TO : 00h00m17s15f0
EXIT EDIT MARK JUMP
```

メモ

ロケートマークが現在のソングに存在しない場合は、ロケートマークリストを表示せずにポップアップメッセージ **"No Locate Mark"** を表示した後、**"I/O SETTING"** 画面を表示します。

3. DATAホイールを使ってマークを選択（反転表示）し、F4 **"[JUMP]"** ボタンを押します。
指定したポイントにロケートします。

IN ／ OUT ／ TOポイントを編集する

1. LOCATE LIST [LOCATE SET] ボタンを押して、**"LOCATE LIST"** 画面を表示します。

```
LOCATE LIST
00h00m03s27f
002: 00h00m01s02f0
003: 00h00m02s00f0
004: 00h00m02s02f0
EXIT EDIT POINT JUMP
```

2. F3 **"[POINT]"** ボタンを押して、**"I/O SETTING"** 画面を表示します。

```
I/O SETTING
■ 00h00m03s27f
IN : 00h00m26s07f0
OUT: 00h03m42s04f0
TO : 00h00m17s15f0
EXIT EDIT MARK JUMP
```

メモ

ロケートマークが現在のソングに存在しない場合は、ロケートマークリストを表示せずにポップアップメッセージ **"No Locate Mark"** を表示した後、**"I/O SETTING"** 画面を表示します。

3. DATAホイールを使ってマークを選択（反転表示）し、F2 **"[EDIT]"** ボタンを押します。
"I/O SETTING" 画面の編集モード表示になります。

```
I/O SETTING
■ 00h00m03s27f
IN : 00h00m26s07f0
OUT: 00h03m42s04f0
TO : 00h00m17s15f0
EXIT ◀ ▶
```

4. F3 **"[◀]"** ボタンまたはF4 **"[▶]"** ボタンを使って時間桁間でカーソル（反転表示部）を移動します。
カーソル（反転表示部）位置の桁の値を編集することができます。

5. DATAホイールを使ってカーソル（反転表示部）桁の値を変えます。それぞれの桁は、自動繰り上げ／繰り下げされます。たとえば、プラス方向（時計回り）にDATAホイールを回転して **"59"** 秒から **"0"** 秒になったとき、分桁の値が１ つ大きくなります。

6. 編集を終了したら、F1 **"[EXIT]"** ボタンを押します。
編集した値が確定し、**"I/O SETTING"** 画面に戻ります。

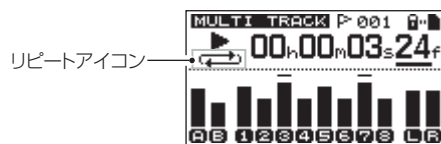
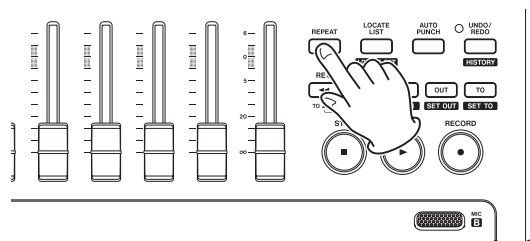
7. F4 **"[JUMP]"** ボタンを押して、ロケートします。

メモ

ロケートをしない場合には、F1 **"[EXIT]"** ボタンまたはHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

リピート再生を実行する

1. リピート再生したい区間の始点と終点を、それぞれINポイントとOUTポイントとして設定し、設定後、ホーム画面に戻します。

2. REPEATボタンを押します。
ホーム画面上に "⇄" アイコンが点灯し、リピート再生が始まります。

INポイントから再生が始まり、OUTポイントまで来ると、あらかじめ設定した間隔（リピートインターバル）を置いてから、再びINポイントからの再生が始まります。
以後、INポイントとOUTポイント間を繰り返し再生します。

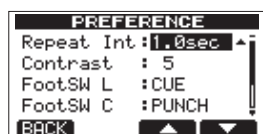
3. リピート再生を解除するには、REPEATボタンを押して、ホーム画面上のリピートアイコンを消灯します。
なお、以下に述べる方法で、OUTポイントまで再生してから再び再生を始めるまでのリピートインターバルを設定します。

リピート再生の間隔を設定する

リピート再生の間隔（リピートインターバル）を1.0秒～ 9.9秒の範囲で設定することができます。

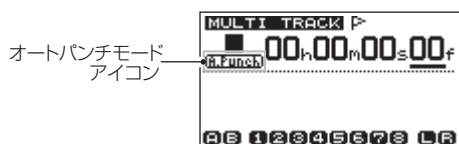
1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。

2. DATAホイールを使って**“PREFERENCE”**メニュー項目を選択（反転表示）し、F4**“[▶]”**ボタンを押します。
   “PREFERENCE”画面が表示されます。

3. F3**“[▲]”**ボタンとF4**“[▼]”**ボタンを使って**“Repeat Int”**項目の設定値を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って値を設定します。

   “1. 0sec”～**“9. 9sec”**の範囲（0.1秒単位）で設定できます。（初期値；**“1. 0sec”**）

4. 設定が終了したらHOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

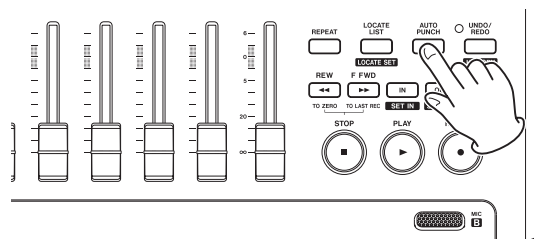
オートパンチイン／アウト

INポイントとOUTポイントが設定されているときに、AUTOPUNCHボタンを押すと、ホーム画面上に“A.Punch”アイコンが点灯し、オートパンチモードに切り換わります。

オートパンチモードには、リハーサル機能があります。これは、実際には録音はしませんが、INポイントとOUTポイントを間を、実際に録音したときと同様のモニターができる機能です。

リハーサル

1. レコーダーが停止中にHOMEボタンを押して、ホーム画面を表示します。

2. オートパンチイン／アウトしたいトラックのRECボタンを押します。

3. INポイントとOUTポイントを設定後、AUTO PUNCHボタンを押して、オートパンチモードに切り換えます。

4. PLAY【▶】ボタンを押します。INポイントの2秒前から再生が始まり、INポイントでモニター音が、トラック再生音+入力音から入力音のみに切り換わります。このとき、IN ／ OUTポイントの間でRECORD【●】インジケーターが点滅します。
   その後OUTポイントでモニター音が、トラック再生音+入力音に戻り、RECORD【●】インジケーターが消灯します。
   OUTポイントの1 秒後に自動的に停止します。
   納得がいくまで、繰り返しリハーサルを行うことができます。

オートパンチイン／アウトの実行

リハーサルが終了したら、実際にオートパンチイン／アウトを行います。

1. オートパンチモードに切り換えた後、RECORD【●】ボタンを押しながら、PLAY【▶】ボタンを押します。
   リハーサル時と同様に、INポイントの2秒手前から再生を開始します。INポイントからOUTポイントまでの間、RECORD【●】インジケーターが点灯し、音声が録音されます。

2. OUTポイントの1秒後に自動的に停止し、オートパンチモードを抜けてINポイントの2秒前に自動的にロケートします。

メモ

- リピート再生モード時およびRECボタンが一つも押されていないときは、オートパンチモードに切り換わりません。
- オートパンチイン／アウトは、アンドゥ可能です。

従来のテープレコーダーでは、高度のテクニックを必要としたようなトラック編集を、本機では簡単に、しかも正確に行うことができます。
さらにテープレコーダーでは、編集に失敗した場合にやり直しができませんでしたが、本機は「ノンデストラクティブ・エディティング（非破壊編集）」という手法を採用し、元のデータを残したまま編集を行っているため、取り消し（アンドゥ）機能によって、簡単に編集をやり直すことができます。（ → 41ページ「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」）

トラック編集の概要

本機には、以下のトラック編集機能があります。

- コピー／ペースト
- コピー／インサート
- ムーブ／ペースト
- ムーブ／インサート
- オープン（無音挿入）
- カット（部分削除）
- サイレンス（部分消去）
- クローントラック（トラック複製）
- クリーンアウト（トラック削除）

編集ポイント

トラック編集のうち、コピー／ペースト、コピー／インサート、ムーブ／ペースト、ムーブ／インサートは、IN ／ OUT ／ TOポイントを編集ポイントとして使います。
オープン、カット、サイレンスでは、IN ／ OUTポイントを編集ポイントとして使います。
これらのIN ／ OUTポイントは、リピート再生で使うINポイントおよびOUTポイントと共通です。
IN ／ OUT ／ TOポイントの設定方法については、46ページ「IN ／ OUT ／ TOポイントを設定する」をご覧ください。

INポイント

INポイントは、トラック編集対象の始点になります。
IN [SET IN] ボタンの長押しを開始した時間が、INポイントとして登録されます。

OUTポイント

OUTポイントは、トラック編集対象の終点になります。
OUT [SET OUT] ボタンの長押しを開始した時間が、OUTポイントとして登録されます。

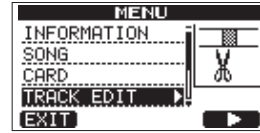
TOポイント

TOポイントは、コピーやムーブ操作におけるペースト先や移動先のポイントになります。
TO [SET TO] ボタンの長押しを開始した時間がTOポイントとして登録されます。

これらのIN ／ OUT ／ TOポイントは、各編集画面でも変更が可能です。

編集の基本操作

1. レコーダーが停止中に**MENU**ボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。

2. **DATA**ホイールを使って **"TRACK EDIT"** メニューを選択（反転表示）し、**F4 "[▶]"** ボタンを押します。

"TRACK EDIT" メニュー画面（トラック編集メニュー）が表示されます。

3. **DATA**ホイールを使って希望のトラック編集機能を選択（反転表示）し、**F4 "[▶]"** ボタンを押します。
各編集機能の画面が表示されます。

4. 設定項目の値を選択します。
複数の設定項目がある場合には、**F3 "[▲]"** ボタンと**F4 "[▼]"** ボタンを使って項目を選択し、**DATA**ホイールを使って値を選択します。

5. **F2 "[EXEC]"** ボタンを押して、機能を実行します。

メモ

F1 "[BACK]" ボタンを押すと、実行しないで **"TRACK EDIT"** メニュー画面に戻ります。

各項目の詳細

SOURCE TRK

OPEN TRK

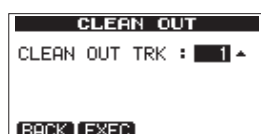
CUT TRK

SILENCE TRK

CLEAN OUT TRK

編集元トラックです。
選択肢は、編集機能によって異なります。

- **"1"** - **"8"**：シングルトラック
- **"1/2"**、**"3/4"**、**"5/6"**、**"7/8"**：ペアトラック
- **"1-8"**：全トラック
- **"MST"**：ステレオマスタートラック
- **"ALL"**：１～８トラックおよびステレオマスタートラック

[SOURCE TRK画面]

[CLEAN OUT TRK画面]

IN/OUT/TO

編集ポイントです。IN ／ OUT ／ TOポイントを編集する場合は、**F3 "[▲]"** ボタンと**F4 "[▼]"** ボタンを使って項目を選択（反転表示）し、**REW【◄◄】[TO ZERO]** ボタンと**F FWD【►►】[TO LAST REC]** ボタンを使ってカーソル（反転表示部）を移動し、**DATA**ホイールで時間を設定します。

[INポイント編集画面]

[OUTポイント編集画面]

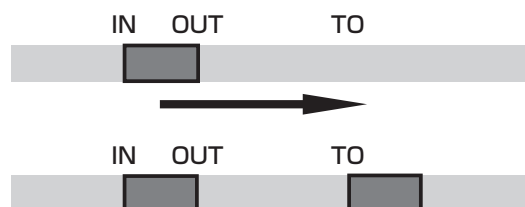
[TOポイント画面]

DESTINATION TRK

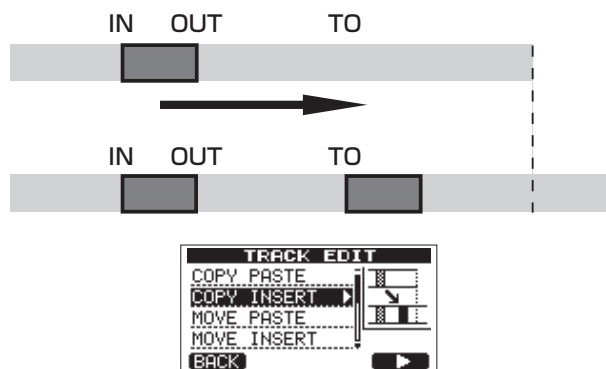
コピー先、挿入先、複製先のトラックを選択します。
"SOURCE TRK" で何を選択したかによって、選択肢が変わります。
"SOURCE TRK" としてシングルトラックを指定した場合は、**"DESTINATION TRK"** の選択肢は **"1"** - **"8"**（シングルトラック）になります。
"SOURCE TRK" としてペアトラック（たとえば **"1/2"**）を指定した場合は、**"DESTINATION TRK"** の選択肢は **"1/2"** - **"7/8"**（ペアトラック）になります。
"SOURCE TRK" として **"1-8"**（全トラック）を指定した場合は、**"DESTINATION TRK"** の選択肢は **"1-8"**（全トラック）のみになります。

COPY TIMES

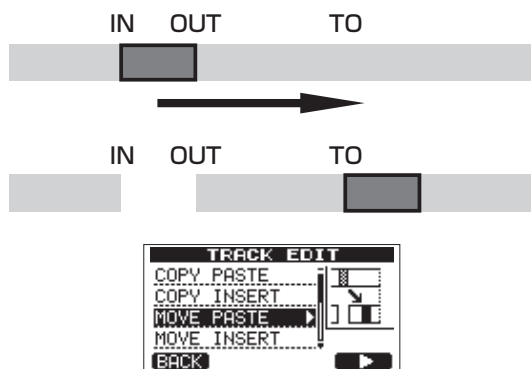
コピーしたセクションを何回ペーストするかを選択します。
"1" - **"99"** の中から選択できます。

コピー／ペースト

コピー元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータをコピーして、コピー先トラックのTOポイントにペーストします。この操作の後、コピー元のトラックは変化しません。
この操作によって、コピー先に録音されていたデータは上書きされます。したがって、コピー先のトラックの長さは変化しません。
1回の操作で、複数回コピーをすることができます。
つまり、コピー先のトラックのTOポイント以降に、コピーデータが指定回数分、続けて上書きコピーされます。
設定パラメーターは、以下の通りです。

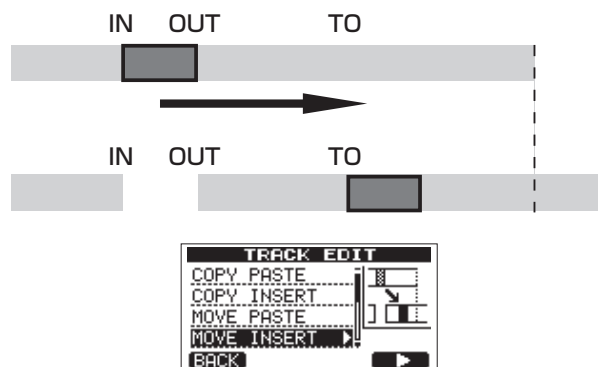
- SOURCE TRK（**"1"** - **"8"**、**"1/2"**、**"3/4"**、**"5/6"**、**"7/8"**、**"1-8"**）
- IN/OUT/TO
- DESTINATION TRK
- COPY TIMES

コピー／インサート

コピー元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータをコピーして、コピー先トラックのTOポイントにインサートします。この操作の後、コピー元のトラックは変化しません。
この操作によって、コピー先に録音されていたデータがインサートされます。コピー先のトラックのTO以降に録音されていたデータは、新しい素材がインサートされた分だけ後ろにずれます。したがって、コピー先トラックの長さが長くなります。
1回の操作で、複数回コピーをすることができます。
つまり、コピー先のトラックのTOポイント以降に、コピーデータが指定回数分、続けてインサートされます。
設定パラメーターは、以下の通りです。

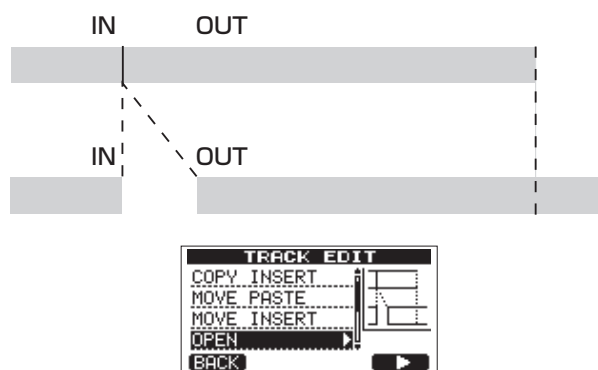
- SOURCE TRK（**"1" - "8"**、**"1/2"**、**"3/4"**、**"5/6"**、**"7/8"**、**"1-8"**）
- IN/OUT/TO
- DESTINATION TRK
- COPY TIMES

ムーブ／ペースト

ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータをコピーして、ムーブ先トラックのTOポイント以降に移動します。この操作の後、ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間は無音になります。
この操作によって、ムーブ先に録音されていたデータは上書きされます。したがって、ムーブ先のトラックの長さは変化しません。
設定パラメーターは、以下の通りです。

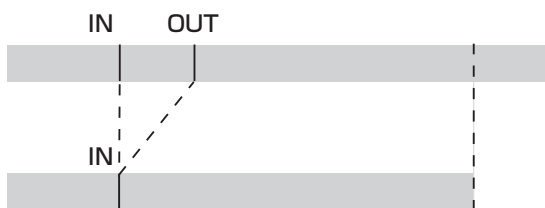
- SOURCE TRK（**"1" - "8"**、**"1/2"**、**"3/4"**、**"5/6"**、**"7/8"**、**"1-8"**）
- IN/OUT/TO
- DESTINATION TRK

ムーブ／インサート

ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間のオーディオデータを移動して、ムーブ先トラックのTOポイントにインサートします。この操作の後、ムーブ元トラックのINポイントとOUTポイント間は無音になります。
この操作によって、ムーブ先のトラックの TO以降に移動データがインサートされます。したがって、ムーブ先トラックの長さが長くなります。
設定パラメーターは、以下の通りです。

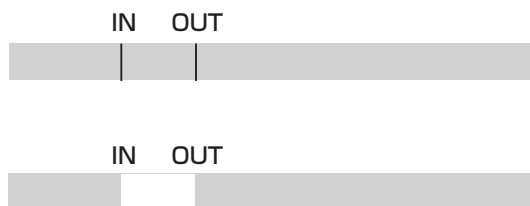
- SOURCE TRK（**"1" - "8"**、**"1/2"**、**"3/4"**、**"5/6"**、**"7/8"**、**"1-8"**）
- IN/OUT/TO
- DESTINATION TRK

オープン（無音挿入）

選択したトラックのINポイントとOUTポイントの間に無音部分を挿入します。
この操作では、INポイントの位置でトラックが前後に分割され、INポイント以降のパートがOUTポイント以降に移動します。したがって、トラックの長さが長くなります。
設定パラメーターは、以下の通りです。

- OPEN TRK
  （**"1" - "8"**、**"1/2"**、**"3/4"**、**"5/6"**、**"7/8"**、**"1-8"**、**"ALL"**）
- IN/OUT

カット（部分削除）

選択したトラックのINポイントとOUTポイントの間をカット（削除）して、OUTポイント以降のパートを手前に詰めます。したがって、トラックの長さが短くなります。
設定パラメーターは、以下の通りです。

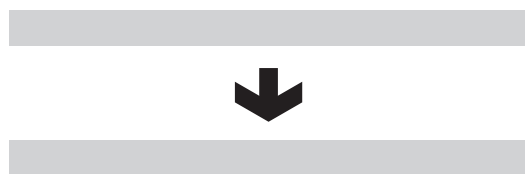
● CUT TRK
（**"1"** - **"8"**、**"1/2"**、**"3/4"**、**"5/6"**、**"7/8"**、**"1-8"**、**"ALL"**）
● IN/OUT

サイレンス（部分消去）

選択したトラックのINポイントとOUTポイントの間を消去します。INポイントとOUTポイント間に無信号を録音したときと同じです。この操作では、トラックの長さは変わりません。
設定パラメーターは、以下の通りです。

● SILENCE TRK（**"1"** - **"8"**、**"1/2"**、**"3/4"**、**"5/6"**、**"7/8"**、**"1-8"**）
● IN/OUT

ヒント

この機能を使って、短いノイズなどを消すことができます。

クローントラック（トラック複製）

シングルトラック、ペアトラックまたはステレオマスタートラックを、別のトラックにコピーして、トラックを複製します。
トラック全体のコピーですので、IN ／ OUT ／ TOポイントは関係ありません。
設定パラメーターは、以下の通りです。

● SOURCE TRK
（**"1"** - **"8"**、**"1/2"**、**"3/4"**、**"5/6"**、**"7/8"**、**"1-8"**、**"MST"**）
● DESTINATION TRK

メモ

"SOURCE TRK" と同じトラックを **"DESTINATION TRK"** に設定すると、**F2** **"[EXEC]"** ボタンを押したときにポップアップメッセージ **"Same Track"** が表示され、操作を受け付けません。

クリーンアウト（トラック削除）

指定したトラック全体を削除します。トラック全体の削除ですので、IN ／ OUT ／ TOポイントは関係ありません。
設定パラメーターは、以下の通りです。

● CLEAN OUT TRK
（**"1"** - **"8"**、**"1/2"**、**"3/4"**、**"5/6"**、**"7/8"**、**"1-8"**）

ミックスダウン

録音した個々のトラックの音量、定位などを調節し、それらをステレオにミックスしてバランス良く仕上げるのがミックスダウンです。

レベルとバランス

TRACK 1 ～ 8のトラックフェーダーを使ってトラックの相対バランスを調節します。
そして、MASTERフェーダーを使って全体のレベルを調節します。ディスプレーの"L"と"R"のレベルメーターを見ながらレベルが適正になるように調節します。
大きすぎると音が歪みます。

メモ

ディスプレーのトラックレベルメーターには、トラックに録音された信号のレベルが表示されます。したがって、トラックフェーダーを動かしてもトラックレベルメーターの振れは変わりません。

ヒント

曲全体を通して同じ音量にする必要はありません。たとえば、ギターソロの間に徐々に音量を上げる、といったことも可能です。

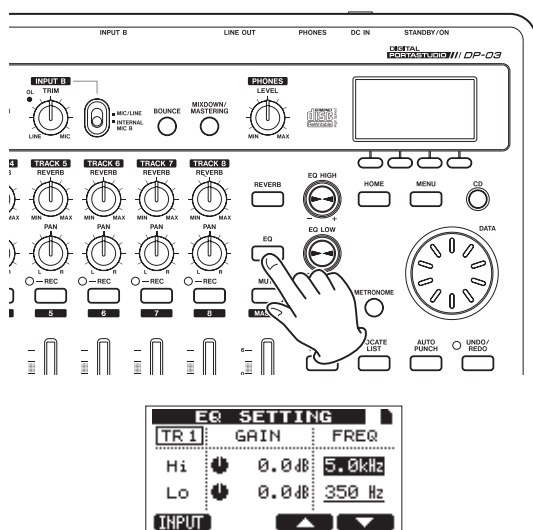
定位（パン）

各TRACKのPANつまみを使って、トラック信号のステレオ定位を設定します。

TRACK EQ（イコライザー）

各TRACKには、2バンド・EQ（イコライザー）が搭載されています。TRACK EQ（イコライザー）の設定は、**"EQ SETTING"**画面で行います。

1. EQボタンを押して、**"EQ SETTING"**画面を表示します。

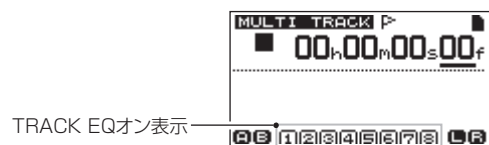
EQ SETTING
TR 1　GAIN　FREQ
Hi　0.0dB　5.0kHz
Lo　0.0dB　350 Hz
INPUT

2. TRACK EQ（イコライザー）の設定をします。
イコライザーのパラメーターは、以下の通りです。

	GAIN	FREQ
Hi	高域のゲイン 設定値：±12dB （初期値：0.0dB）	高域の周波数 設定値：1.7kHz～18kHz （初期値：5kHz）
Lo	低域のゲイン 設定値：±12dB （初期値：0.0dB）	低域の周波数 設定値：32Hz～1.6kHz （初期値：350Hz）

各TRACKのRECボタンを押して、トラックを切り換えます。
EQ HIGHつまみを使って**"Hi"**のゲイン、EQ LOWつまみを使って**"Lo"**のゲインを調節します。
F3 **"[▲]"**ボタンとF4 **"[▼]"**ボタンを使って**"Hi"**／**"Lo"**を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って**"FREQ"**の設定を行います。
F1 **"[INPUT]"**ボタンを押すと**"INPUT EQ"**画面が表示され、INPUT EQ（イコライザー）の設定ができます。（→ 40ページ「INPUT EQ（イコライザー）を使う」）

3. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

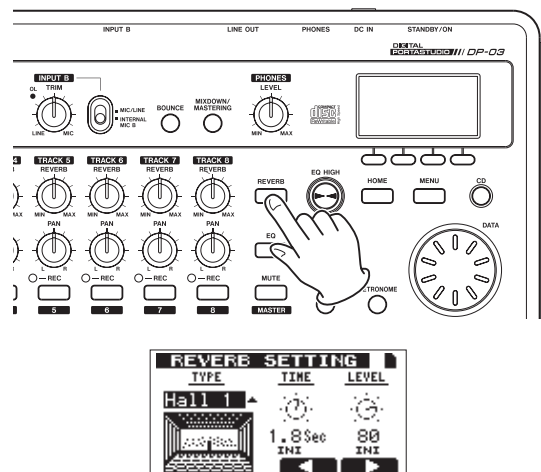
メモ

TRACK EQ（イコライザー）がかかっているトラックは、ホーム画面上のトラック表示が以下のようになります。

リバーブ

本機には、6種類のリバーブエフェクトを搭載しています。
各トラックのリバーブエフェクトへの送りレベルは、各トラックのREVERBつまみで行います。

メモ

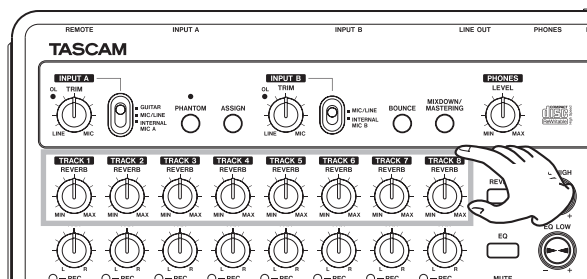
リバーブとTRACK EQ（イコライザー）は、同時使用可能です。TRACK EQ（イコライザー）がかかった後にリバーブがかかります。

1. REVERBボタンを押して、**"REVERB SETTING"**画面を表示します。

2. リバーブの設定をします。
リバーブエフェクトには、以下のパラメーターがあります。

パラメーター		設定値
TYPE	リバーブの種類	Hall 1 ／ Hall 2 ／ Room ／ Studio ／ Plate 1 ／ Plate 2（初期値：Hall 1）
TIME	リバーブの時間（深さ）	0.2（Plateのみ0.8）～3.2Sec
LEVEL	リバーブの量（音量）	0～100

F3 **"[◀]"** ボタンとF4 **"[▶]"** ボタンを使ってパラメーターの選択、DATAホイールを使ってパラメーターの設定を行います。
リバーブエフェクトの戻りは、ステレオ信号にミックスされます。

3. リバーブの設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

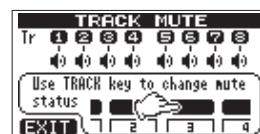
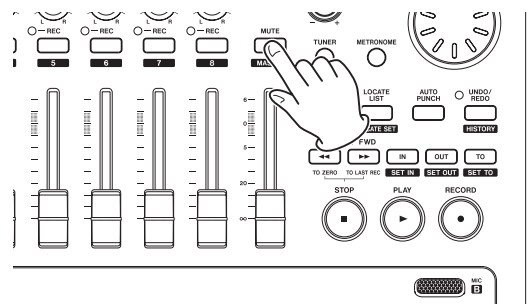
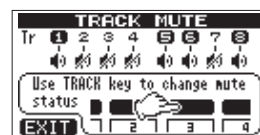
4. ミキサーチャンネルのREVERBつまみを使って、各TRACKのリバーブエフェクトへ送るレベルを調節します。

メモ

各リバーブTYPEの初期値は、以下の通りです。

TYPE	初期値	
	TIME	LEVEL
Hall 1	1.8	80
Hall 2	2.2	80
Room	1.4	10
Studio	0.6	20
Plate 1	1.4	60
Plate 2	1.8	60

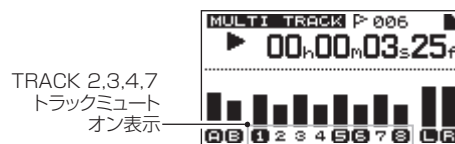
設定値が各リバーブTYPEの初期値と同じ値になっている場合は、設定値の下に **"INI"** と表示します。

トラックのミュート

1. MUTEボタンを押して、**"TRACK MUTE"** 画面を表示します。

2. 各TRACKのRECボタンを押すことにより、ミュートのオン／オフができます。ミュートがオンになると、トラック表示が反転します。

[TRACK 2、3、4、7がミュート状態]

3. ミュートの設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

メモ

ミュートがオンになっているトラックは、ホーム画面上のトラック表示が以下のようになります。

ステレオマスタートラックを作成する

納得のいくミックスができたら、ミックスダウンした内容を録音し、ステレオマスタートラックを作成します。
本機でレコーディングしたステレオマスタートラックは、ソングの一部として保存されます。
本機では、作成したステレオマスタートラックを外部のステレオレコーダーに録音できるほか、本機の内部でWAVファイル形式に変換してパソコンにエクスポートすることができます。（ → 71ページ「ステレオマスタートラックをエクスポートする」）

メモ

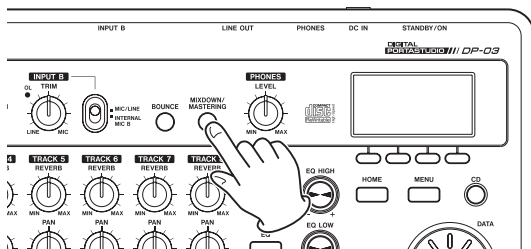
ソング内に作成できるステレオマスタートラックは、ひとつだけです。

開始点／終了点を設定する

ステレオマスタートラックを作成する前に、ステレオマスタートラックの開始点／終了点を設定します。ソングのINポイントからOUTポイントまでの範囲が、ステレオマスタートラックとしてレコーディングされます。
通常は、曲のはじまりのポイントをINポイント、曲の終わりのポイントをOUTポイントに設定します。
ステレオマスタートラックの開始点にしたい位置で**IN [SET IN]** ボタンを長押しし、終了点にしたい位置で**OUT [SET OUT]** ボタンを長押しして、INポイント（＝開始点）およびOUTポイント（＝終了点）を設定します。
IN ／ OUTポイントを修正する方法などの詳しい情報は、46ページ「IN ／ OUT ／ TOポイントを設定する」をご覧ください。

ステレオマスタートラックの作成

INポイントおよびOUTポイントを設定後、ステレオマスタートラックを作成します。

1. レコーダーモードが **"MULTI TRACK"** モードのときに、MIXDOWN/MASTERINGボタンを押します。

ポップアップメッセージ **"Mixdown !"** を表示した後、本機のレコーダーモードが **"MIXDOWN"** モードに切り換わり、ホーム画面に戻ります。

この状態で再生や録音を行うと、ヘッドホンやモニターシステムからは、トラックのミックス信号（＝録音される信号）が聞こえます。

メモ

- ミックスダウンモードのときは、ホーム画面左上のバーに **"MIXDOWN"**（反転表示）が表示されます。
- IN ／ OUTポイントの間が4秒より短い場合、レコーダーモードを **"MIXDOWN"** モードに切り換えようとするときにポップアップメッセージ **"Trk Too Short"** を表示し、**"MIXDOWN"** モードに切り換えることができません。
- **"MIXDOWN"** モードでは、IN ／ OUT ／ TOポイントの変更はできません。
- レコーダーモードが **"MIXDOWN"** モードのとき、再生機能などで機能しないものがあります。こうした機能を実行しようとすると、ポップアップメッセージ **"In Mixdown Mode"** が表示されます。

2. RECORD【●】ボタンを押しながらPLAY【►】ボタンを押します。
ミックスダウンが始まり、RECORD【●】インジケーターが点灯します。
レコーダー位置がどこであっても、INポイントからミックスダウンが始まります。
必要に応じてトラックフェーダー、PANつまみを使ってステレオにミックスダウンします。ここでの操作は、ステレオマスタートラックに反映されます。
レコーダー位置がOUTポイントに到達すると、レコーディングが自動的に終了します。

3. ステレオマスタートラックの作成をやり直したいときは、再度RECORD【●】ボタンを押しながらPLAY【►】ボタンを押します。
新しいステレオマスタートラックが作成され、以前のステレオマスタートラックは上書き消去されます。

メモ

ステレオマスタートラックを録音した後、ステレオマスタートラックを再生して確認することができます。（ → 56ページ「ステレオマスタートラックを確認する」）

ヒント

ステレオマスタートラックの作成もアンドゥが可能です。したがって、何回かステレオマスタートラックを録音した後、前に録音したステレオマスタートラックを採用することもできます。

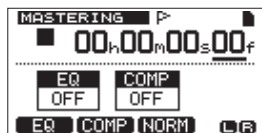
ミックスダウンモードを終了する

MIXDOWN/MASTERINGボタンを2回押すと、レコーダーモードが **"MULTI TRACK"** モードに戻ります。

ステレオマスタートラックを確認する

ステレオマスタートラックの作成が終了した後、作成されたステレオマスタートラックを試聴するには，以下の操作を行います。

1. レコーダーモードが**"MIXDOWN"**モードのときに、MIXDOWN/MASTERINGボタンを押します。
   ポップアップメッセージ**"Mastering !"**を表示した後、本機のレコーダーモードが**"MASTERING"**モードに切り換わり、ホーム画面に戻ります。

メモ

- マスタリングモードのときは、ホーム画面左上のバーに**"MASTERING"**（反転表示）が表示されます。
- レコーダーモードが**"MULTI TRACK"**モードのときは、MIXDOWN/MASTERINGボタンを押して**"MIXDOWN"**モードに切り換えた後、もう一度MIXDOWN/MASTERINGボタンを押して、**"MASTERING"**モードに切り換わります。
- ステレオマスタートラックが無い場合は、**"MASTERING"**モードに切り換わりません。

2. この状態でPLAY【►】ボタンを押すと、ステレオマスタートラックが再生されます。

注意

"EQ"項目、**"COMP"**項目ともに**"OFF"**が表示されていることを確認してください。**"ON"**になっていると、イコライザーまたはコンプレッサーがかかった音が聞こえます。（ → 57ページ「マスタリング用EQ（イコライザー）を使う」）、（ → 58ページ「マスタリング用コンプレッサーを使う」）

3. レコーダーモードが**"MASTERING"**モードのときは、各トランスポートボタンが以下の動作を行います。
   - PLAY【►】ボタンを押すと、ステレオマスタートラックの現在のポジションから最後までを再生します。
   - REW【◄◄】[TO ZERO] ボタン／F FWD【►►】[TO LAST REC] ボタンは、通常のレコーダーモードのときと同様に、早戻し／早送りを行います。画面には、スピードが表示されません。
   - STOP【■】ボタンを押すと、再生を停止します。
   - トラックの録音はできません。
   - リピート再生機能、ロケートマーク機能は使用できません。

   ステレオマスタートラックの再生信号は、PHONES端子およびLINE OUT端子から出力されますので、外部のステレオレコーダーにダビングすることができます。
   作成したステレオマスタートラックが気に入らない場合は、再度ミックスダウンをやり直します。

メモ

保存されているソングに録音されているステレオマスタートラックを聴くには、そのソングをロードしてから、レコーダーモードを**"MASTERING"**モードに切り換えた後、PLAY【►】ボタンを押して再生します。

ヒント

ステレオマスタートラックをTRACK 1 ～ 8のうちのいずれかのペアトラックにコピーして「クローン」トラックを作ることができます。（ → 52ページ「クローントラック（トラック複製）」）

ステレオマスタートラックの確認を終了する

ステレオマスタートラックの確認を終了し、レコーダーモードが**"MULTI TRACK"**モードに戻るには、MIXDOWN/MASTERINGボタンを押します。

ステレオマスタートラックを仕上げる（マスタリング）

本機には、ステレオマスタートラック専用のマスタリングツールが搭載され、EQ（イコライザー）、コンプレッサー、ノーマライズを使って全体の音圧や音質を調整することができます。
本機のレコーダーモードを**"MASTERING"**モードに切り換え、マスタリングツールを使ってステレオマスタートラックを仕上げる（＝マスタリングする）ことができます。

マスタリングの手順

マスタリングは、以下の流れで行います。

ステップ1・マスタリングモードにする

レコーダーモードが**"MIXDOWN"**モードのときに、MIXDOWN/MASTERINGボタンを押します。
ポップアップメッセージ**"Mastering !"**を表示した後、本機のレコーダーモードが**"MASTERING"**モードに切り換わり、ホーム画面に戻ります。

メモ

- レコーダーモードが**"MULTI TRACK"**モードのときは、MIXDOWN/MASTERINGボタンを押して**"MIXDOWN"**モードに切り換えた後、もう一度MIXDOWN/MASTERINGボタンを押して、**"MASTERING"**モードに切り換わります。
- ステレオマスタートラックが無い場合は、**"MASTERING"**モードに切り換わりません。

ステップ2・マスタリングツールを使って調整を行う

F1 **“[EQ]”** ボタン、F2 **“[COMP]”** ボタンまたはF3 **“[NORM]”** ボタンを押して、希望のツール画面を表示します。

ツール画面には、EQ（イコライザー）（**“MASTERING EQ”** 画面）、コンプレッサー（**“MASTERING COMP”** 画面）、ノーマライズ（**“NORMALIZE”** 画面）があります。また、コンプレッサーはマルチバンドまたはシングルバンドのいずれかのタイプを選ぶことができます（ライブラリーで選択）。マルチバンドの場合は、**“MASTERING COMP”** 画面のパラメーター設定表示が低域／中域／高域（LOW BAND ／ MID BAND ／ HIGH BAND）の各周波数帯域別に分かれます。

それぞれのツール画面で設定を行います。（詳細は、以下に述べる「マスタリング用コンプレッサーを使う」、「マスタリング用EQ（イコライザー）を使う」「ノーマライズする」をご覧ください。）

レコーダーモードが **“MASTERING”** モードのときに、PLAY【►】ボタン、STOP【■】ボタン、REW【◄◄】[TO ZERO] ボタン、F FWD【►►】[TO LAST REC] ボタンの各トランスポートボタンを使うことができますので、再生音を確認しながら各ツールの設定を行います。

ステップ3・録音を行う

マスタリングツールの設定を終了したら、RECORD【●】ボタンを押しながらPLAY【►】ボタンを押して録音を行います。

録音中は、PLAY【►】インジケーターとRECORD【●】インジケーターが点灯します。

録音は、（現在の位置にかかわらず）常に **“00:00:00:00”** からスタートします。

レコーダーモードが **“MASTERING”** モードのときの録音では、ステレオマスタートラックが上書きされます。

メモ

途中で録音を停止した場合は、停止した時点までのステレオマスタートラックが作成されます。

ステップ4・確認する

イコライザーおよびコンプレッサーをオフにしてから再生を行い、マスタリングの結果を確認します。

この段階でアンドゥとリドゥ操作が可能ですので、マスタリング前とマスタリング後の音を比較することができます。

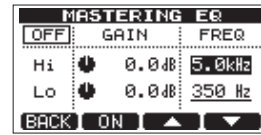
結果が満足できない場合には

アンドゥを行ってステレオマスタートラックを上書き以前の状態に戻してから、再びステップ1からマスタリングをやり直します。

メモ

アンドゥおよびリドゥは、レコーダーモードが **“MASTERING”** モードではできません。**“MULTI TRACK”** モードまたは **“MIXDOWN”** モードで行ってください。

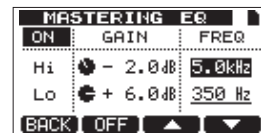
マスタリング用EQ（イコライザー）を使う

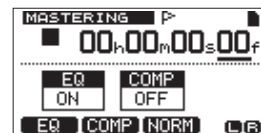
1. レコーダーモードが **“MASTERING”** モードのときにF1 **“[EQ]”** ボタンを押して、**“MASTERING EQ”** 画面を表示します。

2. マスタリング用EQ（イコライザー）の設定をします。
   イコライザーのパラメーターは、以下の通りです。

	GAIN	FREQ
Hi	高域のゲイン 設定値：±12dB （初期値：0.0dB）	高域の周波数 設定値：1.7kHz〜18kHz （初期値：5kHz）
Lo	低域のゲイン 設定値：±12dB （初期値：0.0dB）	低域の周波数 設定値：32Hz〜1.6kHz （初期値：350Hz）

   EQ HIGHつまみを使って **“Hi”** のゲイン、EQ LOWつまみを使って **“Lo”** のゲインを調節します。

   F3 **“[▲]”** ボタンとF4 **“[▼]”** ボタンを使って **“Hi”** ／ **“Lo”** を選択（反転表示）し、DATAホイールを使って **“FREQ”** の設定を行います。

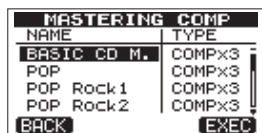
   “MASTERING EQ” 画面の左上に、マスタリング用EQ（イコライザー）が **“ON”** か **“OFF”** かが表示されています。**“OFF”** のときにF2 **“[ON]”** ボタンを押すと、EQ（イコライザー）をオンに、**“ON”** のときにF2 **“[OFF]”** ボタンを押すと **“OFF”** になります。

3. 設定が終了したら、F1 **“[BACK]”** ボタンを押してホーム画面に戻します。

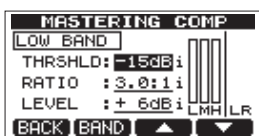
4. ホーム画面 **“MASTERING”** モードの **“EQ”** 項目に、マスタリング用EQ（イコライザー）が **“ON”** か **“OFF”** かが表示されます。

マスタリング用コンプレッサーを使う

マスタリング用のコンプレッサーは、ライブラリーによりシングルバンドまたはマルチバンドのいずれかのタイプを選ぶことができます。

マルチバンドタイプのコンプレッサーは、ステレオマスタートラックに対して低域／中域／高域に分割した周波数帯域にそれぞれ独立した設定で処理を行うことができるため、全体の音圧バランスを調整することができます。これによって不要なピークを抑え、全体のゲインを持ち上げることで音圧をあげ、迫力のある音に仕上げることができます。

1. レコーダーモードが **"MASTERING"** モードのときに**F2 "[COMP]"** ボタンを押して、**"MASTERING COMP"** 画面を表示します。

2. **F3 "[LIB]"** ボタンを押して、**"MASTERING COMP"** 画面のライブラリー選択表示にします。

"TYPE" に **"COMPx3"** と表示されているライブラリーはマルチバンドタイプ、**"COMPx1"** と表示されているライブラリーはシングルバンドタイプです。

3. **DATA**ホイールを使ってライブラリーを選択（反転表示）し、**F4 "[EXEC]"** ボタンを押して確定します。
ライブラリーを読み込んだ後、**"MASTERING COMP"** 画面に戻ります。
4. 次に**F4 "[PARM]"** ボタンを押して、**"MASTERING COMP"** 画面のパラメーター設定表示に変更します。

［マルチバンドタイプ表示］

［シングルバンドタイプ表示］

このとき、選択されているバンドが左上に表示されます。
マルチバンドタイプの場合は、**F2 "[BAND]"** ボタンを押して値を設定するバンドを切り換えることができます。
このボタンを押すたびに **"LOW BAND"→"MID BAND"→"HIGH BAND"**（→ **"LOW BAND"**）と切り換わります。
シングルバンドタイプの場合は、**F2 "[BAND]"** ボタンを押すと **"BAND"** と **"A. MAKEUP"** が交互に切り換わります。

5. **F3 "[▲]"** ボタンおよび**F4 "[▼]"** ボタンを使って設定したい項目の値を選択（反転表示）し、**DATA**ホイールを使って変更します。
設定値が初期値のとき、各設定値の右に **" i "** が表示されます。
設定値と範囲は、以下のとおりです。

THRSHLD
　コンプレッサー動作を始めるスレッショルド値を設定します。
　選択肢：**"-32dB"** ～ **"0dB"**

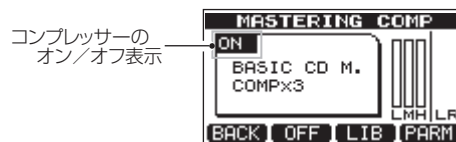
RATIO
　圧縮比を選択します。
　選択肢：**"1.0 : 1"**、**"1.1 : 1"**、**"1.3 : 1"**、**"1.5 : 1"**、**"1.7 : 1"**、**"2.0 : 1"**、**"2.5 : 1"**、**"3.0 : 1"**、**"3.5 : 1"**、**"4.0 : 1"**、**"5.0 : 1"**、**"6.0 : 1"**、**"8.0 : 1"**、**"16.0 : 1"**、**"inf : 1"**

LEVEL
　出力レベルを設定します。
　選択肢：**"-20dB"** ～ **"+20dB"**

6. マルチバンドタイプの場合は、**F2 "[BAND]"** ボタンを押して、**"LOW BAND"**、**"MID BAND"**、または **"HIGH BAND"** に切り換え、それぞれのバンド（音域）の設定値を変更します。

7. シングルバンドの場合は、**F2 "[BAND]"** ボタンを押して **"A. MAKEUP"** を表示させます。

コンプレッサーによって音量が低下しないよう、自動的に音量を補正するオートメイクアップ機能をオン／オフします。
初期値の場合には、値の右に **" i "** と表示します。

8. パラメーター設定が終了したら**F1 "[BACK]"** ボタンを押して、**"MASTERING COMP"** 画面に戻ります。
9. **F2 "[SW]"** ボタンを押して、コンプレッサーのオン／オフを切り換えます。オン／オフ状態は、**"MASTERING COMP"** 画面内に表示されます。

10. 設定が終了したら、**F1 "[BACK]"** ボタンを押してホーム画面に戻ります。

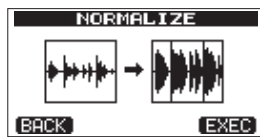
コンプレッサーの設定は、81ページ「第14章 マスタリング用コンプレッサーの設定一覧」を参照してください。

ノーマライズを使う

自動的に音量を調整するノーマライズを行えます。最大音量レベルを調べそれが最大になるよう音量を上げます。

注意

ノーマライズを行ってから、EQ（イコライザー）またはコンプレッサーをかけると歪が発生する可能性があります。
ノーマライズは、EQ（イコライザー）またはコンプレッサーで音質の調整を行った後に実行するようにしてください。

1. レコーダーモードが **"MASTERING"** モードのときに、**F3 "[NORM]"** ボタンを押して、**"NORMALIZE"** 画面を表示します。

2. **F4 "[EXEC]"** ボタンを押すと、ノーマライズを実行します。
3. ノーマライズが終了したら、**F1 "[BACK]"** ボタンを押してホーム画面に戻ります。

ステレオマスタートラックをコピーする

トラック編集のクローントラック機能を使って、ステレオマスタートラックをトラックにコピーすることができます。（ → 52ページ「クローントラック（トラック複製）」）

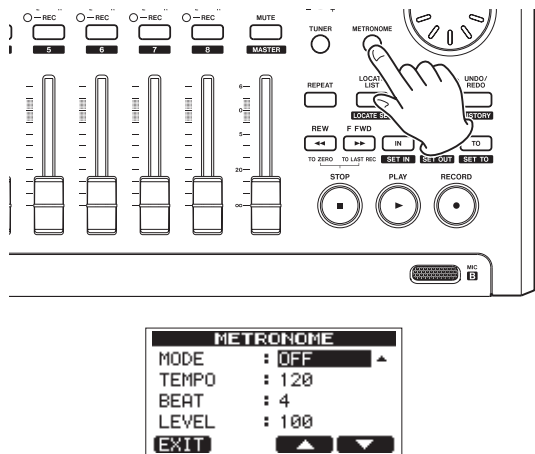
マスタリングモードを終了する

"MASTERING" モードを終了して **"MULTI TRACK"** モードに戻るには、MIXDOWN / MASTERINGボタンを押します。

メトロノーム機能

本機は、メトロノーム機能を内蔵しています。
メトロノームは、レコーダー走行中に動作します。
再生時と録音時の両方、または録音時のみ動作するように設定することができます。

1. METRONOMEボタンを押して、**"METRONOME"** 設定画面を表示します。

```
METRONOME
MODE     : OFF
TEMPO    : 120
BEAT     : 4
LEVEL    : 100
EXIT        ▲    ▼
```

2. 以下の項目を設定します。
   F3 **"[▲]"** ボタンとF4 **"[▼]"** ボタンを使って項目を選択し、DATAホイールを使って値を選択します。

MODE

以下のモードから選択します。

モード	内容
OFF	メトロノーム機能オフ、初期値
REC&PLAY	録音／再生時にメトロノームが動作
REC ONLY	録音時にのみ、メトロノームが動作

TEMPO

スピードを設定します。
"20" ～ **"250"**（BPM）の範囲で設定できます。
（初期値：**"120"**）

BEAT

拍子を設定します。
拍子の1拍目にアクセントが付きます。
拍子は、**"1"** ～ **"12"** の範囲で設定できます。（初期値 : **"4"**）

LEVEL

メトロノームの音量を設定します。
"0" ～ **"100"** の範囲で設定できます。（初期値：**"100"**）

3. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。
   手順**2.**で行った **"MODE"** 設定に従って、メトロノームが動作します。
   なお、録音時にメトロノームが動作しても、メトロノーム信号は録音されません。

メモ

- メトロノーム動作時、外部接続されたスピーカーでメトロノーム音をモニターし、マイクを使って録音すると、メトロノーム音も録音されることがあります。
- メトロノーム動作中、**"METRONOME"** 設定画面で **"LEVEL"** の調節を行うことができますが、他の項目は変更できません。ただし、録音中に **"METRONOME"** 設定画面にすることはできません。
  "METRONOME" 設定画面表示中に録音を開始し、**"METRONOME"** 設定画面からほかの画面に移動しなければ、**"LEVEL"** を調節することができます。
- レコーディングの最初にベーシックトラック（リズムギター、ベースなど）を録音するとき、メトロノームをガイドクリックとして使うことができます。
- メトロノームを使って練習をするときは、何も録音されていないソングを再生するか、または各TRACKのトラックフェーダーを下げた状態でソングを再生します。

チューナー機能

内蔵のクロマチックチューナーを使って、ギターや管楽器のチューニングすることができます。
本機のチューナーには、チューニングメーターを見ながら楽器のチューニングができるクロマチックチューナーモードと、基準音を出力するオシレーターモードがあります。

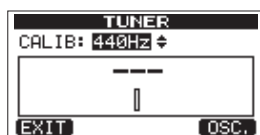
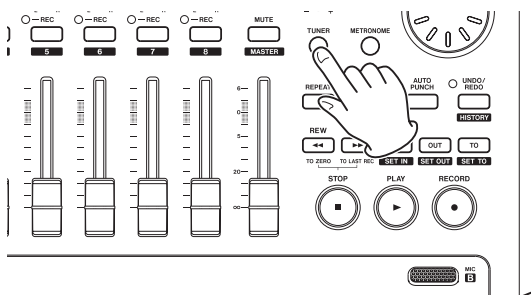
クロマチックチューナーモード

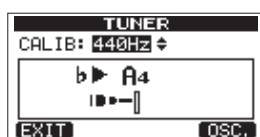
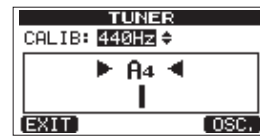
1. ギターまたはベースをINPUT A端子に接続します。
   INPUT B端子に接続してもチューニングできません。
   管楽器などをチューニングする場合は、内蔵MIC Aを使ってチューニングをします。

2. INPUT AスイッチをGUITARに設定します。（ → 38ページ「入力ソースを選択する」）

メモ

内蔵マイク（MIC A）を使用する場合は、INPUT AスイッチをINTERNAL MIC Aにします。

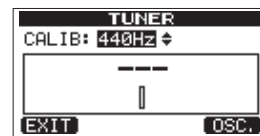
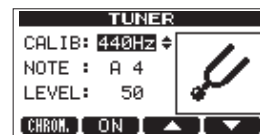
3. レコーダーが停止中にTUNERボタンを押して、**"TUNER"** 設定画面を表示します。
   "CALIB"項目（基準周波数）の値が選択（反転表示）されています。

4. DATAホイールを使って、A4（ラ）の基準周波数を設定します。
   "435Hz"～**"445Hz"**の範囲で設定できます。（初期値：**"440Hz"**）

5. 楽器を弾いてチューニングを行います。
   弾いた音に最も近い音名がチューニングメーター上部に表示されます。
   合わせたい音名が表示されて、チューニングメーター中央部が点灯するように楽器をチューニングします。
   チューニングが低すぎる場合は左側、高すぎる場合は右側にバーが表示されます。ズレが大きいほど、バーが長く表示されます。

   ぴったり合うと音名の左右の **"▶◀"** が点灯します。

6. チューニングが終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

メモ

入力音をモニターしたい場合は、**"A"**（INPUT A）がアサインされているトラックのRECボタンを押します。（ → 39ページ「入力をアサインする」）

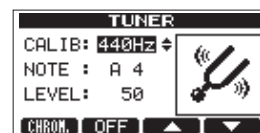
オシレーターモード

1. レコーダーが停止中にTUNERボタンを押して、**"TUNER"** 設定画面を表示します。

2. F4 **"[OSC.]"** ボタンを押して、オシレーターモード表示に変更します。

   オシレーターモード表示では、以下の設定ができます。

   CALIB
   　A4（ラ）の基準周波数を調節します。
   　設定範囲は、**"435Hz"** ～ **"445Hz"** です。（初期値：**"440Hz"**）

   NOTE
   　出力する音を設定します。
   　設定範囲は、**"C3"** ～ **"B5"** です。（初期値：**"A4"**）

   LEVEL
   　出力レベルを設定します。
   　設定範囲は、**"10"**（最小）～ **"100"**（最大）です。
   　（初期値：**"50"**）

   F3 **"[▲]"** ボタンとF4 **"[▼]"** ボタンを使ってパラメーターを選択し、DATAホイールでパラメーターを設定します。
   F2 **"[ON]"** ボタンを押して、で出力のオン／オフを行います。

   F1 **"[CHROM.]"** ボタンを押して、でクロマチックチューナーモードに移行します。

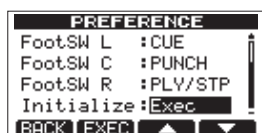
3. チューニングが終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

プリファレンス設定を初期値に戻す

"PREFERENCE" 画面の設定とバックアップメモリー項目（88ページ）を初期状態（工場出荷時の状態）に戻すことができます。この操作をイニシャライズと呼びます。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. DATAホイールを使って **"PREFERENCE"** メニューを選択（反転表示）し、**F4 "[▶]"** ボタンを押します。

"PREFERENCE" 画面が表示されます。

3. **F3 "[▲]"** ボタンと**F4 "[▼]"** ボタンを使って **"Initialize"** 項目の **"Exec"** を選択（反転表示）し、**F2 "[EXEC]"** ボタンを押します。

4. 確認のポップアップメッセージが表示されますので、**F3 "[YES]"** ボタンを押します。

イニシャライズが実行され、完了後、**"PREFERENCE"** 画面に戻ります。

メモ

イニシャライズを実行しない場合は、**F4 "[NO]"** ボタンを押します。

5. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻します。

情報を見る

カレントソング（現在ロード中のソング）、SDカード、ファームウェアの情報を見ることができます。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. DATAホイールを使って **"INFORMATION"** 項目を選択（反転表示）し、**F4 "[▶]"** ボタンを押します。

"INFORMATION" 画面の **"SONG (1/3)"** ページが表示されます。

"INFORMATION" 画面には、このページを含めて3ページあります。

3. **F3 "[PREV]"** ボタンと**F4 "[NEXT]"** ボタンを使ってページを切り換えます。
   各ページには、以下の情報が表示されます。

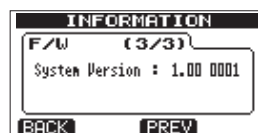
SONG（1/3）ページ

現在ロード中のソングの名前（タイトル）、所属のMTRパーティション、録音時間を表示

CARD（2/3）ページ

MTRパーティション構成と各容量、FATパーティションの容量を表示

F/W（3/3）ページ

システムのファームウェアバージョンを表示

パーティションの概要

「第5章 ソングの管理」の「パーティションとソング」（34ページ）でも述べたように、本機でフォーマットしたSDカードは、2つのパーティションに仕切られています。
2つのパーティションは、録音データ（ソング情報）を記録するためのMTRパーティションと、パソコンからの読み込みが可能なFATパーティションがあります。
FATパーティションは、FAT32形式によるフォーマットで、本機とUSB接続したパソコンから読み込むことができます。
パソコン上にソングを保存する場合やステレオマスタートラックをパソコンにエクスポートする場合、あるいは本機のソングにオーディオファイルをインポートする場合など、このFATパーティションを介して行われます。
そのため、パソコンとMTRパーティション間でソング情報をコピーするためには、2段階の操作が必要です。
なお、必要に応じてSDカード全体のフォーマットや各パーティション毎のフォーマットを行うことができます。

注意

フォーマットは、操作の取り消し（アンドゥ）ができません。

メモ

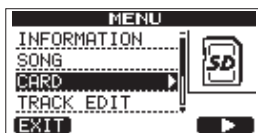
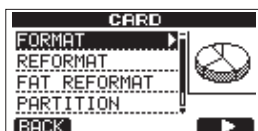
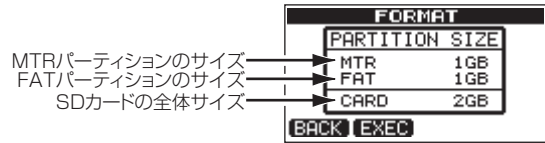
- FATフォーマット（File Allocation Table）は、パソコンで読むことができるディスクフォーマットです。
- 使用できるSDカードは、512MB以上のSDカードおよびSDHCカードです。
  TASCAMのウェブサイト（http://www.tascam.jp/）には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。

SDカードをフォーマットする

この操作では、SDカード全体をフォーマットします。

注意

この操作によってSDカード全体のデータが消去されます。取り消し（アンドゥ）はできません。
フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. DATAホイールを使って**“CARD”**メニューを選択（反転表示）し、**F4“[▶]”**ボタンを押します。

“CARD”メニュー画面が表示されます。

3. DATAホイールを使って**“FORMAT”**項目を選択（反転表示）し、**F4“[▶]”**ボタンを押します。
   “FORMAT”画面が表示されます。

次の表は、SDカードの容量別に、FATパーティションサイズとMTRパーティションサイズを示しています。
SDカードの容量によってFATパーティションのサイズが決まります。

SDカードの容量と各パーティションサイズ

SDカードの容量	FATパーティションサイズ	MTRパーティションサイズ
32GB	4GB	28GB
16GB	4GB	12GB
8GB	2GB	6GB
4GB	2GB	2GB
2GB	1GB	1GB
1GB	512MB	512MB
512MB	256MB	256MB

全てのソングが消去されることを警告するポップアップメッセージが表示されます。

4. **F3“[YES]”**ボタンを押します。
   SDカードがフォーマットされます。
   たとえば、16GBのSDカードをMTRパーティションサイズ4GBでフォーマットを行った場合は、4GBのFATパーティションを除いた12GBがMTRパーティション用に使われます。（本機における1GBは1024MBです。したがって、本機の各パーティションの表示サイズの合計がSDカードの表示サイズと一致しない場合があります。）

メモ

- フォーマットが終わると、**“CARD”**メニュー画面に戻ります。
- フォーマット後の各MTRパーティションには、ソングが1つずつ自動作成されます。
- フォーマットを取りやめる場合は、**F4“[NO]”**ボタンを押します。

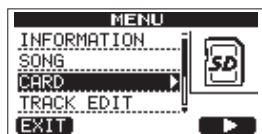
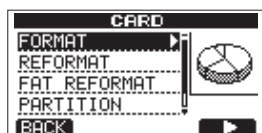
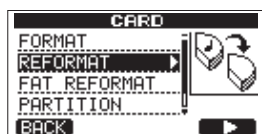
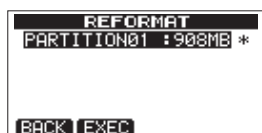
MTRパーティションを再フォーマットする

MTRパーティションを再フォーマットすることができます。

注 意

この操作は取り消し（アンドゥ）ができません。
MTRパーティション内の全てのデータが消えます。
再フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。

2. DATAホイールを使って**“CARD”**メニューを選択（反転表示）し、**F4 “[▶]”**ボタンを押します。

“CARD”メニュー画面が表示されます。

3. DATAホイールを使って**“REFORMAT”**項目を選択（反転表示）し、**F4 “[▶]”**ボタンを押します。

“REFORMAT”画面が表示されます。

MTRパーティションのリストがパーティションのサイズ（空き容量ではありません）とともに表示されます。
現在選択されているのMTRパーティションには、“＊”が付いています。

4. DATAホイールを使って、再フォーマットしたいMTRパーティションを選択（反転表示）し、**F2 “[EXEC]”**ボタンを押します。
MTRパーティション上のデータが全て消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。

5. **F3 “[YES]”**ボタンを押します。
MTRパーティションが再フォーマットされます。

メ モ

- 再フォーマットが終わると、**“CARD”**メニュー画面に戻ります。
- 再フォーマット後のMTRパーティションには、ソングが1つ自動作成されます。
- 再フォーマットを取りやめる場合は、**F4 “[NO]”**ボタンを押します。

FATパーティションを再フォーマットする

FATパーティションのみを再フォーマットすることができます。
FATパーティションのサイズは、変更できません。

注 意

この操作は取り消し（アンドゥ）ができません。
FATパーティションの全てのデータが消えます。
再フォーマットを実行する前に、よく確認してください。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。

2. DATAホイールを使って**“CARD”**メニューを選択（反転表示）し、**F4 “[▶]”**ボタンを押します。

“CARD”メニュー画面が表示されます。

3. DATAホイールを使って**“FAT REFORMAT”**項目を選択（反転表示）し、**F4 “[▶]”**ボタンを押します。

FATパーティション上のデータが全て消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。

4. **F3 “[YES]”**ボタンを押します。
FATパーティションが再フォーマットされます。

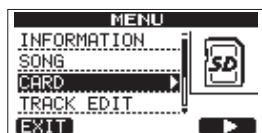
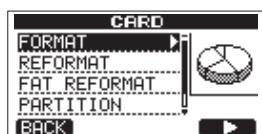
メ モ

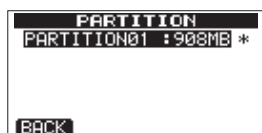
- 再フォーマットが終わると、**“CARD”**メニュー画面に戻ります。
- 再フォーマットを取りやめる場合は、**F4 “[NO]”**ボタンを押します。

MTRパーティションの情報を表示する

MTRパーティションの情報を表示します。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。

2. DATAホイールを使って**“CARD”**メニューを選択（反転表示）し、**F4“[▶]”**ボタンを押します。

“CARD”メニュー画面が表示されます。

3. DATAホイールを使って**“PARTITION”**項目を選択（反転表示）し、**F4“[▶]”**ボタンを押します。

“PARTITION”画面が表示されます。

MTRパーティションの情報が表示されます。

SDカードを初期化（イニシャライズ）する

本機で使用したSDカードを他の機器で使用する場合は、初期化（イニシャライズ）を行うことをお勧めします。
SDカードの初期化（イニシャライズ）を行うと、SDカード全体がFAT32形式でフォーマットされます。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。

2. DATAホイールを使って**“CARD”**メニューを選択（反転表示）し、**F4“[▶]”**ボタンを押します。

“CARD”メニュー画面が表示されます。

3. DATAホイールを使って**“SD INITIALIZE”**項目を選択（反転表示）し、**F4“[▶]”**ボタンを押します。

SDカード上のデータが全て消えることを警告するポップアップメッセージが表示されます。

4. **F3“[YES]”**ボタンを押します。
SDカード全体が初期化（イニシャライズ）され、FAT32形式でフォーマットされます。

メモ

初期化（イニシャライズ）を取りやめる場合は、**F4“[NO]”**ボタンを押します。

注意

初期化（イニシャライズ）後、再び本機で使用する場合は、SDカードのフォーマットが必要です。（ → 31ページ「SDカードをフォーマットする」）

第 12 章　パソコンを使ったデータ送受信

本機とパソコンをUSB接続することで、本機のSDカードの中のソング情報をパソコンにバックアップしたり、バックアップしたソング情報を本機にリストア（復元）することができます。また、ソング内のトラックファイルやステレオマスターファイルをパソコンにエクスポートしたり、パソコン上のオーディオファイルを本機にインポートすることができます。
バックアップしたデータは、自分のDP-03以外のDP-03にリストアすることができます。このようにDP-03間でのファイルのやりとりが自由にできますので、別の場所での追加録音やミックスダウンを行うことも簡単にできます。

注 意

本機とパソコンをUSB接続する代わりに、本機からSDカードを取り外して直接（あるいはカードアダプターを使って）パソコンにセットしてバックアップを行う場合は、必ず本機の電源をオフ（スタンバイ状態）にしてからSDカードを抜くようにしてください。

メ モ

- ソングファイルが記録されている MTRパーティションにパソコンから直接アクセス（読み出し／書き込み）することはできません。
- 本章の説明の中で「パソコン」と表記する場合は、本機が対応しているWindowsまたはMacintoshのパーソナルコンピュータを指します。（ → 66ページ「必要なパソコンシステム」）

本機では、以下のデータをパソコンに転送することができます。

ソング全体

本機では、ソング全体のデータをFATパーティション内の《BACKUP》フォルダからパソコンに転送することができます。この操作を「バックアップ」と呼びます。
また、パソコンにバックアップしたデータをFATパーティション内の《BACKUP》フォルダに転送し、ソングファイルとして復元することができます。この操作を「リストア」と呼びます。

WAVフォーマットのトラック

トラックをWAVファイルに変換してパソコンにエクスポートしたり、パソコン上のWAVファイルを本機にインポートすることができます。WAVファイルは、本機のFATパーティション上の《WAVE》フォルダに格納されます。

ステレオマスターファイル

本機のステレオマスタートラックを、ステレオWAVファイルとして（FATパーティション上の《WAVE》フォルダから）パソコンに転送することができます。
エクスポートのみが可能です。

必要なパソコンシステム

本機と以下のパソコンを接続することができます。

Windows

Windows XP、Windows Vista、Windows 7

Mac OS X

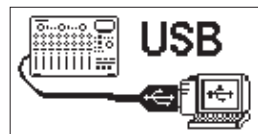
Mac OS X 10.2 以上

本機とパソコンを接続すると、パソコンは本機をリムーバブルディスクとして認識します。専用のドライバーは不要です。

メ モ

本機とパソコン間のデータ転送は、USB2.0スピード（最大）で行われます。ご使用のパソコンがUSB1.1の場合は、データ転送は可能ですが、動作が遅くなります。また、USB2.0スピードを得るためには、USB2.0に対応したケーブルを使用する必要があります。

パソコンと接続する

本機のFATパーティションを使う前に、本機とパソコンをUSB接続します。
USB接続中は、録音／再生など本機のレコーダー操作はいっさいできません。
パソコンと接続するには、Mini-BタイプのUSB2.0対応ケーブルを使って、本機の左サイドパネルにある**USB**端子とパソコンのUSBポートを接続します。
本機の電源をオンの状態でUSB接続しても、USB接続後に本機の電源をオンにしても、どちらでも問題ありません。
本機の電源がオンのときにUSB接続を行うと、現在ロード中のソングが保存された後、USB接続が有効になり、本機ディスプレーに以下のような画面が表示されます。

USB接続後に本機の電源をオンにすると、直接上記の画面が表示されます。
パソコンのディスプレーには、《DP-03》という名前の外部ドライブとして表示されます。
TASCAM DP-03のFATパーティション内には、3つのフォルダ、《BACKUP》、《WAVE》、《UTILITY》があります。

注 意

- 本機への電源供給は、専用ACアダプター（TASCAM PS-1225L）からとなります。USB経由での電源供給は行いません。
- データ転送中にACアダプターを抜いたり、電源を切ったりしないでください。データ転送中に電源が切れた場合は、データが失われます。また、失われたデータは復活することができません。
- 《DP-03》内にある3つのフォルダ名は、変更しないでください。
- 本機が認識できる FATパーティション内のファイル数は、ファイルとフォルダを合わせて100個までとなります。100個を超える場合は、パソコン等に移動してください。

メ モ

- USB接続する前に、パソコンに転送するファイルが全てFATパーティションにコピーされていることを確認してください。
- 《UTILITY》フォルダは、本機のシステムをアップデートするときなどに使われます。

接続を解除する

以下の手順でUSB接続を正しく解除します。

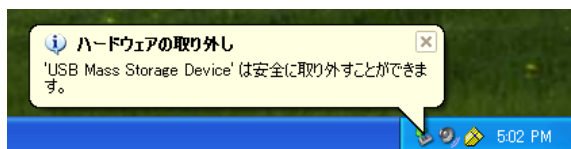
注 意

データを転送中にUSB接続を解除したり、USBケーブルを抜いたりしないでください。パソコンや本機のデータが破壊される可能性があります。

メ モ

パソコンとの接続を解除することを、パソコン側では「取り出す」または「取り外す」と言います。

Windows XP ／ Windows Vista ／ Windows 7の場合

Windows XP、Windows Vista、Windows 7 の場合は、以下の手順で接続を解除します。
システムトレイ（通常は画面の右下）内に、PCカードのアイコンと矢印があります。

1. このアイコンを左クリックしてポップアップバーを表示します。パソコンから本機を取り出すには、このポップアップバーをクリックします。
2. パソコンのディスプレーに、本機を取り出すことができることを告げるポップアップメッセージが表示されたら、USBケーブルを外します。
本機が再起動してディスプレーにホーム画面が表示されます。

注 意

パソコンのディスプレーに、本機を安全に取り出せないことを告げるポップアップメッセージが表示された場合は、USBケーブルを外さないでください。
本機上のファイルにアクセス（読み出し／書き込み）している全てのコンピュータプログラムとウィンドウを閉じてから、再度上記の操作を行ってみてください。

Macintoshの場合

1. 本機のアイコン《DP-03》をゴミ箱にドラッグするか、Command ＋ E キーの操作を行って、DP-03を「取り出し」ます。

ヒント

OSバージョンによっては、Finderウィンドウに表示される《DP-03》のイジェクトアイコンをクリックしたり、Controlキーを使った操作を行って、取り出すこともできます。

2. 本機のアイコン《DP-03》がデスクトップから消えたら、USBケーブルを外します。
本機が自動的に再起動して、ディスプレーにホーム画面が表示されます。

ソングのバックアップとリストア

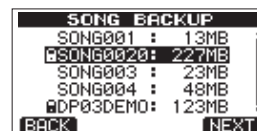
ソングのバックアップでは、オーディオトラックだけでなく編集データなどもバックアップします。
ソングのリストアは、これと逆のプロセスになります。つまり、パソコンから本機のFATパーティションへ転送し、ソングファイルを復元します。

ソングをバックアップする

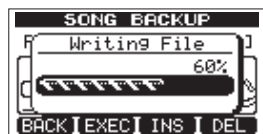
1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. DATAホイールを使って **"DATA BACKUP"** メニューを選択（反転表示）し、**F4 "[▶]"** ボタンを押します。

"DATA BACKUP" メニュー画面が表示されます。

3. DATAホイールを使って **"SONG BACKUP"** 項目を選択（反転表示）し、**F4 "[▶]"** ボタンを押します。

"SONG BACKUP" 画面に進み、現在選択されているMTRパーティション内のソングリストが表示されます。

4. DATAホイールを使ってバックアップするソングを選択（反転表示）し、**F4 "[NEXT]"** ボタンを押します。
"SONG BACKUP" 画面のファイルの名前（タイトル）を編集する表示になります。

5. 必要に応じてバックアップするソングの名前（タイトル）を編集します。（→ 34ページ「名前の編集」）

6. 名前（タイトル）を付けたら、F2 **"[EXEC]"** ボタンを押します。ソングがMTRパーティションからFATパーティションにバックアップコピーされます（拡張子 **". 001"** が付加されます）。
ディスプレーには、バックアップ中であるポップアップメッセージ **"Writing File"** を表示します。

バックアップが終了すると、ディスプレーの表示が **"DATA BACKUP"** メニュー画面に戻ります。

メモ

FATパーティションにソングをバックアップするのに必要な空き容量がない場合は、警告のポップアップメッセージが表示されます。この場合は、本機とパソコンを接続し、パソコンからの操作で不要なファイルを削除して、空き容量を確保してください。

7. USBケーブルを使って本機とパソコンを接続します。（ → 66ページ「パソコンと接続する」）

8. パソコン側の操作で、本機のFATパーティションの《BACKUP》フォルダからパソコンにバックアップファイルをコピーします。

9. コピーが終了したら、USB接続を解除します。（ → 67ページ「接続を解除する」）

注意

- バックアップしたソングのファイル名をパソコン上で変更するときは、ファイル名が半角英数字で8文字以内になるようにしてください。
- 拡張子は、変更しないでください。

ソングをリストアする

リストアは、基本的にバックアップの逆の作業です。つまりパソコンから本機にバックアップファイルを転送し、ソングを復元します。

1. USBケーブルを使って本機とパソコンを接続します。（ → 66ページ「パソコンと接続する」）

2. パソコン側の操作で、パソコン上のバックアップファイルを本機のFATパーティションの《BACKUP》フォルダにコピーします。

3. コピーが終了したら、本機をパソコンから正しく取り出し、USBケーブルを外します。（ → 67ページ「接続を解除する」）

4. 本機が自動的に再起動した後、MENUボタンを押して **"MENU"** 画面を表示します。

5. DATAホイールを使って **"DATA BACKUP"** メニューを選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"** ボタンを押します。

"DATA BACKUP" メニュー画面が表示されます。

6. DATAホイールを使って **"SONG RESTORE"** 項目を選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"** ボタンを押します。

FATパーティション上のバックアップファイルが表示されます。

メモ

FATパーティションにファイルが存在しない場合は、警告のポップアップメッセージが表示されます。

7. DATAホイールを使ってリストアしたいファイルを選択（反転表示）し、F2 **"[EXEC]"** ボタンを押します。
「実際の」ソングの名前（タイトル）と確認のポップアップメッセージ **"Are you sure?"** が表示されます。

メモ

ファイル名が短い場合は、FATパーティション上のファイル名の最後にスペースが表示されますが、実際のファイル名には、そのスペースは含まれません。

8. F3 **"[YES]"** ボタンを押します。
現在ロード中のソングが保存された後、手順6.で選択したソングがリストアされ、ロードされます。

メモ

SDカードの空き容量が足りない場合には、警告のポップアップメッセージが表示されます。

9. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

トラックのインポートとエクスポート

パソコンと本機の FATパーティション間で、トラック個別のインポートが可能です。
トラックのインポート／エクスポートに使われるファイルは、WAV形式です（拡張子《.WAV》が付きます）。
インポートはモノラル／ステレオ、エクスポートはモノラルに対応しています。
別の形式のオーディオを本機にインポートする場合は、事前に16ビット、44.1kHzのモノラル／ステレオWAVファイルに変換する必要があります。

トラックにインポートする

1. USBケーブルを使って本機とパソコンを接続します。（ → 66ページ「パソコンと接続する」）
2. パソコン側の操作で、パソコン上のWAVファイルを本機のFATパーティションの《**WAVE**》フォルダにコピーします。

メ モ

コピーするファイルは、半角英数文字のファイル名を持つファイルでなければなりません。
日本語のファイル名を持つファイルをコピーした場合は、後述の手順**6.**で表記されるディスプレー上のファイル名が表示されないため、インポートすることができません。

3. 本機をパソコンから正しく取り出し、USBケーブルを外します。（ → 67ページ「接続を解除する」）
4. 本機が自動的に再起動したら、MENUボタンを押して **"MENU"** 画面を表示します。
5. DATAホイールを使って **"IMPORT/EXPORT"** メニューを選択（反転表示）し、**F4 "[▶]"** ボタンを押します。

"IMPORT/EXPORT" メニュー画面が表示されます。

6. DATAホイールを使って、**"IMPORT TRACK"** 項目を選択（反転表示）し、**F4 "[▶]"** ボタンを押します。

FATパーティション上に存在するソングファイルが表示されます。

メ モ

- 本機は、44.1kHz以外のサンプリング周波数のWAVファイルに対応していません。これらのファイルをインポートしても、ディスプレーに表示されません。
  インポート可能なファイルが FATパーティション上にない場合は、ポップアップメッセージ **"Import File Not Found"** が表示されます。
- ファイル名が短い場合は、FATパーティション上のファイル名の最後にスペースが表示されますが、実際のファイル名には、そのスペースは含まれません。

7. DATAホイールを使って、インポートするWAVファイルを選択し、**F2 "[NEXT]"** ボタンを押します。
   ディスプレーに、MTRパーティションの空き容量および選択したWAVファイルのサイズが表示されます。

8. DATAホイールを使って、WAVファイルのインポート先のトラックを選択し、**F4 "[EXEC]"** ボタンを押します。
   インポートを開始します。

メ モ

- 十分な空き容量がない場合や、ファイルのフォーマットが間違っている場合など、警告のポップアップメッセージが表示されます。
- インポート先のトラックは、空のトラックでなければなりません。
  本機は、FATパーティションからファイルを読み、指定のトラックにインポートします。このとき、ファイルの先頭がソングの先頭（**"00:00:00:00"**）に対応します。
  他の録音トラックと同じように、トラックにインポートされたファイルに対して、編集を行うことができます。（ → 49ページ「トラックの編集」）
- ステレオWAVファイルをインポートする場合は、空のペアトラックが必要となります。

9. インポートが終了したら、HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

トラックをエクスポートする

希望のトラックを 16ビット、44.1kHzのモノラルWAV形式のファイルとしてエクスポートすることができます。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示ます。

2. DATAホイールを使って **"IMPORT/EXPORT"** メニューを選択（反転表示）し、**F4 "[▶]"** ボタンを押します。

"IMPORT/EXPORT" メニュー画面が表示されます。

3. DATAホイールを使って、**"EXPORT TRACK"** 項目を選択（反転表示）し、**F4 "[▶]"** ボタンを押します。

"EXPORT TRACK" 画面に進み、オーディオが記録されているソングトラックのファイルリストが表示されます。

ファイル名から元のトラック番号がわかります。

ヒント

ファイル名を編集するときは**F3 "[NAME]"** ボタンを押し、**"NAME EDIT"** 画面を表示して編集します。（→ 34ページ「名前の編集」）

メモ

オーディオが記録されていないトラックは、ファイルリストに表示されれません。

4. DATAホイールを使ってエクスポートするトラックを選択（反転表示）し、**F4 "[✔]"** ボタンを押します。
選択したトラックのチェックボックスが **"✔"** されます。

複数のチェックボックスを **"✔"** することにより、それらをまとめてエクスポートすることができます。

メモ

チェックボックスの**"✔"**を外すには、**"✔"**したトラックを選択(反転表示）した状態で**F4 "[✔]"** ボタンを再度押します。

5. エクスポートするトラックを選択（**"✔"** マークを付ける）が終了したら、**F2 "[NEXT]"** ボタンを押します。
FATパーティション（エクスポートするトラックのエクスポート先）の空き容量およびエクスポートするトラックの総容量が表示されます。

6. **F4 "[EXEC]"** ボタンを押します。
選択したトラックが、編集した名前（タイトル）に拡張子《**.WAV**》を付加したトラックファイル名でFATパーティションにエクスポートされます。
以前に同じ名前（タイトル）のトラックファイルをエクスポートしている場合は、確認のポップアップメッセージ **"Duplicate name Are you sure?"** が表示されます。

F3 "[YES]" ボタンを押すと上書きされます。
F4 "[NO]" ボタンを押すとファイルリストの画面に戻ります。

7. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

8. 本機とパソコンを接続します。（→ 66ページ「パソコンと接続する」）

9. パソコン側の操作で、トラックファイルを本機のFATパーティションの《**WAVE**》フォルダからパソコンにコピーします。

10. トラックファイルをパソコンにエクスポートしたら、本機を正しい手順でパソコンから取り出し、USBケーブルを外します。（→ 67ページ「接続を解除する」）

ステレオマスタートラックをエクスポートする

マスタリングを終了したステレオマスタートラックをパソコンにエクスポートすることができます。（ → 55ページ「ステレオマスタートラックを作成する」）
新しいステレオマスタートラックを作成するとき、既存のステレオマスタートラックは上書きされますので、複数の異なるステレオマスタートラックを残しておきたい場合は、パソコンに保存するとよいでしょう。
以下に述べるエクスポート手順を開始する前に、ステレオマスタートラックをエクスポートするソングが現在ロードされていることと、ステレオマスタートラックが作成されていることを確認してください。

1. レコーダーが停止中にMENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示ます。

2. DATAホイールを使って **"IMPORT/EXPORT"** メニューを選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"** ボタンを押します。

"IMPORT/EXPORT" メニュー画面が表示されます。

3. DATAホイールを使って、**"EXPORT MASTER"** 項目を選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"** ボタンを押します。

"EXPORT MASTER" 画面を表示します。

メモ

ステレオマスタートラックが存在しない場合は、警告のポップアップメッセージが表示されます。

4. 必要に応じてステレオマスターファイルの名前（タイトル）を編集します。　（ → 34ページ「名前の編集」）

5. ファイル名の編集が終了したら、F2 **"[EXEC]"** ボタンを押します。
16ビット、44.1kHzの1つのステレオWAVファイルとして、ステレオマスタートラックがFATパーティションにエクスポートされます。
エクスポートされたファイルは、上記手順**4.**で編集した名前（タイトル）に拡張子《**.WAV**》を付加したファイル名になります。
以前に同じ名前（タイトル）のステレオマスタートラックをエクスポートしている場合は、確認のポップアップメッセージ **"Duplicate name Are you sure?"** が表示されます。

F3 **"[YES]"** ボタンを押すと上書きされます。
F4 **"[NO]"** ボタンを押すと前の画面に戻り、名前（タイトル）を変えることができます。

メモ

エクスポートをキャンセルしたい場合は、F1 **"[BACK]"** ボタンを押します。

6. HOMEボタンを押して、ホーム画面に戻します。

7. USBケーブルを使って本機とパソコンを接続します。（ → 66ページ「パソコンと接続する」）

8. パソコン側の操作で、本機のFATパーティションの《**WAVE**》フォルダ内のステレオマスターファイルをパソコンにコピーします。

9. ファイルのコピーが終了したら、本機をパソコンから正しく取り出し、USBケーブルを外します。（ → 67ページ「接続を解除する」）

第 13 章　CD を使う

CDドライブを使うには

本機には、CD-R ／ CD-RWディスクの書き込みに対応したCDドライブを搭載しており、オーディオCD（CD-DA）を再生するだけでなく、次のようなことができます。

- 作成したステレオマスタートラックからオーディオCDを作成する。
- オーディオCDの曲を現在のソングに取り込む。
- 現在のソングをCD-R ／ CD-RWディスクにバックアップする。
- バックアップしたCD-R ／ CD-RWディスクからソングをリストア（復元）する。

本機でCDドライブを使うときの注意

本機でCDドライブを使うには、次のことに注意してください。

- CDドライブを使う前に本機のレコーダーモードを **"MULTI TRACK"** モードに切り換えます。**"MULTI TRACK"** モード以外のモードでは、**CD**ボタンを押しても警告のポップアップメッセージが表示され、**"CD"** メニュー画面は表示されません。
  "MIXDOWN" モードまたは **"MASTERING"** モードのときは、MIXDOWN/MASTERINGボタンを **"MULTI TRACK"** モードに戻るまで繰り返し押します。
  "BOUNCE" モードのときは、BOUNCEボタンを押して **"MULTI TRACK"** モードに切り換えます。
- ディスクをセットしたり取り出したりする場合には、**"CD"** メニュー画面を表示させた状態で行ってください。

本機は、録音時などにCDドライブの駆動音を出さないように、CDモード（**"CD"** メニュー画面およびそのサブメニューを表示状態）以外ではCDドライブの電源を切っています。このため、ディスクをセットしたり取り出したりするためには、CDモードに切り換わっている必要があります。また、CDモードであってもディスクがマウント（ポップアップメッセージ **"CD MOUNTING"** が表示された後）された後は、ディスクのセットおよび取り出しを行うことはできません。（**"CD PLAYER"** 画面を除く）
"CD" メニュー画面以外ではディスクのマウントが解除されますので、**"CD"** メニュー画面または **"CD PLAYER"** 画面で行ってください。

本機で使えるディスクメディアの種類

本機では、12cmまたは8cmのCD、CD-R、CD-RW、CD-RW High Speedのディスクメディアを使用することができます。CD-RW Ultra Speed およびCD-RW Ultra Speed＋のCD-RWディスクには、対応していません。
ディスクを使った機能と対応するディスクメディアの関係については、80ページ「ディスクメディア対応表」をご覧ください。

書き込み済みのCD-RWディスクを書き込み用に使うには

本機では、あらかじめCD-RWディスクの消去をしなくても書き込みを行う前に消去を行うことで、書き込み済みのCD-RWディスクも書き込み用に使用できます。
オーディオCDの作成またはソングのバックアップをするときに、書き込み済みのCD-RWディスクをセットすると、以下のメッセージが表示されます。

[CD BACKUP画面での確認のポップアップメッセージ]

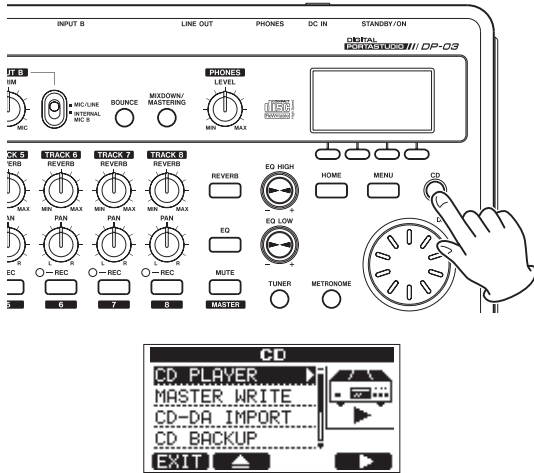
F3 "[YES]" ボタンを押すと、CD-RWディスクを消去後手順（上の例の場合はバックアップ）が続行されます。
CD-RWディスクを消去したくない場合は、**F4 "[NO]"** ボタンを押すとディスクトレーが自動で少し排出されますので、ディスクトレーを完全に引き出して、別のCD-RWディスクに交換してください。

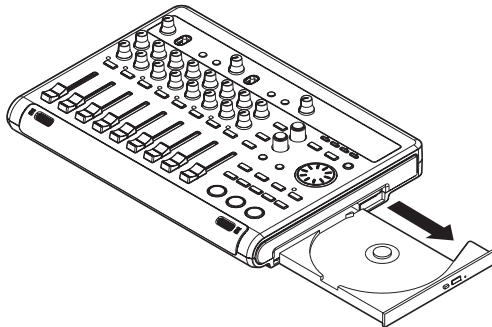
注意

未ファイナライズのオーディオCD形式のCD-RWディスク（**"MASTER WRITE"** 画面でステレオマスタートラックをひとつだけ選択し、ファイナライズをオフにして作成したCD-RWディスク）に、トラック・アット・ワンスでステレオマスタートラックを書き込もうとしたときには、CD-RWディスクを消去するポップアップメッセージは表示されず、追記されます。

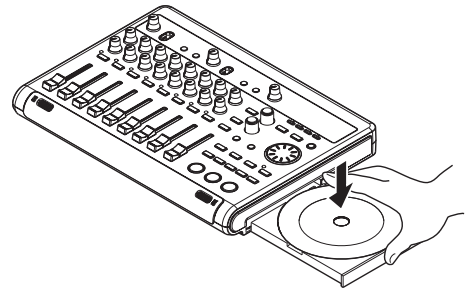
ディスクをセットする／取り出す

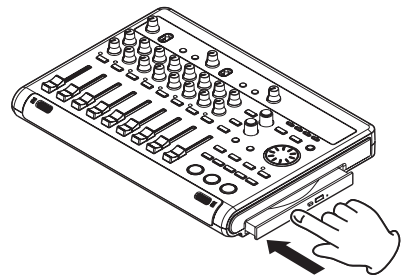
ディスクは、右サイドパネルのディスクトレーにセットします。

1. レコーダーモードが "**MULTI TRACK**" モードのときにCDボタンを押して、"**CD**" メニュー画面を表示します。

2. F2 "**[▲]**" ボタン、または右サイドパネルにあるディスクトレーのイジェクトボタンを押すと、ディスクトレーが少し飛び出します。
下図のようにディスクトレーを完全に引き出してください。

注 意

- ディスクトレーは、ホーム画面や "**MENU**" 画面などでは開けません。"**CD**" メニュー画面または "**CD PLAYER**" 画面が表示された状態で行ってください。
- ディスクトレーは、完全に引き出してください。完全に引き出さない状態でディスクをセットまたは取り出しをすると、ディスクを傷つけ、読み書きできなくなる原因となります。
- ディスクの記録面（レーベルの反対面）には、触らないでください。汚れや傷が入り正常に読み書きできなくなることがあります。

ディスクをセットする

1. 下図のようにレーベル面を上にしてディスクの側面を持って、ディスクをディスクトレーの上に、ディスク中央の穴がディスクトレー中央の丸い凸部にあうようにして置きます。

2. ディスク中央付近を軽く押して、ディスクをはめます。
きちんとはまるとカチッと音がし、ディスクとトレーが平行になります。

3. ディスクトレーを押して閉めます。カチッと音がするまで押してください。

ディスクがうまく入らないとき

ディスクが引っかかる等、正常にディスクトレーが閉められないときは、無理に押し込まずに一度トレーを完全に引き出してディスクをはめ直してから、再度入れ直してください。（無理に押し込むと、製品またはディスクを破損する場合があります。）

ディスクを取り出す

1. レコーダーモードが **"MULTI TRACK"** モードのときにCDボタンを押して、**"CD"** メニュー画面を表示します。

2. F2 **"[▲]"** ボタン、または右サイドパネルにあるディスクトレーのイジェクトボタンを押すとディスクトレーが排出されますので、ディスクトレーを手で完全に引き出してください。
   ディスクの側面を持って、上に持ち上げます。

注 意

- ディスクトレーは、ホーム画面や **"MENU"** 画面などでは開けません。**"CD"** メニュー画面または **"CD PLAYER"** 画面が表示された状態で行ってください。
- ディスクは、無理に持ち上げないでください。製品やディスクを破損する場合があります。

ディスクの強制排出

CDドライブの故障等で **"CD"** メニュー画面のF2 **"[▲]"** ボタン、または右サイドパネルにあるディスクトレーのイジェクトボタンを押してもディスクが排出されない場合は、強制排出用の穴（エマージェーシーホール）を使用しディスクを取り出すことができます。ディスクの強制排出時は、本体を電源をスタンバイにし、本機からACアダプターを外してから、以下の操作を行ってください。

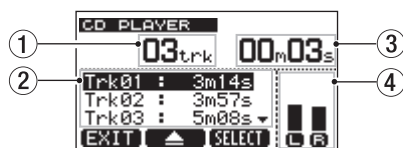
1. クリップなどを伸ばした細長いピンを用意してください。
2. エマージェーシーホール強制排出用の穴にピンを差し込み、何回か奥に押し込みます。
3. ディスクトレーが少し開きますので、手で引き出します。

注 意

- 緊急時のための機能です。通常のディスク取り出しは通常の手順で取り出してください。（74ページ「ディスクを取り出す」）
- ディスクの強制排出は、電源の入っている状態では絶対に行わないでください。

オーディオCDを再生する

1. CDボタンを押して、**"CD"** メニュー画面を表示します。
2. オーディオCDをセットします。
3. DATAホイールを使って **"CD PLAYER"** 項目を選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"** ボタンを押します。

"CD PLAYER" 画面が表示され、CDドライブがCDプレーヤーとして機能します。

① 現在再生中のトラック番号を表示します。

② トラック番号とトラック時間を表示します。
DATAホイールにより、選択トラックを上下に移動できます。CDプレーヤー停止中に、PLAY【▶】ボタンまたはF3 **"[SELECT]"** ボタンを押すと、選択トラックが再生されます。

③ 現在再生中のトラック番号の、先頭からの経過時間を表示します。

④ CDに記録されているオーディオのレベルメーターです。本機のLINE OUT端子やPHONES端子へ送られるCDの再生レベルは、MASTERフェーダーで調節できません。

4. **"CD PLAYER"** 画面表示中は、以下のDATAホイールおよびボタンを使うことにより、CDプレーヤーのコントロールを行うことができます。

ボタン類	内容
DATAホイール	再生するトラックを選択
STOP【■】ボタン	CDプレーヤーを停止
PLAY【▶】ボタン	停止中に押すと、選択されたトラックを再生
REW【◀◀】 [TO ZERO] ボタン	トラックの先頭付近では前のトラックにスキップし、トラックの途中では現在のトラックの先頭へスキップ
F FWD【▶▶】 [TO LAST REC] ボタン	次のトラックへスキップ
STOP【■】ボタン +REW【◀◀】 [TO ZERO] ボタン	CDの最初のトラックにスキップして停止
F2 **"[▲]"** ボタン	再生を停止し、ディスクトレーを開く
F3 **"[SELECT]"** ボタン	選択されたトラックを再生

メ モ

- 再生中、トラックを選択しても再生には反映されません。いったん停止してから再生を行うと選択したトラックが再生されます。
- 早送り、早戻しはできません。

オーディオCDを作成する

本機では、ソングごとに作成したステレオマスタートラックをCD-R ／ CD-RWディスクに書き込み、一般のCDプレーヤーで再生可能なオーディオCDを作成することができます。（ → 55ページ「ステレオマスタートラックを作成する」）
オーディオCDを作成する方法には、以下の 2つがあります。

ディスク・アット・ワンス（DAO= Disc At Once）

複数のステレオマスタートラックを、一度に書き込む方法です。
一般のCDプレーヤーで再生するためのファイナライズまで自動実行するため、書き込み終了後すぐに他のCDプレーヤーでの再生が可能となります。（ → 77ページ「ファイナライズする」）
ディスク・アット・ワンスでは、自動でファイナライズまで実行するため、終了後のCD-R ／ CD-RWディスクへの追記はできません。

トラック・アット・ワンス（TAO=Track At Once）

ステレオマスタートラックを、1トラックずつCD-R ／ CD-RWディスクに書き込む方法です。
何回かに分けてCD-R ／ CD-RWディスクへの書き込みを行いたい場合は、トラック・アット・ワンスで行います。
トラック・アット・ワンスでは、自動でのCD-R ／ CD-RWディスクのファイナライズは行いません。
未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクは、一般のCDプレーヤーでは再生できません（本機での再生は可能です）。
書き込みたいステレオマスタートラックをすべてトラック・アット・ワンスで書き込んだ後、ファイナライズを行ってください。（ → 77ページ「ファイナライズする」）
ファイナライズ終了後は、CD-R ／ CD-RWディスクへの追記ができません。

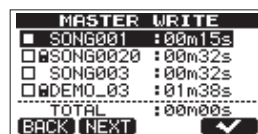
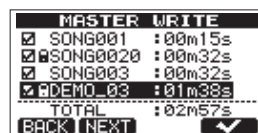
ディスク・アット・ワンスで書き込む

複数のトラックを選択した場合は、ディスク・アット・ワンスで書き込みを行います。
ディスク・アット・ワンスで複数トラックを書き込む場合には、自由にトラックの順番を設定できます。また、曲間に指定の長さの無音部分を追加することができます。

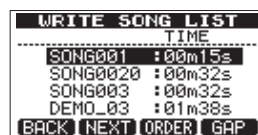
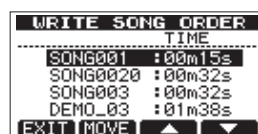
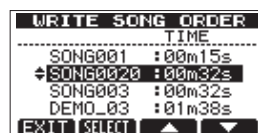
メモ

ディスク・アット・ワンスの場合は、同じ内容のディスクを複数枚作成することができます。この場合は同じディスクメーカー、同じ種類、同じ容量のディスクを使用してください。

1. レコーダーモードが **"MULTI TRACK"** モードのときに**CD**ボタンを押して、**"CD"** メニュー画面を表示します。
2. ディスクトレーにブランクCD（未使用のCD-R ／ CD-RWディスクまたは消去済みのCD-RWディスク）をセットします。
3. **DATA**ホイールを使って **"MASTER WRITE"** 項目を選択（反転表示）し、**F4 "[▶]"** ボタンを押します。

"MASTER WRITE" 画面が表示され、ステレオマスタートラックが録音されているソングの一覧が表示されます。

4. **DATA**ホイールを使ってCD-R ／ CD-RWディスクに書き込みたいソングを選択（反転表示）し、**F4 "[✔]"** ボタンを押すと選択したソングのチェックボックスが **"✔"** されます。

メモ

チェックボックスの **"✔"** を外すには、**"✔"** したソングを選択（反転表示）した状態で**F4 "[✔]"** ボタンを再度押します。

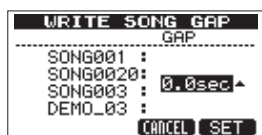
5. 上記の手順**4.**を必要に応じて繰り返します。
6. 書き込むソングが決まったら、**F2 "[NEXT]"** ボタンを押します。
   "WRITE SONG LIST" 画面が表示されます。この画面では、CD-R ／ CD-RWディスクに書き込むステレオマスタートラックの順番および曲間ギャップを設定することができます。

7. ソングの順番を変更するには、**F3 "[ORDER]"** ボタンを押して、**"WRITE SONG ORDER"** 画面（曲順変更画面）を表示します。

8. **DATA**ホイールまたは**F3 "[▲]"** ボタンおよび**F4 "[▼]"** ボタンを使って順番を変えたいソングを選択（反転表示）し、**F2 "[MOVE]"** ボタンを押します。
   ソング名の手前に **"⬍"** アイコンが表示されます。

9. **DATA**ホイールを使ってソング位置を移動します。
   F2 "[SELECT]" ボタンを押すと確定します。
   順番を変えたいソングが複数ある場合は、上記手順**8.** ～ **9.**を繰り返してください。
10. 曲順を変更したら、**F1 "[EXIT]"** ボタンを押して、**"WRITE SONG LIST"** 画面に戻します。

11. 曲間ギャップを変更するには、F4 **“[GAP]”** ボタンを押します。**“WRITE SONG GAP”** 画面が表示されます。

12. F3 **“[▲]”** ボタンおよびF4 **“[▼]”** ボタンを使ってギャップを変えたいソングを選択（反転表示）し、DATAホイールを使って曲間ギャップを設定します。
曲間ギャップは、0.0秒から9.9秒まで0.1秒単位で設定が可能です。

メモ

曲間ギャップを変えたいソングが複数ある場合は、上記手順12.を繰り返してください。

13. F2 **“[ALL]”** ボタンを押すと、全てのギャップを一括で設定できます。

DATAホイールを使って曲間ギャップを設定します。
F4 **“[SET]”** ボタンを押すと設定を確定し、**“WRITE SONG GAP”** 画面に戻ります。

14. 変更を終了したら、F1 **“[EXIT]”** ボタンを押して、**“WRITE SONG LIST”** 画面に戻します。

15. 曲順と曲間のギャップの設定が終了したら、F2 **“[NEXT]”** ボタンを押します。

16. CD-R ／ CD-RWディスクをマウントするポップアップメッセージが表示された後、確認のポップアップメッセージが表示されますので、F3 **“[YES]”** ボタンを押します。
CD-R ／ CD-RWディスクへの書き込みが開始されます。

メモ

F4 **“[NO]”** ボタンを押すと、書き込みをせずに **“WRITE SONG LIST”** 画面に戻ります。

17. 書き込み終了後、同じ内容をさらに別のCD-R ／ CD-RWディスクに書き込むかどうかの確認のポップアップメッセージが表示されます。

別のCD-R ／ CD-RWディスクに書き込む場合は、F3 **“[YES]”** ボタンを押します。書き込まない場合は、F4 **“[NO]”** ボタンを押します。

トラック・アット・ワンスで書き込む

トラック・アット・ワンスでは、1トラックの書き込みを終えると、最後に2秒間の無音を記録します。

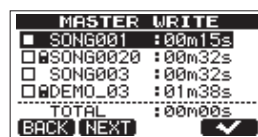
1. レコーダーモードが **“MULTI TRACK”** モードのときに**CD**ボタンを押して、**“CD”** メニュー画面を表示します。

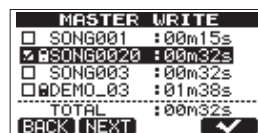
2. ディスクトレーにブランクCD（未使用のCD-R ／ CD-RWディスクまたは消去済みのCD-RWディスク）をセットします。

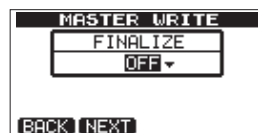
メモ

未ファイナライズのトラック・アット・ワンスで書き込まれたCD-R ／ CD-RWディスクをセットした場合には、トラックを追記します。この場合、CD-RWディスクの消去はできません。

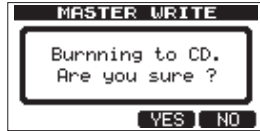
3. DATAホイールを使って **“MASTER WRITE”** を選択（反転表示）し、F4 **“[▶]”** ボタンを押します。

“MASTER WRITE” 画面に進み、ステレオマスタートラックが録音されているソングの一覧が表示されます。

4. DATAホイールを使ってCD-R ／ CD-RWディスクに書き込みたいソングを1曲だけ選択（反転表示）し、F4 **“[✔]”** ボタンを押します。
選択したソングのチェックボックスが **“✔”** されます。

メモ

チェックボックスの **“✔”** を外すには、**“✔”** したソングを選択（反転表示）した状態でF4 **“[✔]”** ボタンを再度押します。

5. F2 **“[NEXT]”** ボタンを押します。
書き込み後にファイナライズを行うかどうかを選択するポップアップメッセージが表示されます。

ヒント

これ以上CD-R ／ CD-RWディスクへの書き込みを行わない場合は、ファイナライズを行います。（ → 77ページ「ファイナライズする」）

6. ファイナライズする場合はDATAホイールで **"ON"** を、ファイナライズしない場合は **"OFF"** を選択し、再度F2 **"[NEXT]"** ボタンを押します。（初期値：**"OFF"**）
   CD-R ／ CD-RWディスクをマウントするポップアップメッセージが表示された後、以下の書き込み確認のポップアップメッセージが表示されます。

7. F3 **"[YES]"** ボタンを押して、CD-R ／ CD-RWディスクへの書き込みを開始します。

ファイナライズする

トラック・アット・ワンス（TAO）で書き込んだCD-R ／ CD-RWディスクに、これ以上トラックの追記を行わない場合には、一般のCDプレーヤーで再生できるようファイナライズを行います。

1. レコーダーモードが **"MULTI TRACK"** モードのときにCDボタンを押して、**"CD"** メニュー画面を表示します。
2. ディスクトレーにファイナライズをしたいCD-R ／ CD-RWディスクをセットします。
3. DATAホイールを使って **"FINALIZE"** 項目を選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"** ボタンを押します。

   CD-R ／ CD-RWディスクをマウントするポップアップメッセージが表示された後、ファイナライズの確認のポップアップメッセージが表示されます。

4. F3 **"[YES]"** ボタンを押して、ファイナライズが開始します。

メモ

未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクは、一般のCDプレーヤーでは再生できません。
ファイナライズを行うと、そのディスクに追記はできなくなります。

オーディオCDから曲をインポートする

オーディオCDの各トラック（曲）を、現在ロードされているソングのトラックにインポートすることができます。

1. レコーダーモードが **"MULTI TRACK"** モードのときにCDボタンを押して、**"CD"** メニュー画面を表示します。
2. ディスクトレーにオーディオCDをセットします。
3. DATAホイールを使って **"CD-DA IMPORT"** 項目を選択（反転表示）し、F4 **"[▶]"** ボタンを押します。

   "AUDIO CD IMPORT" 画面が表示されます。

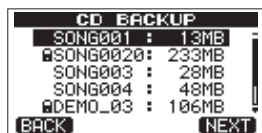
4. F3 **"[▲]"** ボタンまたはF4 **"[▼]"** ボタンを使って、**"FROM"** 項目を選択し、DATAホイールを使ってインポートするトラック（曲）を選択（反転表示）します。
5. F3 **"[▲]"** ボタンまたはF4 **"[▼]"** ボタンを使って、**"TO"** 項目を選択し、DATAホイールを使ってインポート先トラックを選択（反転表示）します。（**"Trk1-2"**、**"Trk3-4"**、**"Trk5-6"**、**"Trk7-8"** のペアトラック）
6. F2 **"[EXEC]"** ボタンを押します。
   確認のポップアップメッセージが表示されますので、F3 **"[YES]"** ボタンを押します。

   オーディオCDからのインポートが実行され、終了すると **"CD"** メニュー画面に戻ります。

CD-R ／ CD-RWディスクにソングデータをバックアップする

ソングデータをCD-R ／ CD-RWディスクにバックアップすることができます。

1. レコーダーモードが **"MULTI TRACK"** モードのときに**CD**ボタンを押して、**"CD"** メニュー画面を表示します。
2. ディスクトレーにブランクCD（未使用のCD-R ／ CD-RWディスクまたは消去済みのCD-RWディスク）をセットします。
3. DATAホイールを使って **"CD BACKUP"** 項目を選択（反転表示）し、**F4 "[▶]"** ボタンを押します。

"CD BACKUP" 画面に進み、現在選択されているMTRパーティション内のソングリストが表示されます。

4. DATAホイールを使ってバックアップするソングを選択（反転表示）し、**F4 "[NEXT]"** ボタンを押します。
   "CD BACKUP" 画面のファイルの名前（タイトル）を編集する表示になります。

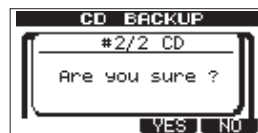
メモ

バックアップCDに書き込めるソングは、1つだけです。

5. 必要に応じてCD-R ／ CD-RWディスクにバックアップするファイルの名前（タイトル）を編集します。（ → 34ページ「名前の編集」）
6. **F2 "[EXEC]"** ボタンを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。

7. **F3 "[YES]"** ボタンを押します。
8. バックアップに必要なCD-R ／ CD-RWディスクの枚数が表示されますので同じディスクメーカー、同じ種類、容量のディスクを表示された枚数分用意します。

9. 再度**F3 "[YES]"** ボタンを押します。
10. 1枚目のCD-R ／ CD-RWディスクへの書き込みが終了後、2枚目のCDの要求するポップアップメッセージが表示されたら、1枚目と同じ次のブランクCDをセットしてください。

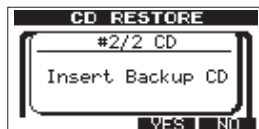
11. CD-R ／ CD-RWディスクをマウント後、確認のポップアップメッセージが出ますの**F3 "[YES]"** ボタンを押します。

12. すべてのCD-R ／ CD-RWディスクに書き込みが終了すると、**"CD"** メニュー画面に戻ります。

CD-R ／ CD-RWディスクからソングをリストアする

CD-R ／ CD-RWディスクにバックアップしてあるソングをリストア（復元）します。

1. レコーダーモードが **“MULTI TRACK”** モードのときに**CD**ボタンを押して、**“CD”** メニュー画面を表示します。
2. ディスクトレーにバックアップファイルが記録されているCD-R ／ CD-RWディスクをセットします。
3. DATAホイールを使って **“CD RESTORE”** 項目を選択（反転表示）し、F4 **“[▶]”** ボタンを押します。

4. 確認のポップアップメッセージが表示されますので、F3 **“[YES]”** ボタンを押します。

5. 複数枚のCD-R ／ CD-RWディスクにバックアップされていた場合には、一枚目のCD-R ／ CD-RWディスクからのリストアが終了後、2枚目のCD-R ／ CD-RWディスクを要求するポップアップメッセージが表示されますので、2枚目のバックアップCDをセットします。

6. リストアが終了すると **“CD”** メニュー画面に戻ります。

CD-RWディスクを消去する

以下の手順で書き込み済みのCD-RWディスクを消去することができます。

1. レコーダーモードが **“MULTI TRACK”** モードのときに**CD**ボタンを押して、**“CD”** メニュー画面を表示します。
2. ディスクトレーに消去したいCD-RWディスクをセットします。
3. DATAホイールを使って **“ERASE”** 項目を選択し、F4 **“[▶]”** ボタンを押します。

以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。

4. F3 **“[YES]”** ボタンを押して、CD-RWディスクの消去を開始しします。
消去が終了すると、**“CD”** メニュー画面に戻ります。

注 意

この操作を行うと、CD-RWディスクの内容は全て消去されます。消去した内容を復帰させることはできません。
消去を行う前によく確認してください。

メ モ

CD-Rディスクは、消去できません。

ディスクメディア対応表

	オーディオCD再生 オーディオCDインポート	オーディオCD書き込み	データリストア	データバックアップ
CDDA規格フォーマット 市販の音楽CD	○	-	-	-
CDDA規格フォーマット CD-R ／ CD-RW 本機で作成	○	-	-	-
CDDA規格フォーマット CD-R ／ CD-RW 本機以外で作成	△	-	-	-
CDDA規格フォーマット CD-R ／ CD-RW 本機で作成 未ファイナライズ	○	○	-	-
CDDA規格フォーマット CD-R ／ CD-RW本機以外で作成 未ファイナライズ	×	×	-	-
CDDA規格外フォーマット 市販のCD （プロテクトCD,DATA CD,CD extra等）	△	-	-	-
CDDA規格フォーマット CD-R ／ CD-RW （DATA CD,CD extra等）	△	-	-	-
ISO 9660 Level1 CD-R ／ CD-RW 本機でバックアップ	-	-	○	-
CD-R ／ CD-RW～HIGH Speed	-	○	-	○
“Ultra Speed”CD-RW	×	×	×	×

○：対応、△：動作保証外、×：非対応

第 14 章　マスタリング用コンプレッサーの設定一覧

マスタリング用コンプレッサーのプリセットライブラリー

マスタリング用コンプレッサーのプリセットライブラリーは、以下をご覧ください。

マルチバンドコンプレッサー

プリセット名	内容
Basic CD M.	ベーシックなCDマスタリング用です。
POP	ドンシャリで特に高域が派手な音質になるような設定です。
POP Rock1	高域を派手に色付けしつつ、中低域にも音圧感を出しています。
POP Rcck2	POP Rock1の設定よりコンプレッション感を強く出しています。
Rock1	Rockに向いたふっくらとした低音域の音圧を出せます。
Rock2	Rock1の設定より低域、高域の強調を派手にしています。
Classic	クラシック向きの緩やかなコンプレッションです。
Dance	Dance Music向きの超高域と超低域の強調をしています。
R&B HipHop	R&BやHipHopに向いた強いコンプレッションのかかった高域とパンチのある低域を出しています。

シングルバンドコンプレッサー

プリセット名	内容
Bassic Comp	レベルを揃えるための基本的な設定としてお使いください。
Bassic Limit	リミッターとしての基本的な設定です。
Hard Comp	かなり深いコンプレッションを得ることができます。
Hard Limit	リミッターとして深い設定です。

コンプレッサーを使用することで音が歪む場合は各バンドのゲインを下げるか、最大レベルが**OL**（オーバーロード）インジケーターの点灯する少し手前になるようにしてミックスダウンし直してください。それにより、バランス良く、効果的に音圧を上げることができます。

マスタリング用コンプレッサーのパラメーター一覧

マスタリング用コンプレッサーのパラメーターは、以下をご覧ください。

Lib	TYPE	Threshold			Ratio			Level			Auto Makeup
		High	Mid	Low	High	Mid	Low	High	Mid	Low	
Basic CD M.	3Band	-16dB	-11dB	-15dB	3.0:1	3.0:1	3.0:1	+6dB	+5dB	+6dB	–
POP	3Band	-13dB	-13dB	-11dB	4.0:1	4.0:1	4.0:1	+8dB	+2dB	+6dB	–
POP Rock 1	3Band	-13dB	-13dB	-11dB	4.0:1	4.0:1	4.0:1	+7dB	+2dB	+6dB	–
POP Rock 2	3Band	-15dB	-13dB	-11dB	6.0:1	6.0:1	6.0:1	+7dB	+2db	+5dB	–
Rock 1	3Band	-17dB	-13dB	-11dB	2.0:1	2.0:1	3.0:1	+4dB	+2dB	+3dB	–
Rock 2	3Band	-17dB	-13dB	-11dB	2.0:1	2.0:1	4.0:1	+8dB	+2dB	+3dB	–
Classic	3Band	-15dB	-13dB	-15dB	1.5:1	1.5:1	1.5:1	+3dB	+5dB	+3dB	–
Dance	3Band	-14dB	-13dB	-16dB	4.0:1	1.5:1	4.0:1	+8dB	+2dB	+5dB	–
R&B	3Band	-20dB	-13dB	-19dB	8.0:1	2.0:1	6.0:1	+11dB	+1dB	+8dB	–
Basic Comp	1Band	-16dB	-16dB	-16dB	2.0:1	2.0:1	2.0:1	+2dB	+2dB	+2dB	On
Basic Limit	1Band	-18dB	-18dB	-18dB	16:1	16:1	16:1	+2dB	+2dB	+2dB	On
Hard Comp	1Band	-24dB	-24dB	-24dB	2.5:1	2.5:1	2.5:1	+2dB	+2dB	+2dB	On
Haed Limit	1Band	-24dB	-24dB	-24dB	16:1	16:1	16:1	+1dB	+1dB	+1dB	On

第 15 章　トラブルシューティング

本機を使って作業しているとき、思いどおりに動作してくれなかったり、どうしていいかわからないような場合は、まずこのトラブルシューティングをご覧ください。「よくあるトラブル」とそれに対する「考えられる原因」が書かれています。また、83ページ「メッセージ」には、ディスプレーに表示されるポップアップメッセージの内容／意味が表にまとめてあります。行った操作に対してのポップアップメッセージが表示され、本機が操作を受け付けない場合は、この表を参考にしてください。

再生しているのに音が出ない

↓

- トラックフェーダーは、適正なレベルまで上がっていますか？
- MASTERフェーダーは、適正なレベルまで上がっていますか？
- PHONES端子またはLINE OUT端子からモニターシステムに正しく接続されていますか？
  また、モニターシステムが正しく設定されていますか？
- PHONES LEVELつまみが適正なレベルまで上がっていますか？（PHONES端子のみ）

録音しようとする音が歪んで聞こえる

↓

- 本機のトップパネルにあるINPUT AまたはINPUT BのTRIMつまみが上がりすぎていませんか？
  あるいは入力ソースのレベルが高すぎませんか？
- モニターレベルが高すぎて、モニターシステムが歪んでいませんか？

録音ができない

↓

- RECORD【●】ボタンを押しながらPLAY【►】ボタンを押して録音を開始する時点で、少なくともいずれか一つのTRACKが録音待機状態（RECインジケーター点滅）になっていますか？
- 入力チャンネルがトラックにアサインされていますか？（→ 39ページ「入力をアサインする」）

パソコン上に本機のファイルが表示されない

↓

- 本機がUSB端子経由でパソコンに接続されていますか？（→ 66ページ「パソコンと接続する」）
- USB接続する前に、FATパーティションにソング、トラックまたはステレオマスタートラックをバックアップまたはエクスポートしてありますか？
  パソコンからは、直接MTRパーティション内のファイルを読むことはできません。

パッシブタイプのギターやベースを直接接続したときにノイズが発生する。

↓

- 本機のライン出力（LINE OUT）端子を他の機器に接続すると、ノイズが軽減される場合があります。
- 他の機器から妨害ノイズの影響などを受けている可能性があります。近くにパワーアンプなど大型のトランスを持つ機器や蛍光灯などがある場合は、これらの機器との間隔や方向を変えることにより、ノイズが軽減される場合があります。
- 本機のGROUND端子をグランドに接続するとノイズが低減される場合があります。

ディスクトレーを開けない

↓

- CDモード（**"CD"** メニュー画面およびそのサブメニューを表示状態）以外では、ディスクトレーを開くことはできません。本機のレコーダーモードを **"MULTI TRACK"** モードに戻してからCDボタンを押して、**"CD"** メニュー画面を表示した状態でF2 **"[⏏]"** ボタン、または右サイドパネルにあるディスクトレーのイジェクトボタンを押してください。

作成したオーディオCDがオーディオCDプレーヤーで聴くことができない。

↓

- オーディオCDは、ファイナライズされていますか？
  未ファイナライズのオーディオCDは、一般のオーディオCDプレーヤーでは再生できません。ファイナライズをしてから使用してください。（ファイナライズすると追記はできなくなります。）
- CD-RWディスクに対応していないオーディオCDプレーヤーで再生しようとしていませんか？
  対応しているオーディオCDプレーヤーを使うか、CD-Rディスクでオーディオ CDを作成しなおしてください。（CD-Rディスクであってもオーディオ CDプレーヤーによっては、再生できない場合もあります。）

オーディオCDの作成、ソングのバックアップができない／失敗する

↓

- 使用しているブランクCDは、対応しているCD-R ／ CD-RWディスクですか？
  CD-RW Ultra SpeedおよびCD-RW Ultra Speed＋のCD-RWディスクには、対応していません。
- CD-R ／ CD-RWディスクのディスクメーカー、種類によっては書き込みに失敗したり、成功しても読み込めない、読み込みに時間がかかることがあります。他のディスクメーカーのCD-R ／ CD-RWディスクを使ってください。

一般メッセージ

以下のポップアップメッセージの一覧表を示します。
本機では、状況に応じたポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
Card Full	「録音中にSDカードがいっぱいになりました。」
Empty Export Track	「エクスポートトラックに録音されたデータがありません。」 何も録音されていないソングのトラックをエクスポートしようとすると表示されます。（ → 69ページ「トラックのインポートとエクスポート」） 録音されたソングのトラックをエクスポートしてください。
File Not Found	「ファイルが見つかりません。」 FATパーティションにバックアップされたソングがないときに、ソングをリストアしようとすると表示されます。（ → 67ページ「ソングのバックアップとリストア」）
I/O Too Short	「INポイントとOUTポイントが近すぎます。」 リピート再生モードに切り換えようとするときにINポイントとOUTポイントが近すぎると表示されます。 IN ／ OUTポイントの間を4秒以上離してください。
Import File Not Found	「インポートするファイルがみつかりません。」 WAVファイルのないFATパーティションからWAVファイルをインポートしようとしています。（ → 69ページ「トラックにインポートする」） 本機をパソコンに接続して、インポートするファイルをパソコンから本機のFATパーティションに転送してください。
Import File Too Large	「インポートするファイルが大きすぎます。」 MTRパーティションの空き容量より容量の大きいWAVファイルをFATパーティションからインポートしようとしています。MTRパーティション内の不要なソングを削除して空き容量を増やしてから再度インポートを試みてください。
In Bounce Mode	「バウンスモード中です。」 バウンスモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
In Master Mode	「マスタリングモード中です。」 **"MASTERING"** モード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
In Punch Mode	「オートパンモード中です。」 オートパンチモード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
In Repeat Mode	「リピート再生モード中です。」 リピート再生モード中に禁止操作をしようとしたときに表示されます。
Invalid Card	「挿入されているSDカードは、本機で使用できないフォーマットです。」 電源をオフにしてから別のSDカードを挿入するか、**"MENU"** → **"CARD"** から **"FORMAT"** してください。
Mark Full	「ロケートマークをこれ以上登録できません。」 1つのソング内のロケートマーク数は、最大999までです。（ → 45ページ「ロケートマーク」） 新しいロケートマークを登録するには、不要なロケートマークを削除してから行なってください。
Master Track Not Found	「ステレオマスタートラックが見つかりません。」 ステレオマスタートラックがソング内に録音されていないときにステレオマスタートラックをエクスポートしようとすると表示されます。（ → 71ページ「ステレオマスタートラックをエクスポートする」） ソングをマスタリングしてから、ステレオマスタートラックをエクスポートしてください。
Master Track Too Large	「ステレオマスタートラックが大きすぎます。」 FATパーティションの空き容量より大きなステレオマスタートラックをエクスポートしようとしています。（ → 71ページ「ステレオマスタートラックをエクスポートする」） FATパーティションをフォーマットするか（ → 64ページ「FATパーティションを再フォーマットする」）、本機器をパソコンに接続して、不要なファイルを削除するなどして、空き容量を確保してください。
No Armed Track	「録音待機トラックがありません。」 1つ以上のトラックを録音待機状態にしないでオートパンチモードに切り換えようとしています。（ → 48ページ「オートパンチイン／アウト」） 録音待機トラックを設定してから、オートパンチモードに切り換えてください。
No Disk Space	「空き容量がありません。」 MTRパーティションに十分な空き容量がないときにソングを作成しようとしたり、ソングをコピーしようとしたりすると表示されます。 ソングを消去するか（ → 37ページ「ソングを消去する」）、SDカードをフォーマット（ → 31ページ「SDカードをフォーマットする」）するなどして、空き容量を確保してください。

メッセージ	内容と対処方法
No Locate Mark	「ロケートマークがありません。」 ロケートマークが登録されていないときにロケートマークリストを編集しようとすると表示されます。 （ → 45ページ「ロケートマーク」）
No Master Trk	「マスタートラックが存在しません。」 トラックのクローンを作るとき、存在しないステレオマスタートラックをソースとして選択しようとすると、このポップアップメッセージが表示されます。（ → 52ページ「クローントラック（トラック複製）」） ステレオマスタートラックを作るか、または別のソースを選択してください。
No Undo Histry	「アンドゥの操作履歴がありません」 アンドゥするような操作が存在しません。（ → 42ページ「操作履歴の消去について」）
No SD Card	「SDカードが挿入されておりません。」 電源をオフにしてからSDカードを挿入してください。
Not Stopped	「レコーダーが停止していません。」 レコーダーが停止していないとき、**UNDO/REDO**ボタンのように停止中でないと受け付けないボタンを押すと、このメッセージがポップアップメッセージが表示されます。
Now Recording	「レコーディング中です。」 レコーディングを行っているときにメニュー操作を行おうとするとポップアップメッセージが表示されます。 他にもレコーディング中に受け付けない操作があります。
Protected Card	「挿入されているSDカードは、プロテクトされています。」 録音や編集を行いたい場合は、電源をオフしてSDカードのプロテクトを解除してください。
Same Track	「同じトラックを指定しています。」 クローントラック設定で、**"Src Trk"**と**"Dst Trk"**とで同じトラックを指定すると表示されます。
SD Size Error	「本機では、使用できない小さいサイズのSDカードが挿入されています。」 512Mバイト以上のSDカードをご使用ください。
Song Protected	「ソングがプロテクトされています。」 プロテクトされているソングに変更（録音、編集など）を加えようとすると表示されます。（ → 37ページ「ソングをプロテクトする」） 変更を加える前にプロテクトを解除してください。
Too Many songs	「これ以上ソングを作成できません。」 一つのMTRパーティションが持つことができるソングの数は最大250です。不要なソングを削除してから、新しいソングを作成してください。
Track Full	「トラックが録音済みです。」 全てのトラックが録音されている状態でインポートを実行しようとすると表示されます。（ → 69ページ「トラックにインポートする」）
Trk Edit Fail	「トラックエディットに失敗しました。」 ソングを保存してから本体の電源を入れ直して再度トラックエディットを実行してください。
Trk Too Short	「トラックが短すぎです。」 ミックスダウンモードに切り換えたようとしたときに、INポイントとOUTポイントが近すぎると表示されます。 IN ／ OUTポイントの間を4秒以上離してください。（ → 46ページ「IN ／ OUT ／ TOポイントを設定する」）
Work Memory Full	「作業用の、SD上に作る仮想メモリーがいっぱいになりました。」 SDカードの空き容量が残っていても、1ソングでの長時間録音を行ったり、編集作業を多く行うと発生する場合があります。 操作履歴の消去を実行すると空き仮想メモリーが増え、作業が続行できる場合があります。（ → 42ページ「操作履歴の消去について」） 電源をオフ（スタンバイ状態）することでも空きワークメモリーが増え、作業が続行できる場合があります。
Audio Rst Fail	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れなおしてください。 これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センターにご相談ください。
Device Error	
FileErr	
FX Busy	
FX Rx Failed	
I/F Error	
Mount Error	
SaveParam Fail	
SD-Card Error!	
SD Not Found	
SD Read Busy	
SD Write Busy	

CDモードでのメッセージ

本機がCDモード（**"CD"** メニュー画面およびそのサブメニュー画面を表示状態）のときに表示されるポップアップメッセージを以下に示します。それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときに、この表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
Blank CD Insert CD-RW	「ブランクCDがセットされています、消去するCD-RWディスクをセットしてください。」 **"CD"** メニュー画面の **"ERASE"** 項目で、ブランクCDがセットされた場合に表示されます。 セットされているCD-R ／ CD-RWディスクは、消去する必要がありません。
Blank CD Insert Opened CD	「ブランクCDがセットされています、未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクをセットしてください。」 **"CD"** メニュー画面の **"FINALIZE"** 項目で、ブランクCDがセットされた場合に表示されます。ファイナライズしたいCD-R ／ CD-RWディスクをセットしてください。
Finalized CD Insert CD-RW	「ファイナライズされたCD-RWディスクがセットされています、未ファイナライズのCD-RWディスクをセットしてください」 **"CD"** メニュー画面の **"ERASE"** 項目で、ファイナライズ済みのCD-R ／ CD-RWディスクがセットされた場合に表示されます。CD-RWディスクのみが消去可能です。
Finalized CD Insert Opened CD	「ファイナライズ済みのCD-R ／ CD-RWディスクがセットされています、未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクをセットしてください。」 **"CD"** メニュー画面の **"FINALIZE"** 項目で、ファイナライズ済みのCD-R ／ CD-RWディスクがセットされた場合に表示されます。このCD-R ／ CD-RWディスクは、ファイナライズの必要がありません。
Import CD-DA Track Full	「空きのトラックがありません。」 **"CD"** メニュー画面の **"CD-DA IMPORT"** 項目でインポートを実行する際、インポートするトラックがない場合（全てのトラックが使用済み）に表示されます。 **"TRACK EDIT"** 画面の **"CLEAN OUT"** 項目で空きトラックを作った後、インポートを行うか新規のソングを作成後インポートを行ってください。
Import File Too Big	「インポートファイルが大きすぎます。」 **"CD"** メニュー画面の **"CD-DA IMPORT"** 項目でインポートを実行する際、インポートするファイル容量がSDカードの空き容量以上であった場合に表示されます。 操作履歴を消去するなどでSDカード上の空き容量を増やし、SDカード上にインポートファイルを読み込めるだけの空き容量を確保してください。
Invalid CD Insert Backup CD	「無効なCD-R ／ CD-RWディスクがセットされています、バックアップCDをセットしてください。」 **"CD"** メニュー画面の **"CD RESTORE"** 項目で、バックアップデータが書き込まれていないCD-R ／ CD-RWディスクがセットされている場合に表示されます。 バックアップデータが書き込まれたCD-R ／ CD-RWディスクをセットしてください。
Invalid CD Insert Blank CD	「無効なCD-R ／ CD-RWディスクがセットされています、ブランクＣＤをセットしてください。」 **"CD"** メニュー画面の **"MASTER WRITE"** 項目または **"CD BACKUP"** 項目で、CD-R ／ CD-RWディスクへの書き込みを行う際、ブランクＣＤ以外のCD-R ／ CD-RWディスクがセットされている場合に表示されます。（トラック•アット•ワンスで書き込みを行う場合は、ファイナライズ済みのCD-R ／ CD-RWディスクがセットされた場合もこのポップアップメッセージメッセージが表示されます。） ブランクＣＤをセットしてください。
Invalid CD Insert CD-RW	「無効なCD-R ／ CD-RWディスクがセットされています、CD-RWディスクをセットしてください。」 **"CD"** メニュー画面の **"ERASE"** 項目で、CD-Rディスクがセットされた場合に表示されます。消去したいCD-RWディスクをセットしてください。
Invalid CD Insert Opened CD	「無効なCD-R ／ CD-RWディスクがセットされています、未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクをセットしてください。」 **"CD"** メニュー画面の **"FINALIZE"** 項目で、ファイナライズできないCDがセットされた場合に表示されます。ファイナライズしたいCD-R ／ CD-RWディスクをセットしてください。
Low Capacity Insert Blank CD	「容量の少ないCD-R ／ CD-RWディスクがセットされました、適正な容量のブランクCDをセットしてください。」 複数のディスクに書き込みを行うときに、セットしたブランクCDの容量が一枚目のディスクの容量より小さい場合に表示されます。 ・オーディオCDをディスク・アット・ワンスで作成するときに、同じ内容のオーディオCDを複数枚作成するとき ・ソングをCD-R ／ CD-RWディスクにバックアップするのに複数枚のディスクが必要なとき （たとえば、最初の書き込み時にCD-RWディスクの容量が700MB ／データ容量が650MBで書き込みを実行し、書き込み終了後 **"Another CD?"** 表示の後、640MBのCD-RWディスクをセットした場合などに表示されます。） 1枚目と同じ容量のブランクＣＤをセットしてください。

メッセージ	内容と対処方法
No disc Insert Backup CD	「バックアップCDがセットされていません、バックアップCDをセットしてください。」 **"CD"**メニュー画面の**"CD RESTORE"**項目で、バックアップCDがディスクトレーにない場合に表示されます。 バックアップデータが書き込まれたCD-R ／ CD-RWディスクをセットしてください。
No disc Insert Blank CD	「CD-R ／ CD-RWディスクがセットされていません、ブランクCDをセットしてください。」 **"CD"**メニュー画面の**"MASTER WRITE"**項目でCD-R ／ CD-RWディスクへの書き込みを行う際、CD-R ／ CD-RWディスクがディスクトレーにない場合に表示されます。また、**"CD BACKUP"**項目でバックアップ準備完了後、ディスクトレーがオープンされた場合に表示されます。 ブランクＣＤをセットしてください。 ブランクＣＤをセットし、ディスクトレーをクローズしてください。
No disc Insert Opened CD	「CD-R ／ CD-RWディスクがセットされていません、未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクをセットしてください。」 **"CD"**メニュー画面の**"FINALIZE"**項目で、CD-R ／ CD-RWディスクがディスクトレーにない場合に表示されます。
No Room On CD Press HOME	「CD-R ／ CD-RWディスクの容量以上のデータが書き込まれようとしました、メニューを抜けてください」 **"CD"**メニュー画面の**"MASTER WRITE"**項目でCD-R ／ CD-RWディスクへの書き込みを開始時、指定したステレオマスタートラックの合計容量がセットされたCD-R ／ CD-RWディスクの容量以上になった場合に表示されます。 HOMEボタンを押して**"CD"**メニュー画面を抜け、再度書き込むトラックの指定を行ってください。
Not Audio CD Insert Audio CD	「オーディオCDではないCDがセットされています。オーディオCDをセットしてください。」 **"CD"**メニュー画面の**"CD-DA IMPORT"**項目でインポートを行う際、オーディオCDではないディスクがセットされている場合に表示されます。 オーディオCDをセットしてください。
Not Blank Insert Blank CD	「未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクがセットされています、ブランクCDをセットしてください。」 オーディオCDをディスク•アット•ワンスで作成しようとしたとき、トラック•アット•ワンスで書かれて未ファイナライズのCD-R ／ CD-RWディスクがセットされている場合に表示されます。 ブランクＣＤをセットするか、トラック•アット•ワンスで書き込みを行ってください。
Wrong Order InsertBackup CD	「バックアップＣＤの順番が間違っています、適正な順番のバックアップＣＤをセットしてください。」 **"CD"**メニュー画面の**"CD RESTORE"**項目で複数枚のバックアップＣＤをリストア中、バックアップCDの順番を間違えてセットした場合に表示されます。 適正な順番のバックアップCDをセットしてください。

CDに関するエラーメッセージ

CDの読み取り／書き込みエラーなどにより、ＣＤ関連作業に問題があった場合に、以下のポップアップメッセージが表示されます。
表示された場合は、HOMEボタンを押して**"CD"**メニュー画面から抜け、ディスクの状態などを確認後、作業を最初からやり直してください。

メッセージ	内容と対処方法
Backup Error Press HOME	**"CD"**メニュー画面の**"CD BACKUP"**項目を実行の過程でエラーが発生しました。
CD Read Error Press HOME	**"CD"**メニュー画面の**"FINALIZE"**項目、**"CD BACKUP"**項目、**"CD RESTORE"**項目、**"CD-DA IMPORT"**項目、**"ERASE"**項目を実行の過程でCDの読み込みエラーが発生しました。
CD Write Error Press HOME	**"CD"**メニュー画面の**"FINALIZE"**項目、**"CD BACKUP"**項目、**"ERASE"**項目を実行の過程でエラーが発生しました。
Erase Error Press HOME	**"CD"**メニュー画面の**"ERASE"**項目を実行の過程でエラーが発生しました。
Finalize Error Press HOME	**"CD"**メニュー画面の**"FINALIZE"**項目を実行の過程でエラーが発生しました。
Import Error Press HOME	**"CD"**メニュー画面の**"CD-DA IMPORT"**項目を実行の過程でエラーが発生しました。
Media Error Press HOME	**"CD"**メニュー画面の**"CD PLAYER"**項目を実行の過程で、CDにエラーが発生しました。
Restore Error Press HOME	**"CD"**メニュー画面の**"CD RESTORE"**項目を実行の過程でエラーが発生しました。
Writing Failed Press HOME	**"CD"**メニュー画面の**"MASTER WRITE"**項目を実行、CD-R ／ CD-RWディスクへの書き込み過程でエラーが発生しました。

定格

記録メディア
SDカード（512MB ～ 2GB）
SDHCカード（4GB ～ 32GB）

ファイルシステム
MTRパーティション：TASCAMオリジナル
FATパーティション：FAT32

内蔵マイク
無指向 x2

オーディオ入出力定格

INPUT A端子
● XLR タイプ [BALANCED]
コネクター：XLR-3-31
（1：GND、2：HOT、3：COLD）
入力インピーダンス：2.4kΩ
規定入力レベル：－16dBu
最大入力レベル：0dBu

● 標準ジャックタイプ [BALANCED]
コネクター：6.3mm（1/4”）TRS標準ジャック
入力インピーダンス：
10kΩ以上（INPUT A切換スイッチを**MIC/ LINE**に設定時）
1MΩ（INPUT A切換スイッチを**GUITAR**に設定時）
規定入力レベル：+4dBu
最大入力レベル：+24dBu
ヘッドルーム：20dB

INPUT B端子
● XLR タイプ [BALANCED]
コネクター：XLR-3-31
（1：GND、2：HOT、3：COLD）
入力インピーダンス：2.4kΩ
規定入力レベル：－16dBu
最大入力レベル：0dBu

● 標準ジャックタイプ [BALANCED]
コネクター：6.3mm（1/4”）TRS標準ジャック
入力インピーダンス：10kΩ以上
規定入力レベル：+4dBu
最大入力レベル：+24dBu
ヘッドルーム：20dB

LINE OUT端子
コネクター：RCA ピンジャック
規定出力レベル：－10dBV
最大出力レベル：+6dBV

PHONES端子
コネクター：3.5mm ステレオミニジャック
最大出力レベル：40mW+40mW 以上
（THD+N 0.1%以下、32Ω負荷）

コントロール入出力定格

USB端子
コネクター：USB Mini-Bタイプ 4ピン
フォーマット：USB 2.0 HIGH SPEEDマスストレージクラス

REMOTE端子
コネクター：2.5mmTSジャック

オーディオ性能

周波数特性
INPUT（MIC/LINE）→LINE OUT：20Hz～20kHz、+1dB/－3dB

歪率
INPUT（MIC/LINE）→ LINE OUT：0.01%以下

S/N 比
INPUT（MIC/LINE）→ LINE OUT：90dB以上

動作条件

最新の対応OS状況については、TASCAMのウェブサイト（**http://www.tascam.jp/**）ご確認ください。

Windows
Pentium 300MHz以上
128MB以上のMemory
USBポート（推奨：USB2.0）

Macintosh
Power PC、iMac、G3、G4 266MHz以上
64MB以上のMemory
USB ポート（推奨：USB2.0）

推奨USBホストコントローラー
Intel製チップセット

サポートOS
Windows：Windows XP、Windows Vista、Windows 7
Macintosh：Mac OS X 10.2以上

一般

電源
専用ACアダプター（TASCAM PS-1225L）

消費電力
10W（ファントム電源オン使用時）

外形寸法
290 x 54.1 x 207.2mm（幅 x 高さ x 奥行き、突起物を除く）

質量
1.8kg

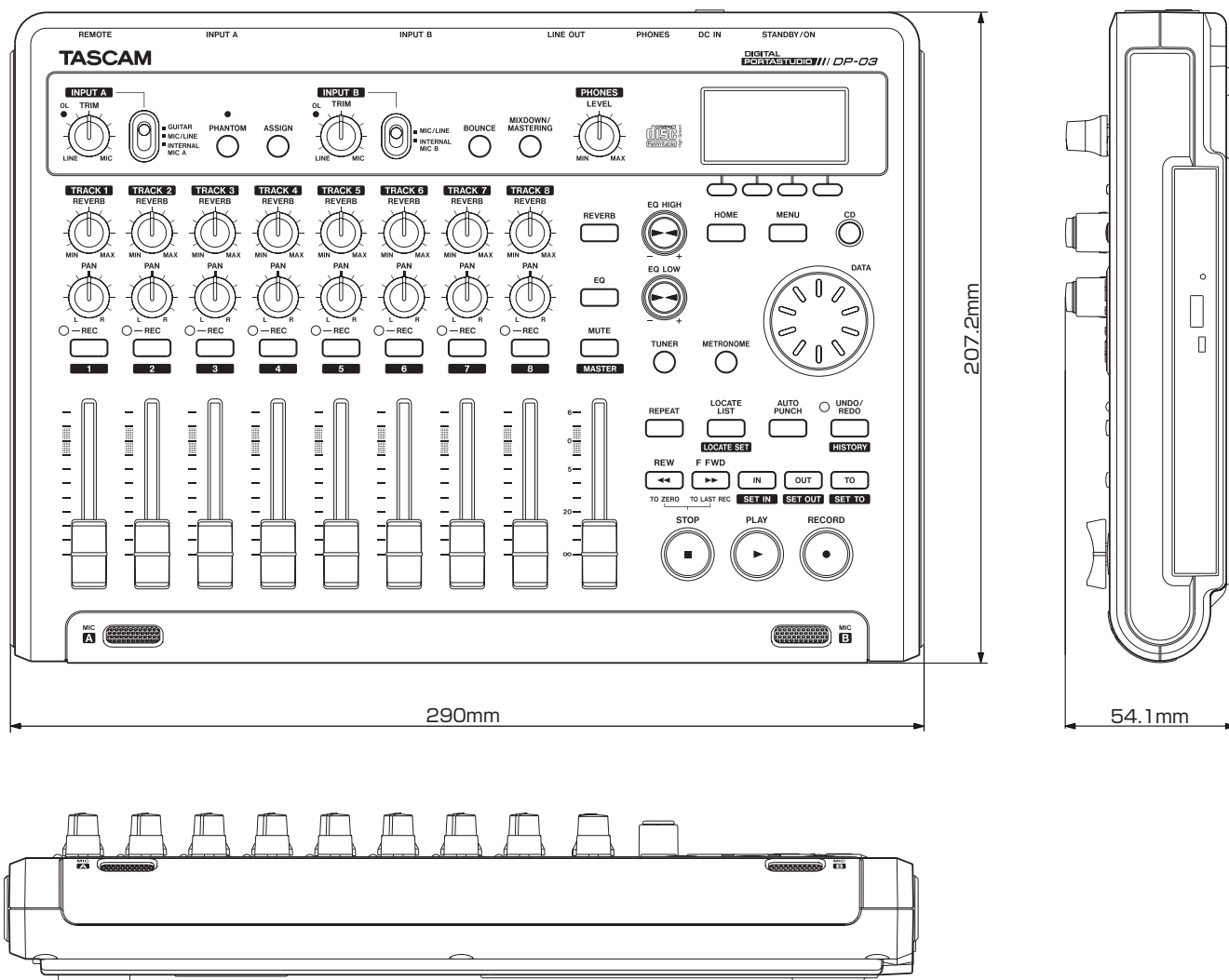
動作温度
5 ～ 35℃

バックアップメモリー

本機は電源をオフにしても、以下の設定をバックアップします。

PREFERENCE項目

- Repeat Int
- Contrast
- Foot SW L/C/R

寸法図

＊ 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

＊ 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

ブロックダイヤグラム

LINE OUT
PHONES
Stereo L
Stereo R
D/A
D/A
STEREO METER
MASTER LEVEL
Fx
(Reverb/
EQ/
Multi COMP)
REC MODE
Multi/
Bounce/
MixDown
Mastering
REVERB LEVEL
ST
L
R
Fx SEND
L
R
METRONOME
ON
METRONOME
Input A
(to INPUT ASSIGN)
Input B
(to INPUT ASSIGN)
2BAND EQ
Tuner
TUNER
On
OL
A/D
TRIM
IN A
GUITAR
LINE/MIC
INT MIC
IN B
LINE/MIC
INT MIC
PHANTOM
+48V
MIC A
INPUT A
MIC B
INPUT B
INTERNAL MIC
TRACK 1-8
PAN
REVERB
LEVEL
2BAND EQ
TRACK MUTE
OFF
ON
METER
PLAY
TRACK
REC
REC FUNCTION
OFF(PLAY)
ON(PLAY)
ON(REC)
MASTER TRACK L/R
REC MODE
Mastering
Multi/
Bounce/
MixDown
MixDown
Multi/
Bounce/
Mastering
odd Track
even Track
Mulit /
Bounce
MixDown/
Mastering
INPUT ASSIGN
Mulit
Bounce/
MixDown/
Mastering
A
B
Input A
Input B
Stereo L
Stereo R

第 18 章　こんなことをするには

以下に、パネルを見ただけではやり方がわからないような機能の操作方法を一覧表にまとめます。83ページ「第16章 メッセージ」と合わせてご利用ください。

- ボタン名称は、REPEATのように表記します。
- STOP＋ ◀◀のような表記は、「STOP【■】ボタンを押しながらREW【◀◀】[TO ZERO] ボタンを押す」という意味です。
- 「MENUボタンを押し、**"MENU"** 画面から **"CARD"** メニューを選択し、**"CARD"** メニューの中から **"FORMAT"** 項目を選択する」という操作を「MENU⇨**CARD**⇨**FORMAT**」のように表記します。
- 複雑な操作の場合は、全部の操作は表記されていません。

こんなことをしたい	操作方法、使用するボタン	詳しくはこちら
CD-R ／ CD-RWディスクにデータをバックアップ（保存）したい	CD⇨**CD BACKUP**	「CD-R ／ CD-RWディスクにソングデータをバックアップする」（78ページ）
CD-R ／ CD-RWディスクにバックアップしたデータからリストア（復元）させたい	CD⇨**CD RESTORE**	「CD-R ／ CD-RWディスクからソングをリストアする」（79ページ）
EQのゲインや周波数を変えたい	EQ	「INPUT EQを使う」（40ページ） 「TRACK EQ（イコライザー）」（53ページ）
FATパーティションをフォーマットしたい	MENU⇨**CARD**⇨**FAT REFORMAT**	「FATパーティションを再フォーマットする」（64ページ）
IN、OUT、TOポイントにロケートしたい	IN、OUT、TOを押す	「IN ／ OUT ／ TO ポイントを設定する」（46ページ）
IN、OUT、TOポイントを設定したい	IN、OUT、TOを長押しする	「IN ／ OUT ／ TOポイントを設定する」（46ページ）
IN、OUT、TOポイントを編集したい	LOCATE LIST、F3 （マークが存在しないときはF3は不要）	「IN ／ OUT ／ TOポイントを設定する」（46ページ）
INPUT A ／ Bをアサインするトラックを変更したい	ASSIGN	「入力をアサインする」（39ページ）
MTRパーティションをフォーマットしたい	MENU⇨**CARD**⇨**REFORMAT**	「MTRパーティションを再フォーマットする」（64ページ）
SDカードの全領域をパソコンで使用可能にしたい	MENU⇨**CARD**⇨**SD INITIALIZE**	「SDカードを初期化（イニシャライズ）する」（65ページ）
SDカードをフォーマットしたい	MENU⇨**CARD**⇨**FORMAT**	「SDカードをフォーマットする」（63ページ）
USB接続を有効にしたい	本機とパソコンをUSBケーブルで接続します	「パソコンと接続する」（66ページ）
USB接続を解除する	本機をパソコンから切断します	「接続を解除する」（67ページ）
WAVファイルをトラックにインポートしたい（FAT領域から）	MENU⇨**IMPORT/EXPORT**⇨**IMPORT TRACK**	「トラックにインポートする」（69ページ）
アンドゥした操作を取り消したい	UNDO/REDO	「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」（41ページ）
オーディオCDからオーディオファイルを取り込みたい	CD⇨**CD-DA IMPORT**	「オーディオCDから曲をインポートする」（77ページ）
オーディオCDを聴きたい	CD⇨**CD PLAYER**	「オーディオCDを再生する」（74ページ）
書き込み済みのCD-RWディスクを消去したい	CD⇨**ERASE**	「CD-RWディスクを消去する」（79ページ）
ギターや管楽器をチューニングしたい	TUNER	「チューナー機能」（61ページ）
ギターを録音したい	INPUT AスイッチをGUITARにする	「入力ソースを選択する」（38ページ）
作成したステレオマスタートラックを聞きたい	MIXDOWN/MASTER x 2回	「ステレオマスタートラックを確認する」（56ページ）
新規ソングを作成したい	MENU⇨**SONG**⇨**CREATE**	「新しいソングを作成する」（35ページ）
ステレオマスタートラックにEQ（イコライザー）をかけたい	MIXDOWN/MASTERING x2回⇨F1	「ステレオマスタートラックを仕上げる（マスタリング）」（56ページ）
ステレオマスタートラックにコンプレッサーをかけたい	MIXDOWN/MASTERING x2 回⇨F2	「ステレオマスタートラックを仕上げる（マスタリング）」（56ページ）
ステレオマスタートラックの音量を最大化したい（ノーマライズ）	MIXDOWN/MASTERING x2 回⇨F3	「ステレオマスタートラックを仕上げる（マスタリング）」（56ページ）
ステレオマスタートラックをCD-R ／ CD-RWディスクに焼きたい	CD⇨**MASTER WRITE**	「オーディオCDを作成する」（75ページ）

こんなことをしたい	操作方法、使用するボタン	詳しくはこちら
ステレオマスタートラックを作成したい	MIXDOWN/MASTERING	「ステレオマスタートラックを作成する」（55ページ）
ステレオマスタートラックをパソコンにエクスポートしたい	MENU⇨**IMPORT/EXPORT**⇨**EXPORT MASTER**	「ステレオマスタートラックをエクスポートする」（71ページ）
操作を取り消して、以前の状態に戻りたい	UNDO/REDO	「実行した操作を取り消す（アンドゥ）」（41ページ）
ソングに名前（タイトル）を付けたい（編集したい）	MENU⇨**SONG**⇨**NAME EDIT**	「名前の編集」（34ページ）
ソングのプロテクトを解除したい	MENU⇨**SONG**⇨**PROTECT**	「ソングをプロテクトする」（37ページ）
ソングの名前（タイトル）を見たい	MENU⇨**INFORMATION**	「情報を見る」（62ページ）
ソングをコピーしたい	MENU⇨**SONG**⇨**COPY**	「ソングをコピーする」（36ページ）
ソングを削除（消去）したい	MENU⇨**SONG**⇨**ERASE**	「ソングを消去する」（37ページ）
ソングをバックアップしたい	MENU⇨**DATA BACKUP**⇨**SONG BACKUP**	「ソングのバックアップとリストア」（67ページ）
ソングをプロテクトしたい	MENU⇨**SONG**⇨**PROTECT**	「ソングをプロテクトする」（37ページ）
ソングを保存したい	MENU⇨**SONG**⇨**SAVE**	「ソングを保存する」（35ページ）
ソングをロードしたい	MENU⇨**SONG**⇨**LOAD**	「ソングをロードする」（34ページ）
ディスプレーのコントラストを変更したい	MENU⇨**PREFERENCE**	「コントラストを調節する」（33ページ）
トラック全体を消去したい	MENU⇨**TRACK EDIT**⇨**CLEAN OUT**	「クリーンアウト（トラック削除）」（52ページ）
トラック内に無音パートを挿入したい	MENU⇨**TRACK EDIT**⇨**OPEN**	「オープン（無音挿入）」（51ページ）
トラックにEQ（イコライザー）をかけたい	EQ	「TRACK EQ（イコライザー）」（53ページ）
トラックの一部をカットして詰めたい	MENU⇨**TRACK EDIT**⇨**CUT**	「カット（部分削除）」（52ページ）
トラックの一部を無音にしたい	MENU⇨**TRACK EDIT**⇨**SILENCE**	「サイレンス（部分消去）」（52ページ）
トラックの再生音をミュートしたい	MUTE	「トラックのミュート」（54ページ）
トラックを複製したい	MENU⇨**TRACK EDIT**⇨**CLONE TRACK**	「クローントラック（トラック複製）」（52ページ）
トラックの内容をパソコンにエクスポートしたい	MENU⇨**IMPORT/EXPORT**⇨**EXPORT TRACK**	「トラックをエクスポートする」（70ページ）
トラックバウンスをやりたい	BOUNCE	「トラックバウンス」（44ページ）
内蔵マイクを使いたい	INPUT A ／ B スイッチを INTERNAL MIC A ／ B にする	「入力ソースを選択する」（38ページ）
入力音にEQ（イコライザー）をかけたい	EQ	「INPUT EQ（イコライザー）を使う」（40ページ）
パソコンからソングをリストアしたい	MENU⇨**DATA BACKUP**⇨**SONG RESTORE**	「ソングのバックアップとリストア」（67ページ）
ファントム電源を使いたい	PHANTOM	「ファントム電源について」（38ページ）
別のトラックにピンポン（バウンス）したい	BOUNCE	「トラックバウンス」（44ページ）
メトロノームの設定をしたい	METRONOME	「メトロノーム機能」（60ページ）
メトロノームを使いたい	METRONOME	「メトロノーム機能」（60ページ）
リピート再生時の間隔（リピートインターバル）を変更したい	MENU⇨**PREFERENCE**	「リピート再生の間隔を設定する」（48ページ）
リバーブをかけたい	REVERB	「リバーブ」（53ページ）
録音残時間を知りたい	MENU⇨**INFORMATION**	「情報を見る」（62ページ）
ロケートマークを設定したい	LOCATE LISTを長押しする	「ロケートマーク」（45ページ）
ロケートマークを編集したい	LOCATE LIST⇨マーク選択⇨F2[EDIT]	「ロケートマーク」（45ページ）
ロケートマークを削除したい	LOCATE LIST⇨マーク選択⇨F2[EDIT]⇨F2[DEL]	「ロケートマーク」（45ページ）
ロケートマークにロケートしたい	LOCATE LIST⇨マーク選択⇨F4[JUMP]	「ロケートマーク」（45ページ）

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00〜12:00 ／ 13:00〜17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 ／ FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30〜17:00です。

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田 858

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。
このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 ／ FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47
http://www.tascam.jp/

Printed in China